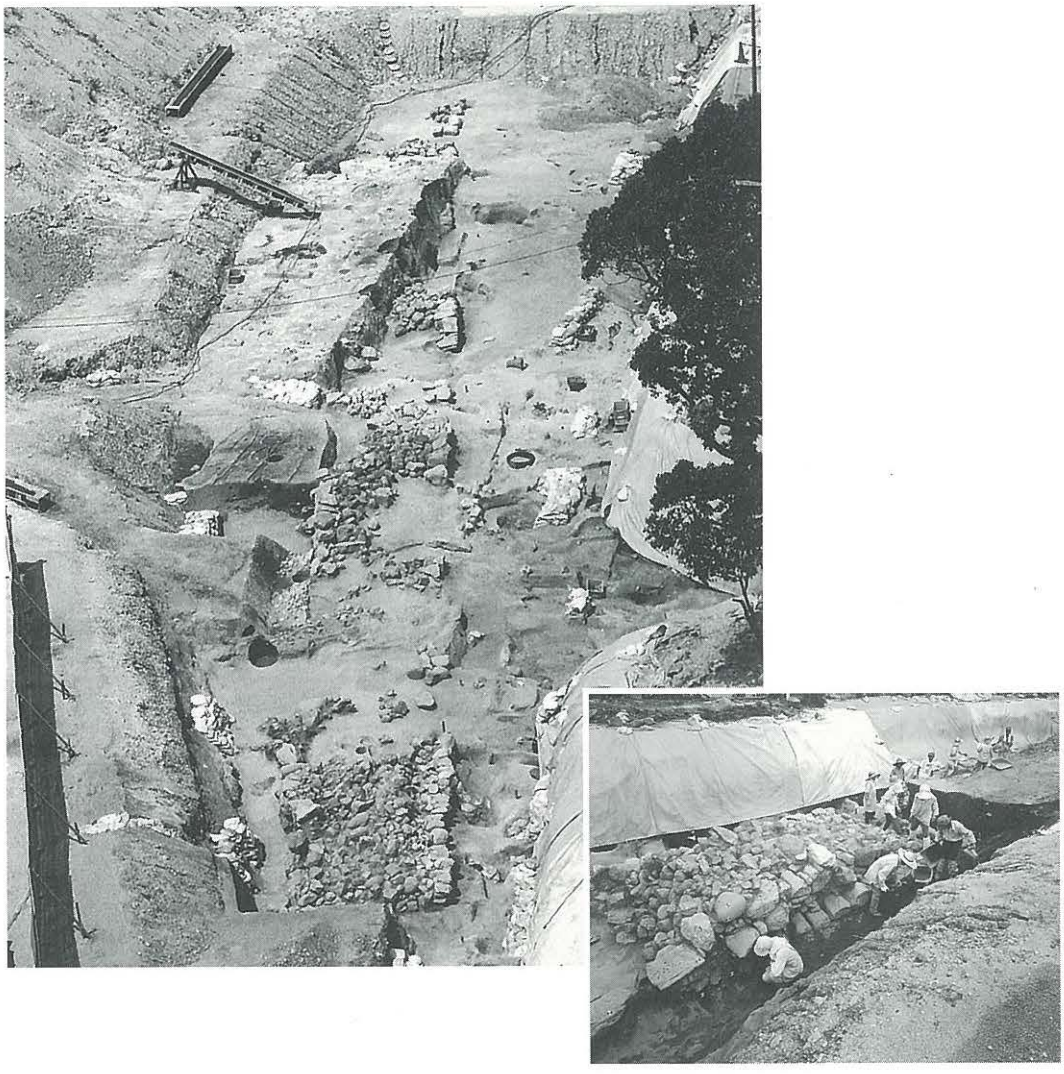
福岡市埋蔵文化財年報
VOL.14

—平成11年(1999)度版—



2001

福岡市教育委員会

序

福岡市においては、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適正な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、重要遺跡確認調査等を実施しております。

平成11年度は、数年来の長引く不況下で開発事業の相対的な減少傾向があったものの、道路や下水道整備等の都市基盤整備を中心とした公共事業や、民間の専用住宅建設等の小規模な開発事業に起因する埋蔵文化財の保存に係る事前協議、及び審査受付件数、ならびに緊急調査はほぼ例年どおりの件数を数えました。これは、埋蔵文化財の周知化が進むとともに、開発関係各位の文化財保護に対するご理解が深められつつある状況を示していると思われます。

本書は、平成11年度における埋蔵文化財保護行政の概要報告です。本書が文化財保護のより一層のご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

平成13年３月30日

福岡市教育委員会
教育長　生 田 征 生

例　言

・本書は、平成11年度に教育委員会埋蔵文化財課が実施した事業のうち、開発事業に伴う事前審査概要と発掘調査の概要報告、本報告、及び文化財整備課が所管した新指定文化財の概要を収録したものである。

・本書に記載ある報告のうち、調査番号9918・9945・9965・9974については、この年報をもって、本報告とする。また、9911・9979は掲載していない。その他については別途、本報告書が刊行される予定または、刊行済であり、刊行年度はそれぞれの文末に記載している。

・本書の編集は、各担当者の協力を得て田中壽夫が行った。
　なお、Ⅱ．各調査概要報告は各調査担当者が分担執筆し、Ⅰ・Ⅲについては田中が執筆した。

目　次

Ⅰ．開発事前審査……1
　1）平成11年度の概要……1
　2）試掘調査一覧……2
Ⅱ．発掘調査の概要……17
　1）平成11年度の概要……17
　2）発掘調査一覧……18
　3）各調査の概要及び調査報告……22
Ⅲ．平成11年度指定文化財……105
　附録　平成11年度刊行報告書一覧……107

平成11年度文化財部の組織と事務分掌

- 文化財部
  - 埋蔵文化財課
    - 調査第1係：課の庶務及び西部地区（早良・城南・西区内）の開発事業に係る埋蔵文化財発掘調査
      - （主任文化財主事）
    - 調査第2係：国庫補助事業及び東部地区（東・博多・中央・南区内）の開発事業に係る埋蔵文化財発掘調査
      - （主任文化財主事）
    - 事前審査係：公共及び民間開発事業に係る埋蔵文化財の事前審査
      - （主任文化財主事）
  - 課長（大規模事業等担当）
    - 主査：大規模事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
  - 文化財整備課
    - 管理係：部の総括、課の庶務・経理及び文化財の管理
    - 整備係：文化財の調査・指定・整備
    - 主査：文化財調査等
  - 課長（鴻臚館跡調査担当）
    - 主査：鴻臚館跡の調査
  - 埋蔵文化財センター
    - 管理係：施設の管理・運営、考古学的資料の保存・展示
    - （主任文化財主事）：考古学的資料の調査・整理・管理

埋蔵文化財課及び大規模事業等担当（課）の職員構成

●埋蔵文化財課長　山崎純男
調査第1係長　山口譲治
主任文化財主事　飛高憲雄　井澤洋一　米倉秀紀
係員（文化財主事）　池田祐司　屋山　洋　久住猛雄　大塚紀宜　星野恵美
藏富士寛　阿部泰之
調査第2係長　力武卓治
主任文化財主事　大庭康時
係員（文化財主事）　瀧本正志　佐藤一郎　長家　伸　屋山　洋
榎本義嗣　田上勇一郎　井上繭子　本田浩二郎　上角智希
事前審査係長　田中壽夫
主任文化財主事　杉山富雄
係員（文化財主事）　宮井善朗　中村啓太郎　加藤隆也
●課長（大規模事業等担当）二宮忠司
主査　松村道博
係員（文化財主事）　吉留秀敏　菅波正人　松浦一之介

Ⅰ．開発事前審査

土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、福岡市文化財分布地図を基本資料とし、これまでの発掘調査及び試掘調査等の成果を参考にしながら、書類審査・現地踏査・試掘調査等を実施し、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認した上で、保存に係わる協議等を行っている。

公共事業については、次年度予定の事業計画の照会を行い、市域内で実施予定の公共事業計画を全般的に把握し、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて関係機関・部局に協議を求めている。民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また、開発業者や、不動産取引関係者、一般市民等の分布地図閲覧や埋蔵文化財に係る計画策定段階での照会にも窓口で応じ、埋蔵文化財の保存上の問題について協議するとともに、必要な指示を行っている。

1)平成11年度の概要

平成11年度の公共及び民間開発事業等に伴う事前審査申請件数は、公共事業978(106)件、民間事業1034件の計2012(139)件であった。また、事前審査窓口における埋蔵文化財の有無に係わる照会等は2824件であった。

事業別では、新規受付件数で見ると公共事業が昨年度と比較して29.4％増加、民間事業は57.4％増えている。

全市的には都心部の博多区及び西部地区に申請件数が偏る傾向がある。各区別にみると、早良区の432件が最も多く、西区の395件、次に博多区が380件となる。東区は252件で昨年に比較し96.8％増加している。中央区は約２倍となっている。下水道敷設等の公共事業の増加によるものである。城南区は昨年度とほぼ同じである。

事前審査の内訳をみると、申請件数の36.6％にあたる737件が書類審査の結果、埋蔵文化財に影響がないと判断された。試掘調査は378件について実施した。開発による影響によって保存上問題があり、本格的な調査が必要と判断されたのは95件である。その他については慎重工事、工事立会で対処した。

なお、窓口における照会は不動産売買取引に伴うものがここ数年多くなっており、周知化が今後進むにつれその傾向がさらに高まっていくものと思われる。

表１．事前審査件数の推移　（当該年度新規受付件数）

	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
民　間	478	560	561	566	674	872
公　共	640	739	899	689	636	1001
合　計	1,118	1,299	1,460	1,255	1,310	1,873

表２．試掘実施内訳

内　訳		件数	内　訳 11年度	内　訳 過年度
試掘	実施後判断済	374	310	64
	実施後協議中	4	4	0
	未実施	91	78	13
	計	469	392	77

表３．平成11年度事前審査内訳　（）内の数字は過年度受付数

区名	事業種別	審査種別（書類審査・現地踏査・試掘調査）で見た判断指示の結果 開発に同意する 書類	踏査	試掘	慎重に工事 書類	踏査	試掘	工事に立会う 書類	踏査	試掘	本格調査が必要 書類	踏査	試掘	審査継続	重複審査	処理保留	取り下げ	審査受付合計 事業種別計	11年度	過年度	窓口照会小計
東区	公共	106	0	4	7	0	4	5	0	0	1	0	1	13	0	0	0	141	252	(19)	
	民間	27	2	5	44	2	15	3	1	1	2	0	1	7	0	0	1	111	(21)	(2)	422
南区	公共	60	0	5	12	0	7	3	0	0	2	0	6	6	0	0	0	101	245	(16)	
	民間	19	2	5	71	5	20	5	4	0	0	0	7	0	3	1	2	144	(17)	(1)	462
博多区	公共	66	0	3	40	0	7	6	0	0	7	0	5	12	0	0	1	147	380	(25)	
	民間	24	2	8	63	5	57	9	2	8	4	0	25	13	0	0	13	233	(33)	(8)	608
中央区	公共	88	0	1	4	0	5	12	0	0	0	0	0	1	0	0	0	111	146	(5)	
	民間	11	1	3	5	1	4	2	0	1	0	0	0	3	2	0	2	35	(5)	(0)	438
城南区	公共	50	0	1	3	0	2	2	0	0	1	0	1	10	0	0	1	71	162	(14)	
	民間	21	0	8	32	4	11	4	4	1	0	0	2	1	0	2	1	91	(19)	(5)	222
早良区	公共	97	0	1	57	1	12	7	0	0	1	0	1	9	0	0	0	186	432	(13)	
	民間	34	1	11	103	7	45	9	2	8	1	1	8	7	2	3	4	246	(28)	(15)	388
西区	公共	116	1	5	35	1	5	34	0	0	6	0	5	13	0	0	0	221	395	(14)	
	民間	18	5	3	81	13	25	8	1	5	1	0	6	4	0	1	3	174	(16)	(2)	263
小計	公共	583	1	20	158	2	42	69	0	0	18	0	19	64	0	0	2	978	2012	(106)	記載漏
	民間	154	13	43	399	37	177	40	14	24	8	1	49	35	7	7	26	1034	(139)	(33)	21
合計		737	14	63	557	39	219	109	14	24	26	1	68	99	7	7	28	2012	1873	(139)	2824

2）試掘調査一覧

（1）　東　　区　（その1）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試掘結果	判断指示
1	11-206	7 1 50		東区箱崎1丁目他	80,000.0	区画整理	34	2639	箱崎遺跡	99.10.15	遺構有り	要本調査
2	11-112	9 1 2089		東区松島1丁目	1,100.0	下水道施設整備	33・34	—	包蔵地外	99.07.14	遺構なし	慎重工事
3	11-146	10 1 288	99/07/16	東区原田4丁目150	34,000.0	公園整備	19・20	—	包蔵地外	99.08.04	遺構なし	開発同意
4	11-104	11 1 218	99/06/11	東区奈多1302-47	46,000.0	淡水化施設	44	—	包蔵地外	99.07.07	遺構なし	開発同意
5	11-150	11 1 234	99/08/03	東区大字西戸崎字塩屋3-21	197,000.0	公園整備	57	—	包蔵地外	99.09	遺構なし	開発同意
6	11-198	11 1 262	99/08/24	東区馬出3丁目1-1	170.0	団地施設整備	47	116	元寇防塁隣接	99.10.04	遺構なし	慎重工事
7	11-187	11 1 263	99/08/24	東区和白1丁目地内	10.0	道路改良	29	113	唐原遺跡群	99.10.04	遺構なし	慎重工事
8	11-249	11 1 724	99/11/17	東区馬出3丁目434-1	10,311.5	未定	34・41	116	元寇防塁近接	99.11.24	遺構なし	慎重工事
9	11-352	11 1 1016	00/02/07	東区蒲田2丁目890-1他	6,609.3	下水道	2・8	—	包蔵地外	00.03.01	遺構なし	開発同意
10	11-053	11 2 8	98/12/28	東区和白丘3丁目689-1	2,996.5	共同住宅	28	—	包蔵地外	99.04.23・5	遺構なし	開発同意
11	11-002	10 2 490	99/01/19	東区箱崎3丁目3276-2・33	289.3	店舗付共同住宅	34	2639	箱崎遺跡	99.04.06	遺構なし	慎重工事
12	11-035	10 2 516	99/03/15	東区名島3丁目2438-39	175.9	専用住宅	32	115	名島城跡	99.05.13	遺構有り	慎重工事
13	11-049	10 2 636	99/04/05	東区箱崎1丁目2556-1・25	407.7	専用住宅	34	2639	箱崎遺跡群	99.05.19	遺構有り	慎重工事
14	11-100	11 2 69	99/04/30	東区箱崎2丁目3043-26・-50・-51	557.0	専用住宅	34	—	包蔵地外	99.07.02	遺構なし	開発同意
15	11-382	11 2 112	99/05/18	東区箱崎1丁目2513-2	201.0	専用住宅建築	34	2639	箱崎遺跡	99.06.29	遺構有り	慎重工事
16	11-095	11 2 139	99/05/26	東区美和台3丁目915-13他14	1,878.1	共同住宅建築	28		包蔵地外	99.07.01	遺構なし	開発同意
17	11-134	11 2 155	99/06/01	東区青葉7丁目888-136	297.0	専用住宅建築	8	17	土井遺跡群	99.07.06	遺構なし	慎重工事
18	11-110	11 2 167	99/06/03	東区和白丘1丁目348-1	16,345.0	工場・事務所建替	14・15	—	包蔵地外	99.07.08	遺構なし	開発同意
19	11-143	11 2 314	99/07/30	東区箱崎2丁目3075	185.0	専用住宅建築	34	—	包蔵地外	99.08.05	遺構なし	開発同意
20	11-168	11 2 362	99/08/23	東区和白1丁目1500-1	1,983.0	売買(共同住宅)	29	113	唐ノ原遺跡群	99.8.24・9.7	遺構なし	慎重工事
21	11-349	11 2 387	99/08/31	東区大字勝馬字前田945,946-1	398.0	専用住宅建築	96	474	勝馬遺跡群	99.09.30	遺構なし	慎重工事
22	11-281	11 2 414	99/09/10	東区青葉3丁目434-1,435	5,519.9	宅地造成	7	2621	青葉台遺跡	99.10.08	遺構有り	工事立会
23	11-193	11 2 436	99/09/17	東区箱崎2丁目3074,3074-2	399.3	専用住宅建築	34	116	元寇防塁	99.09.28	遺構なし	慎重工事
24	11-303	11 2 438	99/09/20	東区箱崎1丁目1913-24	52.4	店舗付住宅建築	34	2639	箱崎遺跡	99.10.25	遺構なし	慎重工事
25	11-243	11 2 586	99/11/01	東区舞松原6丁目60-695	152.3	専用住宅建築	18	72	多々良大牟田	99.11.18		慎重工事

（1）　東　　区　（その２）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試　掘結　果	判　断指　示
26	11-252	11　2　587	99/11/02	東区香椎３丁目1033-1の一部	214.6	専用住宅建築	17	69	香椎Ａ遺跡	99.11.18	遺構なし	慎重工事
27	11-252	11　2　588	99/11/02	東区香椎３丁目1033-1の一部	171.4	専用住宅建築	17	69	香椎Ａ遺跡	99.11.18	遺構なし	慎重工事
28	11-276	11　2　703	99/12/09	東区舞松原６丁目60-701	151.6	未定	18	72	多々良大牟田	99.12.17	遺構なし	慎重工事
29	11-283	11　2　732	99/12/17	東区箱崎１丁目2480	1,147.3	共同住宅	34	2639	箱崎遺跡	00.12.21	遺構有り	要本調査
30	11-346	11　2　896	00/02/24	東区和白丘３丁目689-17,689	230.6	専用住宅建築	28	110	塚原遺跡群	00.02.29	遺構なし	慎重工事
31	11-377	11　2　946	00/03/09	東区和白丘２丁目669-9,669-10	544.0	専用住宅建築	28	110	塚原遺跡群	00.03.30	遺構なし	慎重工事

（2）　南　　区　（その１）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試　掘結　果	判　断指　示
32	11-106	10　1　69	99/06/18	南区中尾３丁目	17,750.0	道路整備	52・53	－	包蔵地外	99.07.02	遺構なし	開発同意
33	11-105	10　1　71	99/06/18	南区老司１・２丁目	1,650.0	道路整備	40	147	野多目Ｃ遺跡	99.07.02	遺構なし	慎重工事
34	11-389	10　1　277	99/09/16	南区皿山4丁目地内		道路新設	53	－	包蔵地外	99.12.08	遺構なし	開発同意
35	11-384	10　1　277	99/09/16	南区野多目地内		道路新設	40	141	野多目Ａ遺跡	99.09.08	遺構有り	要本調査
36	11-153	10　1　598	98/10/28	南区野多目５丁目	75,897.0	高等学校校舎増築	40	－	包蔵地外	99.08.11	遺構なし	開発同意
37	11-395	11　1　0		南区樋井川４丁目		道路新設	63	208	宝台遺跡群	00.2.25～4.19	遺構有り	慎重工事
38	11-396	11　1　0		南区桧原２丁目		道路新設	63	210	樋井川B遺跡	00.02.16	遺構有り	要本調査
39	11-394	11　1　0		南区春日市須玖北１丁目		道路新設	25	2811	笠抜遺跡	00.02.23	遺構有り	要本調査
40	11-386	11　1　0		南区横手南町		道路新設	25	2811	笠抜遺跡	99.10.27	遺構有り	要本調査
41	11-385	11　1　0		南区横手南町		道路新設	25	102	寺島遺跡	99.10.05	遺構有り	要本調査
42	11-390	11　1　0		南区桧原２丁目		道路新設	53・6	－	包蔵地外	99.12.15	遺構なし	慎重工事
43	11-393	11　1　0		南区桧原１丁目		道路新設	52	175	赤牟田遺跡群	00.02.16	遺構なし	慎重工事
44	11-388	11　1　0		南区花畑地区		道路新設	53	－	包蔵地外	99.11.17	遺構なし	開発同意
45	11-387	11　1　0		南区野多目・屋形原		道路新設	53	179	花畑Ｃ遺跡群	99.11.10	遺構なし	慎重工事
46	11-391	11　1　0		南区堤地内		道路新設	63	－	包蔵地外	00.01.00	遺構なし	開発同意
47	11-397	11　1　0		南区野多目１丁目（野多目小）		道路新設	40	141	野多目Ｂ遺跡	99.11.10	遺構有り	要本調査
48	11-077	11　1　220	99/06/16	南区梅林４丁目1～3	－	道路舗装工事	74		梅林遺跡	99.06.09	遺構なし	慎重工事
49	11-345	11　1　1018	00/02/10	南区中尾１丁目野多目３丁目	11,652.0	園路改良	40	－	包蔵地外	00.02.25	遺構なし	慎重工事

（2）　南　　区　（その2）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試　掘結　果	判　断指　示
50	11-022	10 2 668	99/03/29	南区老司５丁目625-22他	4,375.2	共同住宅	41	—	包蔵地外	99.04.20	遺構なし	開発同意
51	11-036	11 2 56	99/04/26	南区井尻５丁目133-9他5筆	80.0	専用住宅	25	90	井尻B遺跡群	99.05.13	遺構有り	慎重工事
52	11-038	11 2 64	99/04/27	南区井尻１丁目771-4	185.8	専用住宅	25	90	井尻B遺跡群	99.05.10	遺構有り	慎重工事
53	11-061	11 2 113	99/05/18	南区五十川２丁目102-6	116.0	共同住宅建築	24	88	五十川遺跡	99.05.28	遺構なし	慎重工事
54	11-055	11 2 116	99/05/18	南区高木２丁目320-1	1,600.0	売買	24・38	—	包蔵地外	99.05.28	遺構なし	慎重工事
55	11-057	11 2 128	99/05/21	南区弥永５丁目5-6	988.0	共同住宅建築	41	158	警弥郷Ｂ遺跡	99.06.01	遺構なし	開発同意
56	11-207	11 2 218	99/06/23	南区弥永３丁目11-3	784.0	共同住宅建築	41	158	警弥郷Ｂ遺跡	99.10.21	遺構有り	要本調査
57	11-117	11 2 219	99/06/23	南区三筑２丁目19-5	344.0	駐車場	25	104	三筑遺跡	99.10.21	遺構有り	要本調査
58	11-292	11 2 220	99/06/23	南区井尻１丁目1-362-3	368.0	共同住宅建築	25	90	井尻B遺跡群	99.12.28	遺構有り	要本調査
59	11-102	11 2 223	99/06/24	南区大平寺１丁目288-12	205.0	専用住宅建築	53	176	太平寺遺跡群	99.07.02	遺構なし	慎重工事
60	11-230	11 2 225	99/06/30	南区曰佐３丁目59-3	1,141.0	共同住宅	26	105	弥永原遺跡群	99.11.11	遺構なし	慎重工事
61	11-166	11 2 272	99/07/14	南区曰佐４丁目514-9	2,969.0	共同住宅建築	40	100	曰佐遺跡群	99.8.24・9	遺構有り	要本調査
62	11-203	11 2 285	99/07/21	南区井尻５丁目796-1	329.0	ビル建築	25	—	包蔵地外	99.10.05	遺構なし	開発同意
63	11-163	11 2 308	99/07/29	南区桧原７丁目707-1,-4,-5	1,695.1	売買(共同住宅)	64	215	桧原遺跡群	99.07.30	遺構有り	要本調査
64	11-160	11 2 337	99/08/10	南区弥永５丁目7-2の一部	198.0	専用住宅建築	41	158	警弥郷Ｂ遺跡	99.08.26	遺構なし	慎重工事
65	11-167	11 2 369	99/08/24	南区大字柏原字荒谷1118-1他	4,960.0	農地造成	65	—	包蔵地外	99.09.06	遺構なし	慎重工事
66	11-327	11 2 404	99/09/06	南区井尻１丁目755-8	84.9	専用住宅新築	25	90	井尻B遺跡群	99.11.11	遺構有り	要本調査
67	11-296	11 2 471	99/10/01	南区三宅２丁目876-1	716.3	共同住宅建築	39	139	三宅Ｂ遺跡	00.01.06	遺構なし	慎重工事
68	11-263	11 2 481	99/10/04	南区老司４丁目13-2,13-4他5等	1,302.1	事務所兼倉庫建築	40	149	老司Ｂ遺跡	99.11.30	遺構なし	慎重工事
69	11-260	11 2 489	99/10/07	南区五十川２丁目274-4	129.7	専用住宅建築	24	88	五十川遺跡	99.10.26	遺構有り	慎重工事
70	11-242	11 2 529	99/10/15	南区曰佐４丁目395-1,392-1他7	2,412.4	病院増築	40	150	上曰佐遺跡	99.11.18	遺構なし	慎重工事
71	11-265	11 2 616	99/11/08	南区老司３丁目506	2,198.0		40	147	野多目C遺跡	99.12.07	遺構なし	慎重工事
72	11-275	11 2 657	99/11/22	南区弥永２丁目1-2	1,609.4	共同住宅建築	41	151	警弥郷Ａ遺跡	99.12.16	遺構有り	慎重工事
73	11-374	11 2 680	99/11/30	南区井尻３丁目67-5外5筆	180.0	道路改修	25	103	笹原遺跡群	00.03.16	遺構なし	慎重工事
74	11-366	11 2 764	99/12/28	南区井尻３丁目67-3,67-4	398.7	建替え	25	103	笹原遺跡群	00.03.16	遺構なし	慎重工事
75	11-307	11 2 776	00/01/07	南区曰佐３丁目79-5	149.8	専用住宅建築	26	105	弥永原遺跡群	00.01.18	遺構有り	慎重工事

（2）　南　　区　（その３）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試掘実施日	試掘結果	判断指示
76	11-325	11 2 823	00/01/26	南区井尻１丁目729-1	904.6	事務所	25	90	井尻B遺跡群	00.02.01	遺構有り	要本調査
77	11-320	11 2 838	00/02/01	南区曰佐１丁目155-6・155	305.5	専用住宅	40	100	曰佐遺跡群	00.02.08	遺構有り	慎重工事
78	11-344	11 2 855	00/02/07	南区曰佐５丁目387・387-1	1,116.6	専用住宅	40	150	上曰佐遺跡	00.02.24	遺構有り	慎重工事
79	11-335	11 2 870	00/02/11	南区高宮５丁目134～142	2,167.3	共同住宅	51	—	包蔵地外	00.02.22	遺構なし	開発同意
80	11-371	11 2 900	00/02/25	南区野多目２丁目366-1,366-10	547.0	店舗(展示場)	40	141	野多目Ａ遺跡	00.03.23	遺構なし	慎重工事
81	11-372	11 2 923	00/03/03	南区野多目４丁目764-1・-2	503.5	専用住宅	40	146	野多目Ｂ遺跡	00.03.28	遺構なし	開発同意

（3）　博　多　区（その１）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試掘実施日	試掘結果	判断指示
82	11-190	10 1 110		博多区東月隈４丁目	5,400.0	公営団地建替え	9・10・12	—	包蔵地外	99.09.29	遺構なし	開発同意
83	11-079	81 6 04		博多区諸岡３丁目地内	512.0	下水道埋設	24	92	諸岡Ａ遺跡群	99.06.17	遺構有り	慎重工事
84	11-308	10 1 268	99/09/16	博多区吉塚本町～６丁目	760.0	道路舗装	35	2378	吉塚本町遺跡	00.01.26	遺構有り	慎重工事
85	11-119	10 1 273	99/07/15	博多区青木１丁目	800.0	道路改良工事	10	233	宝満尾遺跡	99.07.16	遺構なし	慎重工事
86	11-020	10 1 603	98/11/19	博多区祇園１番	114.0	地下鉄エレベーター	121		博多遺跡群	99.04.19	遺構有り	要本調査
87	11-383	11 1 0		博多区諸岡６丁目地内	2,700.0	道路新設	25	103	笹原遺跡群	99.06.02	遺構なし	慎重工事
88	11-392	11 1 0		博多区井相田地内	650.0	道路新設	24	2627	井相田Ｄ遺跡	00.01.28	遺構有り	慎重工事
89	11-037	11 1 7	99/01/22	博多区寿町2-125	1,600.0	立体駐車場	13	51	南八幡遺跡群	99.05.12	遺構なし	慎重工事
90	11-078	11 1 8	99/04/22	博多区板付6丁目1-1	9,090.0	学生寮等の新築	24	95	高畑遺跡	99.06.12	遺構有り	要本調査
91	11-379	11 1 242	99/08/03	博多区立花寺２丁目地内	20,000.0	農園整備	11	38	立花寺遺跡群	00.03.22	遺構有り	要本調査
92	11-222	11 1 722	99/08/09	博多区諸岡５丁目30	334.7	駐車場設置工事	25	—	包蔵地外	99.10.22	遺構なし	開発同意
93	11-261	11 1 731	99/09/14	博多区井相田３丁目6-10,6-11	1,200.0	公園整備	12	52	井相田Ａ遺跡	99.12.08	遺構有り	要本調査
94	11-348	11 1 736	99/12/21	博多区博多駅南１丁目1	350.0	公園再整備	36	—	包蔵地外	00.03.02	遺構なし	開発同意
95	11-277	11 1 742	99/07/16	博多区板付6丁目1-1	18,710.0	学生寮等の新築	24	95	高畑廃寺		遺構有り	要本調査
96	11-378	11 1 1020	00/02/14	博多区博多駅前１丁目346～351	587.5	駐車場立体化	36	121	博多遺跡群	00.04.12	遺構なし	慎重工事
97	11-004	10 2 653	98/12/14	博多区吉塚１丁目850-93	156.5	店舗付共同住宅	156	122	堅粕遺跡群	99.04.13	遺構なし	開発同意
98	11-016	10 2 465	99/01/26	博多区奈良屋町２丁目12他	1,182.0	社屋ビル建設	48	121	博多遺跡群	99.04.13	遺構有り	要本調査
99	11-042	10 2 530	99/02/15	博多区綱場町44	73.2	併用住宅	49	121	博多遺跡群	99.05.19	遺構なし	慎重工事

（3） 博 多 区（その2）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申請地	開発申請面積（㎡）	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試掘実施日	試掘結果	判断指示
100	11-010	10 2 571	99/02/18	博多区東光寺１丁目96-1	217.8	専用住宅	37	85	那珂遺跡群	99.04.08	遺構なし	慎重工事
101	11-006	10 2 584	99/02/26	博多区下呉服町464-1～-3	211.6	社屋建設	48	121	博多遺跡群	99.04.05	遺構なし	工事立会
102	11-021	10 2 606	99/03/10	博多区東那珂１丁目442•443	661.1	工場増築	23	2635	東那珂遺跡	99.04.19	遺構なし	開発同意
103	11-028	10 2 628	99/03/10	博多区銀天町１丁目25-3	710.7	共同住宅	12	49	麦野B遺跡	99.04.26	遺構なし	開発同意
104	11-013	10 2 629	99/03/18	博多区上川端町119-1・-2	128.8	テナントビル建築	49	121	博多遺跡群	99.04.13	遺構なし	慎重工事
105	11-009	10 2 645	99/03/23	博多区榎田２丁目3-7、-9	4,071.8	テナントビル建築	22	84	榎田遺跡	99.04.06	遺構有り	慎重工事
106	11-081	10 2 652	99/03/23	博多区南八幡町２丁目10-1	947.0	共同住宅	25	—	包蔵地外	99.5.18・6	遺構なし	開発同意
107	11-032	10 2 672	99/03/30	博多区博多駅南５丁目109	238.1	共同住宅	37	127	比恵遺跡群	99.05.06	遺構有り	要本調査
108	11-023	10 2 673	99/03/30	博多区東平尾２丁目274-3・275	1,405.9	売買	22	9	東平尾遺跡	99.04.20	遺構なし	開発同意
109	11-011	11 2 3	99/04/02	博多区諸岡３丁目459-2・460	823.3	共同住宅	24	92	諸岡Ａ遺跡群	99.04.12	遺構有り	慎重工事
110	11-040	11 2 10	99/04/05	博多区板付４丁目2-1	1,301.4	店舗	24	94	板付遺跡	99.04.30	遺構有り	慎重工事
111	11-082	11 2 26	99/04/09	博多区中呉服町119-2他８	639.0	共同住宅	48	121	博多遺跡群	99.06.15	遺構有り	要本調査
112	11-000	11 2 38	99/04/14	博多区奈良屋町6-31	96.8	未定	48	121	博多遺跡群	99.06.07	遺構有り	慎重工事
113	11-025	11 2 40	99/04/14	博多区諸岡３丁目703-1	1,217.0	共同住宅（分譲）	24	—	包蔵地外	99.04.19	遺構なし	開発同意
114	11-058	11 2 48	99/04/21	博多区那珂6丁目153・154	274.1	専用住宅	24	85	那珂遺跡群	99.05.31	遺構有り	要本調査
115	11-051	11 2 50	99/04/21	博多区須崎町255-1•255-2	146.4	未定	48	121	博多遺跡群	99.05.25	遺構なし	慎重工事
116	11-083	11 2 104	99/05/17	博多区吉塚３丁目269	1,957.0	未定(確認のため)	35	123	吉塚遺跡群	99.6.17	遺構有り	要本調査
117	11-043	11 2 106	99/05/17	博多区昭南町１丁目36	114.0	専用住宅建築	13	54	雑餉隈遺跡群	99.05.19	遺構有り	要本調査
118	11-123	11 2 127	99/05/21	博多区麦野５丁目10-10	293.0	共同住宅建築	12	48	麦野Ａ遺跡群	99.06.10	要立会	開発同意
119	11-094	11 2 135	99/05/25	博多区博多駅南４丁目99	585.0	共同住宅	37	127	比恵遺跡群	99.06.22	遺構有り	要本調査
120	11-101	11 2 179	99/06/09	博多区三筑１丁目7-15	1,094.0	共同住宅	25	104	三筑遺跡	99.07.06	遺構なし	慎重工事
121	11-072	11 2 183	99/06/09	博多区吉塚３丁目346-2	6,955.0	寺院建物建替え	35	123	吉塚遺跡群	99.06.11	遺構なし	工事立会
122	11-311	11 2 207	99/06/21	博多区須崎町1-1	312.6	ホテル建築	49	121	博多遺跡群	00.01.27	遺構有り	要本調査
123	11-116	11 2 212	99/06/22	博多区諸岡５丁目118	1,814.0	共同住宅建築	25	103	笹原遺跡群	99.07.13	遺構なし	慎重工事
124	11-130	11 2 216	99/06/23	博多区中呉服町143-1	103.0	ビル建築	48	121	博多遺跡群	99.07.22	遺構有り	工事立会
125	11-177	11 2 217	99/06/23	博多区中呉服町57-1	146.0	ビル建築	48	121	博多遺跡群	99.09.09	遺構有り	要本調査

（3）　博　多　区（その3）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試　掘結　果	判　断指　示
126	11-238	11 2 237	99/07/05	博多区南本町1丁目41-1	145.8	店舗付共同住宅	12	49	麦野B遺跡	99.11.17	遺構なし	慎重工事
127	11-142	11 2 240	99/07/05	博多区祇園町746	1,212.0	売買	49	121	博多遺跡群	99.08.03	遺構なし	慎重工事
128	11-140	11 2 252	99/07/08	博多区上牟田1丁目49	1,262.0	専用住宅建築	36	84	榎田遺跡	99.07.27	遺構なし	慎重工事
129	11-176	11 2 255	99/07/08	博多区那珂3丁目19	943.0	共同住宅建築	23	85	那珂遺跡群	99.09.09	遺構有り	要本調査
130	11-118	11 2 259	99/07/09	博多区空港前2丁目514-1	530.0	自宅兼共同住宅	21	77	下臼井遺跡	99.07.14	遺構なし	慎重工事
131	11-165	11 2 267	99/07/12	博多区那珂1丁目221	663.0	共同住宅建築	37	85	東光寺遺跡	99.08.31	遺構なし	慎重工事
132	11-149	11 2 284	99/07/19	博多区金隈2丁目317-1	1,155.0	宅地造成	11	40	影ヶ浦遺跡隣	99.08.10	遺構なし	開発同意
133	11-154	11 2 297	99/07/26	博多区那珂1丁目655	193.0	専用住宅建築	37	85	那珂遺跡群	99.08.11	遺構有り	要本調査
134	11-161	11 2 303	99/07/27	博多区竹下5丁目433	1,294.4	共同住宅建設	38	85	那珂遺跡群	99.08.17	遺構有り	要本調査
135	11-181	11 2 305	99/08/23	博多区須崎町33	83.0	売買(共同住宅)	49	121	博多遺跡群	99.09.22	遺構有り	要本調査
136	11-152	11 2 307	99/07/09	博多区古門戸町149-2	169.0	共同住宅建築	48	121	博多遺跡群	99.08.12	遺構なし	慎重工事
137	11-162	11 2 326	99/08/04	博多区那珂6丁目21-1	6,508.0	工場建替え	24	85	那珂遺跡群	99.08.19	遺構有り	工事立会
138	11-208	11 2 329	99/08/05	博多区店屋町169	1,792.0	ビル建築	49	121	博多遺跡群	99.10.14	遺構有り	要本調査
139	11-175	11 2 338	99/08/10	博多区奈良屋町272他	1,044.0	共同住宅建築	48	121	博多遺跡群	99.09.14	遺構なし	慎重工事
140	11-295	11 2 365	99/08/24	博多区店屋町204	341.0	ビル建築	49	121	博多遺跡群	99.09.30	遺構有り	慎重工事
141	11-262	11 2 370	99/08/24	博多区板付5丁目15-2	1,361.0	共同住宅建築	24	94	板付遺跡	99.12.09	遺構なし	慎重工事
142	11-301	11 2 393	99/09/01	博多区麦野3丁目10-17	257.0	売買	12	48	麦野A遺跡群	99.10.12	遺構なし	慎重工事
143	11-197	11 2 408	99/09/10	博多区博多駅南4丁目1(一部)	470.0	事務所建築	37	127	比恵遺跡群	99.10.01	遺構有り	協議中
144	11-184	11 2 419	99/09/10	博多区榎田2丁目9-5	474.4	工場兼専用住宅建築	22	84	榎田遺跡	99.09.21	遺構なし	慎重工事
145	11-185	11 2 420	99/09/16	博多区銀天町3丁目30	58.0	店舗付き共同住宅	12	50	麦野C遺跡	99.09.21	遺構なし	慎重工事
146	11-241	11 2 430	99/09/17	博多区金の隈1丁目523	474.7	専用住宅建築	11	39	金隈遺跡	99.11.18	遺構なし	慎重工事
147	11-204	11 2 433	99/09/17	博多区山王1丁目150-1・152-1	1,363.6	共同住宅	37	—	包蔵地外	99.10.07	遺構有り	要本調査
148	11-224	11 2 437	99/09/24	博多区吉塚3丁目374-1	614.4	専用住宅建築	35	123	吉塚遺跡群	99.11.10	遺構有り	慎重工事
149	11-220	11 2 446	99/09/24	博多区博多駅南5丁目1,38	1,200.0	共同住宅建築	37	127	比恵遺跡群	99.10.12	遺構なし	慎重工事
150	11-285	11 2 447	99/09/24	博多区古門戸61	219.9	共同住宅	48	121	博多遺跡群	99.10.12	遺構有り	要本調査
151	11-194	11 2 450	99/09/27	博多区光丘町1丁目17-2	291.0	共同住宅建築	13	54	雑餉隈遺跡	99.10.04	遺構なし	慎重工事

（3） 博 多 区（その4）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申請地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試掘実施日	試掘結果	判断指示
152	11-201	11 2 454	99/09/29	博多区上川端町244	1,155.0	売買	49	121	博多遺跡群	99.10.14	遺構なし	慎重工事
153	11-235	11 2 462	99/09/30	博多区西月隈４丁目913の一部	1,746.0	店舗建築	11	2626	立花寺Ｂ遺	99.10.28	遺構なし	慎重工事
154	11-221	11 2 463	99/09/30	博多区博多駅前２丁目1840	144.4	商業ビル建築	49	121	博多遺跡群	99.11.08	遺構有り	要本調査
155	11-247	11 2 467	99/10/01	博多区麦野６丁目18-5	676.5	共同住宅建築	12	50	麦野Ｃ遺跡	99.10.27	遺構なし	慎重工事
156	11-280	11 2 473	99/10/12	博多区上呉服町462	222.4	共同住宅建築	48	121	博多遺跡群	99.10.15	遺構有り	工事立会
157	11-300	11 2 500	99/10/12	博多区那珂１丁目496他	434.7	平屋店舗建築	37	85	那珂遺跡群	00.01.24	遺構有り	要本調査
158	11-225	11 2 501	99/10/12	博多区那珂１丁目497他	83.7	平屋店舗建築	37	85	那珂遺跡群	99.11.11	遺構有り	工事立会
159	11-232	11 2 503	99/10/14	博多区店屋町234-1,234-2・-4	212.0	事務所ビル建築	49	121	博多遺跡群	99.11.09	遺構有り	要本調査
160	11-229	11 2 508	99/10/14	博多区南本町１丁目38-1	644.9	共同住宅建築	12	49	麦野Ｂ遺跡	99.11.04	遺構なし	慎重工事
161	11-273	11 2 510	99/10/14	博多区堅粕４丁目419-2	572.4	共同住宅建築	36	123	吉塚遺跡群	99.12.16	遺構有り	要本調査
162	11-299	11 2 514	99/10/15	博多区昭南町１丁目46	749.9	共同住宅建築	13	54	雑餉隈遺跡	00.01.11	遺構なし	慎重工事
163	11-226	11 2 533	99/10/18	博多区諸岡３丁目142	3,790.9	未定	24	92	諸岡Ａ遺跡	99.11.04	遺構なし	慎重工事
164	11-297	11 2 538	99/10/21	博多区寿町２丁目92-3	93.4	事務所建築	12	51	南八幡遺跡	00.01.11	遺構なし	慎重工事
165	11-246	11 2 550	99/10/21	博多区堅粕４丁目531-1の一部	128.9	共同住宅建築	35	123	吉塚遺跡群	99.10.27	遺構有り	慎重工事
166	11-246	11 2 551	99/10/21	博多区堅粕４丁目531-1の一部	147.4	共同住宅建築	35	123	吉塚遺跡群	99.10.27	遺構有り	慎重工事
167	11-246	11 2 552	99/10/21	博多区堅粕４丁目531-1の一部	164.8	共同住宅建築	35	123	吉塚遺跡群	99.10.27	遺構有り	慎重工事
168	11-246	11 2 553	99/10/26	博多区堅粕４丁目531-1の一部	126.2	共同住宅建築	35	123	吉塚遺跡群	99.10.27	遺構有り	慎重工事
169	11-264	11 2 567	99/10/29	博多区麦野４丁目26-33他	948.5	共同住宅建築	12	48	麦野Ａ遺跡	99.11.30	遺構なし	慎重工事
170	11-233	11 2 575	99/11/15	博多区那珂３丁目1-22,1-23他	717.8	倉庫建築	23	85	那珂遺跡群	99.11.09	遺構有り	慎重工事
171	11-291	11 2 637	99/11/15	博多区店屋町43	370.4	事務所兼共同住宅	49	121	博多遺跡群	00.01.06	遺構有り	要本調査
172	11-266	11 2 638	99/11/17	博多区月隈１丁目320-1の一部	1,944.6	事務所兼車庫	10	33	宝満尾遺跡	99.12.07	遺構なし	慎重工事
173	11-267	11 2 643	99/11/24	博多区冷泉町41-1,41-2他	327.1	共同住宅建築	49	121	博多遺跡群	99.12.09	遺構有り	要本調査
174	11-279	11 2 658	99/12/03	博多区麦野３丁目10-10	1,454.8	未定	12	48	麦野Ａ遺跡群	99.12.21	遺構有り	要本調査
175	11-290	11 2 687	99/12/07	博多区板付５丁目3-68	132.0	共同住宅建築	24	94	板付遺跡	99.12.03	遺構なし	慎重工事
176	11-278	11 2 696	99/12/09	博多区吉塚３丁目424の一部	94.5	共同住宅建築	35	123	吉塚遺跡群	99.12.17	遺構有り	慎重工事
177	11-289	11 2 702	99/12/10	博多区東比恵３丁目165	261.5		36	84	榎田遺跡	99.12.17	遺構有り	慎重工事

（3）　博　多　区（その5）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試掘実施日	試掘結果	判断指示
178	11-375	11 2 707	99/12/17	博多区竹下2丁目2-31・3-31	6,107.6	工場建設	37	127	比恵遺跡群	00.03.30	遺構有り	工事立会
179	11-318	11 2 731	99/12/21	博多区祇園町76-1,76-4	1,788.7	未定	49	121	博多遺跡群	00.02.03	遺構有り	要本調査
180	11-321	11 2 741	99/12/27	博多区板付2丁目11-25	173.2	専用住宅建築	24	94	板付遺跡	00.02.08	遺構有り	慎重工事
181	11-298/306	11 2 761	99/12/28	博多区東那珂2丁目53,54,79他	4,795.0	店舗建築	23	2635	東那珂遺跡	00.01.24	遺構なし	慎重工事
182	11-316	11 2 765	00/01/17	博多区吉塚本町119,120,29	1,787.4	店舗付き共同住宅	35	2378	吉塚本町遺跡	00.01.27	遺構なし	慎重工事
183	11-328	11 2 799	00/01/19	博多区諸岡5丁目198,199	239.1	専用住宅建築	25	103	笹原遺跡群	00.02.15	遺構なし	慎重工事
184	11-338	11 2 809	00/01/24	博多区冷泉町128-1	135.8	店舗兼専用住宅	49	121	博多遺跡群	00.02.10	遺構有り	慎重工事
185	11-342	11 2 820	00/01/28	博多区麦野5丁目2-36	2,432.9	未定	12	48	麦野Ａ遺跡群	00.02.24	遺構有り	要本調査
186	11-323	11 2 831	00/01/31	博多区東光寺1丁目433	760.0	事務所	37	85	那珂遺跡群	00.02.10	遺構有り	慎重工事
187	11-343	11 2 834	00/02/03	博多区青木1丁目361-1・-2・-3	1,067.2	専用住宅	22	80	席田青木遺跡	00.02.24	遺構有り	慎重工事
188	11-332	11 2 851	00/02/04	博多区板付2丁目11-42	203.2	共同住宅	24	94	板付遺跡	00.02.08	遺構有り	慎重工事
189	11-340	11 2 853	00/02/09	博多区綱場町17-1・-2	16.0	事務所ビル建設	48	121	博多遺跡群	00.03.22	遺構有り	慎重工事
190	11-331	11 2 863	00/02/15	博多区井相田1丁目1-1	41.1	配送センター	11	37	仲島遺跡群	00.02.14	遺構なし	慎重工事
191	11-350	11 2 872	00/02/15	博多区立花寺2丁目644-1・645	2,841.9	納骨堂建設	11	38	立花寺遺跡	00.03.01	遺構なし	慎重工事
192	11-360	11 2 873	00/02/15	博多区麦野6丁目12-1	416.0	専用住宅	12	50	麦野Ｃ遺跡	00.03.09	遺構なし	慎重工事
193	11-361	11 2 877	00/02/17	博多区那珂1丁目813	134.1	専用住宅建替	37	2406	那珂八幡古墳	00.03.29	遺構有り	慎重工事
194	11-347	11 2 878	00/03/09	博多区半道橋1丁目476・477	4,036.5	店舗建設	23	－	包蔵地外	00.02.29	遺構なし	開発同意
195	11-373	11 2 942	99/09/29	博多区東公園89	57.9	共同住宅建築	35	2378	吉塚本町遺跡	00.03.28	遺構なし	慎重工事
196	12-013	11 2 959	99/07/23	博多区博多駅南4丁目167-4	99.3	売買	37	127	比恵遺跡群	00.03.28	遺構有り	協議中

（4）　中　央　区（その1）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試掘実施日	試掘結果	判断指示
197	11-218	11 1 533	00/01/19	中央区大名2丁目5-1	6,069.0	増築工事	49・60	－	包蔵地外	99.10.29	遺構なし	開発同意
198	11-132	10 1 98	00/02/22	中央区荒戸2丁目	7,917.0	道路拡幅	2	6	かけ塚古墳群	99.07.28	遺構なし	慎重工事
199	11-210	11 1 241	98/11/09	中央区唐人2丁目5-1	430.6	施設建設	71	116	元寇防塁近接	99.10.20	遺構なし	慎重工事
200	11-337	11 1 334	99/08/02	中央区今川2丁目	6,400.0	道路	71	2435	鳥飼遺跡	00.02.16	遺構なし	慎重工事
201	11-269	11 1 713	99/09/13	中央区天神2丁目6-1	7,600.0	解体工事	49	164	福岡城跡肥前	99.12.16	遺構なし	慎重工事

（4）　中　央　区（その２）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試　掘結　果	判　断指　示
202	11-376	11　1　1046	99/11/02	中央区天神２丁目５	12,980.0	守衛室増築	49	164	福岡城肥前堀	00.04.08	遺構なし	慎重工事
203	11-133	11　2　291	00/03/09	中央区知行２丁目10-18	1,322.6	未定	71	－	包蔵地外	99.07.29	遺構なし	開発同意
204	11-164	11　2　248	99/07/06	中央区赤坂２丁目1区17番	3,551.0	共同住宅建築	60	193	福岡城跡	99.08.31	遺構なし	慎重工事
205	11-228	11　2　383	99/08/27	中央区赤坂１丁目153	196.0	共同住宅建築	60	193	福岡城跡	99.11.11	遺構有り	慎重工事
206	11-284	11　2　470	99/10/01	中央区地行４丁目2-3,2-9,2-10	207.6	共同住宅建築	71	116	元寇防塁	99.10.13	遺構なし	慎重工事
207	11-329	11　2　669	99/11/29	中央区大名１丁目121	1,067.9	ホテル増築	60	164	福岡城肥前堀	00.02.08	遺構なし	慎重工事
208	11-354	11　2　729	99/12/16	中央区地行１丁目9-7,9-8,9-9	830.4	共同住宅建築	71	116	元寇防塁	00.03.02	遺構有り	工事立会
209	11-322	11　2　805	00/01/19	中央区地行３丁目3-1	2,808.1	共同住宅	71	116	元寇防塁	00.02.09	遺構なし	開発同意
210	11-367	11　2　891	00/02/22	中央区伊崎20	145.9	共同住宅建築	71	116	元寇防塁	00.03.16	遺構なし	開発同意

（5）　城　南　区（その１）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試　掘結　果	判　断指　示
211	11-067	10　1　624	99/01/28	城南区城西団地	5,600.0	公営団地建替	72	－	包蔵地外	99.04.14	遺構なし	開発同意
212	11-085	10　1　609	00/03/02	城南区梅林２丁目	855.0	地下鉄出入り口	74	2775	梅林遺跡群	99.06.22	遺構有り	要本調査
213	11-398	11　1　0	－	城南区七隈他（福大構内）		道路新設	75	266	七隈古墳群Ａ	00.3.00	遺構なし	慎重工事
214	11-248	11　1　671	99/10/05	城南区別府３丁目地内	264.0	造成工事	72	－	包蔵地外	99.11.17	遺構なし	慎重工事
215	11-005	10　2　616	99/03/02	城南区堤２丁目30-1	1,927.0	共同住宅	64	63	長尾遺跡	99.04.08	遺構なし	開発同意
216	11-007	10　2　620	99/03/05	城南区南片江４丁目43-1～-3	2,713.4	土地造成	75	298	鳥越古墳群Ｆ	99.04.01	遺構なし	開発同意
217	11-017	10　2　642	99/03/17	城南区長尾２丁目92	1,989.0	共同住宅	62	202	小笹遺跡	99.04.15	遺構なし	開発同意
218	11-003	10　2　662	99/03/25	城南区神松寺１丁目1708-1	91.7	専用住宅	48	201	神松寺遺跡群	99.04.06	遺構有り	慎重工事
219	11-045	11　2　23	99/04/09	城南区片江１丁目1065-2	181.6	専用住宅	63	207	片江Ｂ遺跡群	99.05.19	遺構なし	開発同意
220	11-080	11　2　105	99/05/17	城南区荒江１丁目559-2	163.0	専用住宅建築	73	243	飯倉Ｂ遺跡群	99.07.17	遺構なし	開発同意
221	11-097	11　2　147	99/05/31	城南区七隈１丁目1226-26	174.0	専用住宅建築	73	243	飯倉Ｂ遺跡群	99.06.29	遺構有り	慎重工事
222	11-141	11　2　258	99/07/09	城南区茶山１丁目57-1	1,567.0	共同住宅建築	73	248	茶山遺跡	99.08.03	遺構なし	慎重工事
223	11-219	11　2　271	99/07/14	城南区七隈２丁目831-35	945.0	宅地造成分譲	73	246	飯倉Ｃ遺跡群	99.10.07	遺構有り	要本調査
224	11-148	11　2　295	99/07/23	城南区七隈５丁目690-1	253.0	専用住宅建築	74	247	飯倉Ｄ遺跡群	99.08.10	遺構有り	慎重工事
225	11-191	11　2　377	99/08/25	城南区樋井川１丁目370-5,370		未定	63	－	包蔵地外	99.09.28	遺構なし	慎重工事

（5）　城　南　区（その２）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試　掘結　果	判　断指　示
226	11-304	11　2　480	99/10/04	城南区飯倉１丁目395-56,395	176.6	共同住宅建築	73	243	飯倉Ｂ遺跡群	99.10.15	遺構有り	工事立会
227	11-214	11　2　483	99/10/05	城南区神松寺２丁目30-1,31-1	370.2	医院建築	63	207	片江Ｂ遺跡群	99.10.07	遺構なし	慎重工事
228	11-231	11　2　492	99/10/07	城南区長尾４丁目16,19	959.6	共同住宅建築	62	203	長尾遺跡群	99.10.27	遺構なし	慎重工事
229	11-239	11　2　497	99/10/12	城南区七隈６丁目291-1	1,174.5	共同住宅建築	74	—	包蔵地外	99.11.17	遺構なし	開発同意
230	11-314	11　2　530	99/10/15	城南区神松寺１丁目1709-1	1,854.3	共同住宅	62	201	神松寺遺跡群	00.01.27	遺構有り	要本調査
231	11-257	11　2　539	99/10/18	城南区樋井川２丁目866-11,86	374.1	共同住宅建築	63	203	長尾遺跡群	99.11.25	遺構なし	慎重工事
232	11-268	11　2　654	99/11/22	城南区梅林５丁目123-8	264.9	専用住宅建築	74	254	飯倉Ｇ遺跡群	99.11.30	遺構なし	慎重工事
233	11-272	11　2　698	99/12/08	城南区干隈１丁目6-1	836.2	店舗建築	74	252	飯倉Ｅ遺跡群	99.12.14	遺構なし	慎重工事
234	11-317	11　2　795	00/01/17	城南区茶山１丁目9-1	6,236.3	店舗建設	73	248	茶山遺跡隣接	00.01.20	遺構なし	開発同意
235	11-353	11　2　866	00/02/10	城南区梅林５丁目141-15・-1	165.5	専用住宅	74	254	飯倉Ｇ遺跡群	00.02.29	遺構なし	慎重工事
236	11-363	11　2　907	00/02/28	城南区樋井川２丁目866-62・8	1,983.0	宅地造成	63	203	長尾遺跡群	00.03.14	遺構なし	開発同意
237	12-020	11　2　975	00/03/21	城南区田島１丁目393-4	171.6	専用住宅新築	62	199	田島Ａ遺跡群	00.03.30	遺構有り	協議中

（6）　早　良　区（その１）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試　掘結　果	判　断指　示
238	11-336	11　1　1013		早良区干隈５丁目167-2	1,004.8	用地分譲	83	—	包蔵地外	00.02.18	遺構なし	開発同意
239	11-121	9　1　2043	99/07/08	早良区野芥２丁目8-1	871.0	公民館建設	83	319	野芥遺跡群	99.07.23	遺構なし	慎重工事
240	11-063	9　1　2115		早良区大字東入部	5,000.0	道路拡幅	85・92	388	熊本遺跡群	99.05.12	遺構なし	慎重工事
241	11-286	10　1　54	99/09/14	早良区四箇２丁目459-1	1,147.0	公園整備	93	321	四箇八郎丸遺跡	00.01.05	遺構有り	慎重工事
242	11-090	10　1　286	99/06/11	早良区次郎丸	—	道路建設	92・93	—	包蔵地外	99.6.23・6.25	遺構なし	慎重工事
243	11-090	10　1　287	99/06/11	早良区次郎丸～四箇１丁目	—	道路建設	92・93	—	包蔵地外	99.6.23・6.25	遺構なし	慎重工事
244	11-171	11　1　261	99/08/18	早良区野芥１丁目地内	220.0	地下鉄	83	319	野芥遺跡群	99.09.01	遺構有り	要本調査
245	11-199	11　1　281	99/09/07	早良区内野１丁目	—	—	早良16	—	包蔵地外	99.10.05	遺構なし	慎重工事
246	11-227	11　1　360	99/09/14	早良区重留５丁目236-2,236	483.0	公園	85	361	古田遺跡隣接	99.11.08	遺構有り	慎重工事
247	11-362	11　1　479	00/03/02	早良区脇山592-1	279.0	活性化施設	早良17	78	大門遺跡	00.03.15	遺構なし	慎重工事
248	11-237	11　1　723	99/11/11	早良区賀茂２丁目21-145-6,1298		交番庁舎建設	83	319	野芥大薮遺跡	99.11.17	遺構なし	慎重工事
249	11-330	11　1　735	99/12/17	早良区田村２丁目805-5	265.0	道路代替地	93	317	田村遺跡群	00.02.02	遺構有り	慎重工事

（6） 早 良 区（その２）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試掘実施日	試掘結果	判断指示
250	11-288	11 1 746	00/01/12	早良区百道２丁目1-1	700.0	庁舎整備	81	240	西新町遺跡	00.01.12	遺構有り	慎重工事
251	11-365	11 1 1047	00/02/02	早良区早良２丁目地内	5,160.0	道路舗装工事	早良17	91	内野熊山遺跡	00.02.04	遺構有り	慎重工事
252	11-014	10 2 581	97/09/22	早良区田村３丁目507-2・-3	105.3	共同住宅	93		包蔵地外	99.04.15	遺構なし	開発同意
253	11-305	9 2 285	98/06/20	早良区原７丁目1185-5・11	318	専用住宅建築	82	311	原遺跡群	00.01.13	遺構なし	慎重工事
254	11-254	10 2 63	98/06/11	早良区小田部１丁目192の一部	91.0	専用住宅	82	309	有田遺跡群隣	99.11.25	遺構なし	開発同意
255	11-015	10 2 109	98/09/22	早良区百道１丁目807-1	548.8	ビル改築	81	307	藤崎遺跡	99.04.15	遺構なし	開発同意
256	11-170	10 2 310	99/02/18	早良区西新６丁目798	42,003.0	学校改築		116	元寇防塁	99.07.02	遺構有り	要本調査
257	11-026	10 2 599	99/02/25	早良区小田部３丁目302-7・30	436.4	専用住宅	82	309	有田遺跡	99.04.22	遺構なし	慎重工事
258	11-056	10 2 605	99/02/26	早良区原６丁目2-30	1,554.1	店舗改築	82	311	原遺跡群	99.02.26	遺構有り	要本調査
259	11-012	10 2 643	99/03/18	早良区東入部字今朝丸1396-1	197.9	専用住宅	85	343	東入部遺跡群	99.04.14	遺構有り	慎重工事
260	11-008	10 2 648	99/03/19	早良区有田２丁目13-3	136.3	専用住宅	82	309	有田遺跡群	99.04.06	遺構有り	要本調査
261	11-018	10 2 654	99/03/24	早良区次郎丸１丁目33-2	329.7	共同住宅	84	2448	次郎丸高石遺	99.04.15	遺構有り	慎重工事
262	11-064	10 2 654	99/03/23	早良区次郎丸１丁目33-1	328.7	共同住宅	83	2447	次郎丸高石遺	99.04.15	遺構有り	工事立会
263	11-029	10 2 659	99/03/23	早良区原５丁目1217-4・12	1,060.0	共同住宅	82	311	原遺跡群	99.04.26	遺構なし	開発同意
264	11-024	10 2 667	99/03/29	早良区重留７丁目1019他４番	1,910.9	共同住宅	84	320	四箇遺跡群	99.04.27	遺構有り	工事立会
265	11-034	11 2 5	99/04/05	早良区小田部１丁目393	266.0	専用住宅	82	309	有田遺跡群	99.04.30	遺構有り	要本調査
266	11-031	11 2 13	99/04/05	早良区小田部５丁目16-3	182.0	専用住宅	90	309	有田遺跡群	99.06.16	遺構有り	要本調査
267	11-019	11 2 34	99/04/12	早良区脇山１丁目1009-1～-3	3,431.6	道路	早10	775	脇山城ノ原遺跡	99.04.20	遺構なし	開発同意
268	11-030	11 2 36	99/04/13	早良区小田部１丁目34-12	922.9	土地売買	81	309	有田遺跡群	99.05.06	遺構なし	慎重工事
269	11-046	11 2 41	99/04/15	早良区小田部３丁目393	135.3	専用住宅	82	309	有田遺跡群	99.05.21	遺構なし	慎重工事
270	11-052	11 2 57	99/04/26	早良区内野５丁目298-6・-2	140.2	専用住宅	早良18	03	内野遺跡群	99.05.27	遺構なし	開発同意
271	11-039	11 2 63	99/04/27	早良区西新7丁目711-1	869.3	共同住宅	72	－	包蔵地外	99.05.11	遺構なし	工事立会
272	11-381	11 2 74	99/05/06	早良区田村２丁目786-4	2,240.0	共同住宅	83・9	2317	田村遺跡群	99.11.02	遺構有り	要本調査
273	11-088	11 2 85	99/05/10	早良区小田部１丁目141・144	714.6	共同住宅	82	309	有田遺跡群	99.06.22	遺構なし	慎重工事
274	11-050	11 2 88	99/05/10	早良区有田１丁目22-5	192.9	専用住宅	82	309	有田遺跡群	99.05.21	遺構有り	慎重工事
275	11-048	11 2 100	99/05/14	早良区賀茂３丁目414-1	976.0	売買	83	2447	次郎丸高石遺跡	99.05.20	遺構なし	開発同意

（6）　早　良　区（その３）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試　掘結　果	判　断指　示
276	11-155	11 2 133	99/05/24	早良区小田部２丁目162	1,264.0	専用住宅建築	82	309	有田遺跡群	99.06.03	遺構なし	工事立会
277	11-070	11 2 141	99/05/27	早良区野芥５丁目82-7	456.0	専用住宅建築	75	276	影塚古墳群	99.06.11	遺構なし	開発同意
278	11-096	11 2 146	99/05/31	早良区有田一丁目42-9	361.0	店舗建築	82	309	有田遺跡群	99.06.29	遺構有り	工事立会
279	11-071	11 2 148	99/05/31	早良区重留７丁目1074-1	854.0	教会建築	84	320	四箇遺跡群	99.06.11	遺構なし	慎重工事
280	11-089	11 2 174	99/06/07	早良区小田部１丁目80-1	139.0	専用住宅建築	81	309	有田遺跡群	99.06.24	遺構なし	慎重工事
281	11-098	11 2 176	99/06/08	早良区田村１丁目834-1	433.0	共同住宅建築	93	317	田村遺跡群	99.07.01	遺構なし	慎重工事
282	11-126	11 2 200	99/06/16	早良区西新３丁目212-24	214.0	専用住宅建築	71	240	西新町遺跡	99.07.15	遺構なし	慎重工事
283	11-282	11 2 203	99/06/16	早良区荒江２丁目12-236	363.0	共同住宅建築	73	－	包蔵地外	99.12.24	遺構なし	慎重工事
284	11-144	11 2 204	99/06/18	早良区小田部１丁目162	483.0	専用住宅建築	82	309	有田遺跡群	99.08.05	遺構なし	慎重工事
285	11-111	11 2 234	99/07/02	早良区南庄３丁目181	244.0	倉庫建築	81	309	有田遺跡群	99.07.14	遺構有り	要本調査
286	11-139	11 2 236	99/07/02	早良区田村４丁目67	3,345.0	店舗増築	84	317	田村遺跡群	99.07.29	遺構なし	慎重工事
287	11-255	11 2 242	99/07/06	早良区小田部５丁目66	1,951.0	店舗建築	82	309	有田遺跡群	99.08.19	遺構有り	工事立会
288	11-137	11 2 253	99/07/08	早良区西新３丁目212-67	163.0	自宅兼倉庫	71	240	西新町遺跡	99.07.27	遺構なし	慎重工事
289	11-179	11 2 261	99/07/09	早良区小田部１丁目71	673.0	共同住宅建築	82	309	有田遺跡群	99.09.16	遺構有り	工事立会
290	11-156	11 2 275	99/07/16	早良区有田１丁目12-5	208.0	専用住宅建築	82	309	有田遺跡群	99.08.12	遺構有り	工事立会
291	11-174	11 2 302	99/07/27	早良区次郎丸２丁目593-1の一部	1,529.0	宅地造成	92	315	次郎丸遺跡群	99.07.30	遺構なし	慎重工事
292	11-180	11 2 372	99/08/25	早良区藤崎１丁目75,76	268.2	共同住宅建築	81	307	藤崎遺跡	99.09.16	遺構なし	慎重工事
293	11-192	11 2 395	99/09/02	早良区大字東入部1445-7	869.0	病院建設	85	340	岩本遺跡群	99.10.12	遺構なし	慎重工事
294	11-195	11 2 411	99/09/08	早良区早良２丁目1312-1,131	2,668.0	事務所兼倉庫	早良17	91	内野熊山遺跡	99.09.25	遺構なし	慎重工事
295	11-212	11 2 416	99/09/10	早良区早良１丁目1275-1の一部	2,214.0	分譲住宅建築	早良17	91	内野熊山遺跡	99.10.19	遺構なし	慎重工事
296	11-302	11 2 421	99/09/13	早良区有田２丁目22-2	276.5	専用住宅建築	82	309	有田遺跡群	99.10.01	遺構有り	慎重工事
297	11-186	11 2 422	99/09/13	早良区西新３丁目205-45	255.0	共同住宅建築	71	240	西新町遺跡	99.09.24	遺構なし	慎重工事
298	11-200	11 2 434	99/09/17	早良区飯倉６丁目114-13,114	522.2	専用住宅建築	73	246	飯倉C遺跡群	99.10.05	遺構有り	慎重工事
299	11-245	11 2 486	99/10/06	早良区大字石釜字東700-1,-2	1,399.0	庫裡増築	早良22	818	中石釜遺跡	99.10.13	遺構なし	慎重工事
300	11-215	11 2 490	99/10/07	早良区大字東入部字原1592	262.8	専用住宅建築	85	339	ヒワタシ遺跡	99.10.21	遺構なし	慎重工事
301	11-270	11 2 493	99/10/07	早良区原６丁目1208外8筆	1,123.2	共同住宅建築	82	311	原遺跡群	99.12.14	遺構なし	慎重工事

（6）　早　良　区（その4）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試掘実施日	試掘結果	判断指示
302	11-326	11 2 495	99/10/08	早良区小田部3丁目16・17-2	99.3	店舗併用専用住宅	82	309	有田遺跡群	99.11.11	遺構有り	要本調査
303	11-234	11 2 509	99/10/14	早良区賀茂3丁目179-2	223.1	医院兼住宅	83	318	免遺跡群	99.10.14	遺構有り	慎重工事
304	11-223	11 2 540	99/10/18	早良区重留674-3他	300.3	店舗建築	84	324	重留村下遺跡	99.11.02	遺構なし	慎重工事
305	11-250	11 2 547	99/10/20	早良区田村2丁目790-1他3筆	1,228.4	共同住宅建築	83	317	田村遺跡群	99.11.16	遺構なし	慎重工事
306	11-251	11 2 554	99/10/21	早良区原6丁目644-4	158.6	共同住宅建築	82	861	原1号古墳	99.11.17	遺構有り	慎重工事
307	11-258	11 2 558	99/10/22	早良区原5丁目1330-2の一部	1,206.3	共同住宅建築	82	311	原遺跡群	99.12.02	遺構なし	慎重工事
308	11-240	11 2 566	99/10/26	早良区田村4丁目618-10	214.9	専用住宅建築	84	317	田村遺跡群	99.11.17	遺構有り	慎重工事
309	11-253	11 2 601	99/11/05	早良区大字東入部字志庵357-1	2,606.5	店舗建築	早良13	43	東入部遺跡群	99.11.22	遺構なし	慎重工事
310	11-271	11 2 662	99/11/24	早良区賀茂1丁目332-1	3,216.0	共同住宅建築	83	318	免遺跡群	99.12.14	遺構なし	慎重工事
311	11-274	11 2 664	99/11/26	早良区早良2丁目1316-3,131	1,994.9	住宅付き宅地分譲	早良17	91	内野熊山遺跡	99.12.05	遺構なし	慎重工事
312	11-293	11 2 735	99/12/20	早良区梅林6丁目384	728.2	専用住宅建築	84	269	クエゾノ遺跡	00.01.13	遺構なし	慎重工事
313	11-294	11 2 756	99/12/27	早良区西新2丁目42-6他	834.4	共同住宅建築	71	240	西新町遺跡	00.01.13	遺構なし	慎重工事
314	11-319	11 2 774	00/01/07	早良区有田2丁目	197.6	専用住宅建築	82	309	有田遺跡群	00.02.03	遺構なし	慎重工事
315	11-334	11 2 804	00/01/18	早良区有田2丁目20-3	276.0	専用住宅	82	309	有田遺跡群	00.02.10	遺構有り	慎重工事
316	11-339	11 2 832	00/01/28	早良区有田4丁目643-10	294.0	戸建住宅	82	312	有田木坪遺跡	00.02.22	遺構なし	開発同意
317	11-333	11 2 847	00/02/03	早良区梅林6丁目32-13	281.6	専用住宅	84	269	クエゾノ遺跡	00.02.10	遺構なし	開発同意
318	11-341	11 2 859	00/02/08	早良区田村2丁目806-6	1,209.0	共同住宅建設	92	317	田村遺跡群	00.02.22	遺構なし	慎重工事
319	11-355	11 2 882	00/02/18	早良区早良4丁目707-17	312.9	専用住宅建築	早良14	61	長峰甕棺遺跡	00.03.07	遺構なし	慎重工事
320	11-356	11 2 889	00/02/21	早良区原6丁目755-1	981.0	未定	82	311	原遺跡群	00.03.07	遺構なし	慎重工事
321	11-368	11 2 922	00/03/03	早良区賀茂3丁目198-1	2,593.0	共同住宅	83	2447	次郎丸高石遺	00.03.21	遺構なし	開発同意
322	11-369	11 2 933	00/03/07	早良区重留6丁目581-3・582	221.7	専用住宅建築	84	324	重留村下遺跡	00.03.16	遺構有り	慎重工事
323	11-370	11 2 939	00/03/08	早良区飯倉6丁目114-13・-35	522.2	物置・駐車場建設	73	246	飯倉C遺跡群	00.03.21	遺構なし	慎重工事

（7）　西　区（その1）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試掘実施日	試掘結果	判断指示
324	11-066	11 1 20		西区元岡地内地内	—	下水道	130	—	包蔵地外	99.06.04	遺構なし	開発同意
325	11-315	9 1 22	00/02/03	西区野方6丁目	180.0	道路舗装	104	386	野方平原遺跡	00.02.04	遺構あり	要本調査

（7）　西　　区（その2）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試掘実施日	試掘結果	判断指示
326	11-188	9 1 2044		西区弥永団地内	860.0	公民館建設	26•40	105	弥永原遺跡	99.09.22	遺構なし	慎重工事
327	11-091	9 1 2119	99/06/16	西区泉地内	2,200.0	道路舗装	131	689	周船寺遺跡群	99.06.25	遺構なし	慎重工事
328	11-114	10 1 34	99/09/13	西区横浜２丁目	5,600.0	自転車歩行者道建	119	116	今山遺跡	99.06.30	遺構有り	要本調査
329	11-113	10 1 35	99/09/13	西区拾六町２丁目・石丸４丁目	2,400.0	道路舗装	91•93	88	拾六町亀田遺跡	99.07.14	遺構なし	慎重工事
330	11-033	10 1 109		西区拾六町団地内	9,000.0	公営団地建て替え	91•93	85	畑ノ尾遺跡	99.3.10～99.4	遺構有り	要本調査
331	11-158	10 1 111		西区大字千里452-3	1,600.0	公営団地建て替え	132	689	周船寺遺跡群	99.08.18	遺構有り	要本調査
332	11-312	10 1 600	00/01/20	西区西戸崎５丁目	3,156.0	公営団地建設	68•69•78•79	－	包蔵地外	00.02.02	遺構なし	開発同意
333	11-129	11 1 226	99/05/13	西区橋本２丁目地内	22,000.0	地下鉄	91•92	－	包蔵地外	99.07.21	遺構なし	開発同意
334	11-147	11 1 240		西区小戸１丁目2349-4	110.2	売却処分	89	－	包蔵地外	99.08.05	遺構なし	開発同意
335	11-196	11 1 594	99/08/03	西区女原482-2,481	2,391.0	集合住宅建設	112	688	女原遺跡群	99.09.29	遺構なし	慎重工事
336	11-309	11 1 744	99/10/04	西区上山門２丁目地内	800.0	公衆用道路整備	103		城原廃寺	00.01.26	遺構有り	要本調査
337	11-358	11 1 1022		西区横浜１丁目	300.0	道路舗装	111	116	今山遺跡	00.03.08	遺構有り	慎重工事
338	11-357	11 1 1044	99/10/19	西区今津4820	25,650.0	施設建設	118	－	包蔵地外	00.03.08	遺構なし	開発同意
339	11-124	11 2 138	00/02/23	西区姪の浜６丁目2687	729.0	共同住宅建築	89	367	姪浜遺跡群	99.06.21	遺構なし	開発同意
340	11-044	8 2 516	97/03/04	西区今宿青木421-4他11	45,413.0	研究施設	112	631	鋤崎古墳群Ａ	99.11.24	遺構有り	要本調査
341	11-027	10 2 394	98/11/09	西区田尻１丁目・泉３丁目	500,000.0	土地区画整理	119	684	今宿田尻遺跡	99.4.16～4.23	遺構なし	慎重工事
342	11-211	11 2 25	99/04/09	西区姪浜３丁目3390他５筆	2,300.2	庫裡改築	89	367	姪浜遺跡群	99.10.19	遺構有り	慎重工事
343	11-109	11 2 37	99/04/14	西区福重２丁目454-1他6筆	15,242.0	大型店舗	91	390	橋本一丁田遺	99.06.07	遺構有り	慎重工事
344	11-041	11 2 46	99/04/20	西区羽根戸字笹隈812-1他	3,040.0	身障者療養施設	105	399	羽根戸原Ｃ遺	99.05.11	遺構有り	工事立会
345	11-047	11 2 61	99/04/26	西区大字周船寺ハスマチ323-5	687.2	専用住宅	120	686	蓮町遺跡	99.05.21	遺構有り	慎重工事
346	11-380	11 2 68	99/04/28	西区石丸２丁目54-5	1,487.0	未定	90	381	拾六町平田遺	99.06.10	遺構有り	要本調査
347	11-060	11 2 83	99/05/10	西区野方１丁目273	1,924.0	専用住宅	91	389	野方久保遺跡	99.06.03	遺構なし	慎重工事
348	11-131	11 2 84	99/05/10	西区飯氏上利町975-1の一部	998.0	専用住宅建築	131	689	周船寺遺跡群	99.06.24	遺構なし	慎重工事
349	11-059	11 2 89	99/05/11	西区今宿駅前１丁目703-1・704	1,300.2	分譲マンション	112	－	包蔵地外	99.06.03	遺構なし	慎重工事
350	11-068	11 2 102	99/05/14	西区横浜１丁目14-2	280.0	専用住宅建築	111	621	今宿遺跡群	99.06.10	遺構なし	慎重工事
351	11-054	11 2 124	99/05/21	西区羽根戸517	3,580.0	共同住宅建築	92	400	羽根戸三反間	99.05.31	遺構なし	慎重工事

（7）　西　　区（その3）

整理番号	試掘番号	受付番号	受付日	申　請　地	開発申請面積(㎡)	開発目的	分布地図	遺跡番号	遺跡名	試　掘実施日	試　掘結　果	判　断指　示
352	11-107	11 2 140	99/05/25	西区下山門3丁目470	11,685.0	共同住宅建築	90	2474	下山門乙女田	99.06.07	遺構有り	要本調査
353	11-107	11 2 140	99/05/26	西区下山門3丁目470	11,685.0	共同住宅建築	90	2474	下山門乙女田	99.06.07	遺構有り	要本調査
354	11-183	11 2 145	99/05/26	西区野方5丁目955-67	261.1	専用住宅	105	525	野方中原遺跡	99.09.21	遺構有り	工事立会
355	11-069	11 2 156	99/05/28	西区今宿1丁目1222	196.0	専用住宅建築	112	621	今宿遺跡群	99.06.10	遺構なし	慎重工事
356	11-084	11 2 175	99/06/01	西区福重2丁目425-1	9,633.0	店舗建築	91	390	橋本一丁田遺	99.06.08	遺構なし	慎重工事
357	11-087	11 2 177	99/06/09	西区戸切2丁目1296-3	999.0	専用住宅建築	92	403	戸切巡町遺跡	99.06.24	遺構なし	慎重工事
358	11-115	11 2 193	99/06/08	西区今宿3丁目887	580.0	共同住宅建築	112	621	今宿遺跡群	99.07.13	遺構なし	慎重工事
359	11-125	11 2 199	99/06/14	西区今宿1丁目1219-2	216.0	専用住宅建築	111	621	今宿遺跡群	99.07.15	遺構なし	慎重工事
360	11-135	11 2 229	99/06/16	西区千里426-1	534.0	店舗建築	132	689	周船寺遺跡群	99.07.28	遺構有り	工事立会
361	11-173	11 2 230	99/06/30	西区周船寺1丁目504-2	206.0	店舗建築	120	689	周船寺遺跡群	99.09.14	遺構なし	慎重工事
362	11-127	11 2 231	99/06/30	西区今宿3丁目862-2	2,219.0	共同住宅建築	112	621	今宿遺跡群	99.07.22	遺構なし	慎重工事
363	11-128	11 2 233	99/06/30	西区今宿3丁目879-1	497.0	共同住宅建築	112	621	今宿遺跡群	99.07.22	遺構なし	慎重工事
364	11-157	11 2 320	99/07/01	西区周船寺2丁目432-10,432	399.0	倉庫建築	120	689	周船寺遺跡群	99.08.17	遺構なし	慎重工事
365	11-178	11 2 342	99/08/02	西区泉1丁目1219-5,121	326.5	店舗併用共同住宅	131	689	周船寺遺跡群	99.09.16	遺構なし	慎重工事
366	11-182	11 2 354	99/08/12	西区姪の浜3丁目3168	238.0	共同住宅建築	89	367	姪浜遺跡群	99.09.21	遺構なし	慎重工事
367	11-172	11 2 401	99/08/18	西区今宿1丁目1157-2,11	265.3	専用住宅建築	112	621	今宿遺跡群	99.09.28	遺構なし	慎重工事
368	11-359	11 2 410	99/09/03	西区石丸2丁目486-3,55-4	798.0	共同住宅建築	90	381	拾六町平田遺	00.03.09	遺構有り	工事立会
369	11-205	11 2 448	99/09/08	西区大字飯氏カリ町980-2	655.0	専用住宅建替	131	689	周船寺遺跡群	99.10.15	遺構なし	要本調査
370	11-256	11 2 464	99/09/24	西区小戸1丁目2331,2302-1	282.1	専用住宅立替	89	116	元寇防塁	99.11.25	遺構なし	慎重工事
371	11-236	11 2 479	99/09/30	西区大字徳永681-1	985.0	資材置き場建設	120	2584	徳永Ａ遺跡	99.10.27	遺構有り	工事立会
372	11-216	11 2 494	99/10/04	西区上山門1丁目22,485-1	900.0	診療所建築	103	—	包蔵地外	99.10.21	遺構なし	開発同意
373	11-259	11 2 571	99/10/07	西区大字徳永字下引地362-1他14	8,582.0	病院建築	120	2585	徳永Ｂ遺跡	99.11.16／12.0	遺構なし	慎重工事
374	12-027	11 2 676	99/10/27	西区大字千里316-1他	60,781.0	店舗建設	132	689	周船寺遺跡群	00.2.4～2.29	遺構有り	協議中
375	11-310	11 2 762	99/12/27	西区生の松原1丁目1251,1738	7,936.0	病院建設	103	116	元寇防塁	00.01.25	遺構なし	慎重工事
376	11-324	11 2 778	00/01/11	西区拾六町5丁目977-4,978-1	1,961.6	宅地造成	103	375	大林遺跡	00.01.01	遺構有り	要本調査
377	11-351	11 2 782	00/01/12	西区大字千里曲307-1,307-2	3,839.0	宅地造成	132	745	千里遺跡群	00.02.29	遺構なし	慎重工事
378	11-364	11 2 913	00/02/29	西区大字羽根戸字畦津554-1	417.4	専用住宅	92	401	羽根戸畦津遺	00.03.14	遺構なし	開発同意

Ⅱ．発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区、西区）を埋蔵文化財課第一係、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を同第二係が担当している。また、西区元岡一帯にかかる九州大学移転予定地については、別途担当課（大規模事業等担当）を置き調査を実施している。

発掘調査にあたっては、「整理収蔵要項」に従い、個々の遺跡に調査番号をつけ、遺構・遺物及び記録類の登録を行っている。調査番号は、西暦年度下２桁と年度中の番号を組み合わせた４桁で表している。１遺跡の調査が複数年にまたがる場合は、開始年度の登録番号のみとなる。なお、複数の遺跡を同一調査事業で調査する場合は、原則として遺跡毎に調査番号を付している。

1)平成11年度の概要

市域内で実施された本年度の発掘調査件数は10年度からの継続事業７件、11年度新規事業80件の計87件である。所管課別では、埋蔵文化財課による、公共及び民間開発に伴う調査が75件（10年度からの継続事業６件、11年度新規事業69件)、大規模事業担当課事業では九州大学移転予定地の発掘調査が９(1)件、文化財整備課事業では史跡指定地の現状変更に伴う確認調査が３件（鴻臚館跡、山の鼻古墳、東光院跡）である。

予算別では、国庫補助事業が20件（国補15件、国補＋民間受託３件、国庫＋令達２件)、民間受託事業が36(4）件、公共受託事業が18（2）件、令達事業が10（1）件、市単費事業が３件である。

調査件数は、博多区が最も多く35（4）件、西区22（1）件、早良区９件、城南区７件、中央区１件、東区５件、南区８件である。博多区では博多遺跡群を主として、那珂・比恵遺跡等の周辺での調査が顕著である。東区においては昨年度同様箱崎遺跡の調査事例が増加しつつある（( ) 内は10年度からの継続事業)。

なお、以上の他、福岡大学が実施した学術調査が１件ある。

表４.発掘調査件数の推移　()内は前年度からの継続

	H7	H8	H9	H10	H11
民　間	38	45	51(2)	35(2)	54(4)
圃場整備	1	1	2	3	1
公　共	22	31	28	34(5)	33(3)
合　計	61	77	81	71	88

表５.発掘調査面積の推移　(㎡)

	H7	H8	H9	H10	H11
民　間	52,193	51,246	22,054	9,033	19,842
圃場整備	1,330	308	11,442	2,999	7,843
公　共	44,997	47,454	37,780	55,032	73,849
合　計	98,520	99,008	71,277	67,064	101,534

表６．平成11年度発掘調査総括表（事業及び区別一覧）

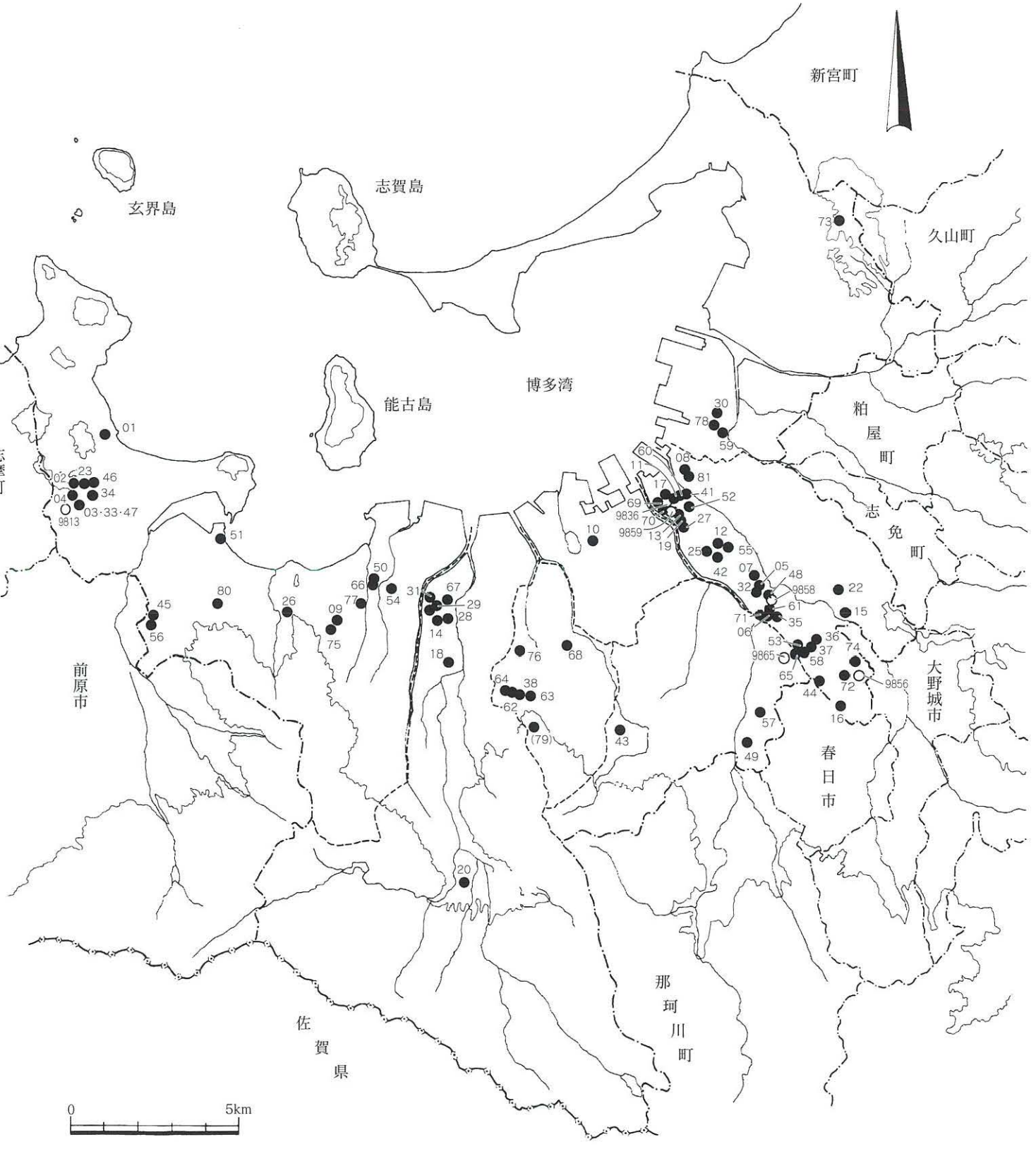
区名	事業区分	令達	受託	補助事業			市単費	小計	学術調査	総計	調査主体別内訳				
				補助	補助＋民受	補助＋令達					埋蔵文化財課	大規模事業担当	鴻臚館跡担当	文化財整備課	福岡大学
東	公共	1	0	0	-	0	0	1	-	5	5				
	民間	-	4	0	0	-	-	4							
博多	公共	3(1)	4	0	-	0	2	9(1)	-	35(4)	34(4)			1	
	民間	-	19(3)	6	3	-	-	26(3)							
中央	公共	0	0	0	-	1	0	1	-	1	0		1		
	民間	-	0	0	0	-	-	0							
南	公共	1	0	0	-	0	0	1	-	8(1)	8(1)				
	民間	-	4(1)	3	0	-	-	7(1)							
早良	公共	0	0	0	-	1	0	1	-	9	9				
	民間	-	2	6	0	-	-	8							
城南	公共	0	5(1)	0	-	0	0	5(1)	1	8(1)	7(1)				1
	民間	-	2	0	0	-	-	2							
西	公共	5	9(1)	0	-	0	1	15(1)	-	22(1)	12	9(1)		1	
	民間	-	5	2	0	-	-	7							
小計	公共	10(1)	18(2)	0	0	2	3	33(3)	1	88(7)	75(6)	9(1)	1	2	1
	民間	0	36(4)	15	3	0	0	54(4)							
合計		10(1)	56(6)	15	3	2	3	87(7)	1						

2）発掘調査一覧

調査番号	受付番号	遺跡名	遺跡略号	調査次数	分布地図	遺跡番号	調査原因	事業種別	所在地	開発面積	調査対象面積(㎡)	調査面積	古墳	着手日	終了日	調査担当者
9813	－ 1 －	元岡・桑原遺跡	MOT-7	7	129	2782	大学建設用地造成	公受	西区大字元岡字池ノ浦	275,000.0	－	7500.0		98.05.06	99.06.01	吉留
9836	1	博多遺跡群	HKT-111	111	48	0121	学校改築工事	令達	博多区奈良屋町地内	27,000.0	5,600.0	4,800.0		98.10.01	99.10.07	井上・佐藤
9843	8 1 613	梅林遺跡	UBY-3	3	74	2775	道路建設	公受	城南区梅林２丁目地内	4,525.0	2,500.0	2,267.0		98.11.30	99.07.14	井澤
9856	10 2 302	麦野C遺跡群	MGC-5	5	12	0050	共同住宅建設	民受	博多区麦野６丁目12-5・12-23	1,368.1	900.0	871.1		99.01.25	99.05.21	本田
9858	10 2 335	那珂遺跡群	NAK-67	67	37	0085	共同住宅建築	民受	博多区那珂１丁目148	3,501.8	3,501.0	1,420.0		99.01.18	99.06.30	久住
9859	10 2 356	博多遺跡群	HKT-113	113	48	0121	社屋建設	民受	博多区下呉服町2-29	408.9	247.0	190.0		99.02.01	99.04.22	力武
9865	10 2 484	井尻Ｂ遺跡	IGB-12	12	25	0090	共同住宅建築	民受	南区井尻４丁目170-1・171-1他	1,102.8		125.0		99.04.01	99.04.16	田上
9901	6 1 613	大原D遺跡	OBD-6	6	128	2590	埋立場建設	令達	西区大原地内	20,000.0	4,900.0	3,904.0		99.04.01	99.11.13	池田・星野
9902	－ 1 －	元岡・桑原遺跡	MOT-12	12	139	2782	大学建設用地造成	公受	西区桑原字履形	275,000.0	－	7,500.0		99.04.06	00.03.28	菅波
9903	－ 1 －	元岡・桑原遺跡	MOT-13	13	140	2782	大学建設用地造成	公受	西区元岡字立浦	275,000.0	－	600.0	3	99.04.12	00.03.16	松浦
9904	－ 1 －	元岡・桑原遺跡	MOT-14	14	139	2782	大学建設用地造成	公受	西区桑原字柳ケ浦	275,000.0	－	1,241.0		99.04.22	99.07.22	松村
9905	10 2 462	那珂遺跡群	NAK-69	69	37	0085	共同住宅建築	民受	博多区那珂１丁目590-1・602-1	1,040.7	1,040.0	1,088.0		99.04.08	99.06.28	長屋
9906	10 2 453	那珂遺跡群	NAK-70	70	38	0085	共同住宅建築	民受	博多区竹下５丁目500	564.0	306.0	339.0		99.04.13	99.05.31	榎本
9907	10 2 475	比恵遺跡群	HIE-67	67	37	0127	共同住宅建築	民受	博多区博多駅南６丁目81	337.0	337.0	200.0		99.05.12	99.06.14	大庭
9908	10 2 539	吉塚遺跡群	YSZ-7	7	35	0123	共同住宅建築	民受	博多区吉塚３丁目355-6	474.0	260.0	145.0		99.04.12	99.05.29	久住
9909	9 1	野方久保遺跡	NKU-5	5	91	0389	道路建設	令達	西区野方１丁目128-1他	4,800.0	400.0	129.0		99.04.13	99.05.22	大塚
9910	－ － －	福岡城跡(鴻臚館)	FUE-43	43	60	0192	史跡整備	令達・国補	中央区城内１-1	－	－	3,088.0		99.04.22	00.03.15	塩屋・池崎
9911	10 1 603	博多遺跡群	HKT-114	114	49	0121	地下鉄施設	市単費	博多区祇園１	114.0	50.0	50.0		99.04.26	99.04.26	宮井
9912	10 2 349	比恵遺跡群	HIE-68	68	37	0127	共同住宅建築	民受・国補	博多区博多駅南３丁目3-33	519.7	519.7	284.0		99.05.17	99.06.18	山崎(龍)
9913	10 2 377	博多遺跡群	HKT-115	115	49	0121	共同住宅建築	民受	博多区店屋町34・35・77	703.4	703.4	601.0		99.05.13	99.10.26	屋山
9914	10 2 648	有田遺跡群	ART-192	192	82	0309	専用住宅建築	国補	早良区有田２丁目13-3	136.3		72.7		99.05.10	99.05.17	米倉・蔵富士
9915	1	立花寺Ｂ遺跡	RGB-6	6	11	2626	道路建設	公受	博多区西月隈４丁目910-1・944他	5,885.0		5,884.7		99.04.21	00.03.24	田上
9916	11 2 106	雑餉隈遺跡群	ZSK-11	11	13	0054	専用住宅建築	国補	博多区昭南町１丁目36	114.0	114.0	60.0		99.05.24	99.06.03	本田
9917	10 2 465	博多遺跡群	HKT-116	116	48	0121	社屋建築	民受	博多区奈良屋町２丁目12他	1,182.0	416.0	430.0		99.06.01	00.09.24	本田
9918	11 2 4	野芥遺跡群	NKE-9	9	84	0319	病院増築	国補	早良区野芥５丁目268-1	10,286.5	29.0	29.0		99.05.24	99.05.26	蔵富士・米倉
9919	10 2 285	博多遺跡群	HKT-117	117	49	0121	共同住宅建築	民受	博多区冷泉町83番地他	800.5	385.0	365.0		99.06.07	99.09.27	久住
9920	10 1	中山遺跡	NAY-1	1	早良17	0806	圃場整備	令達・国補	早良区早良１丁目・大字西地区			7,843.0		99.06.22	00.03.08	大塚
9921	10 2 151	箱崎遺跡	HKZ-18	18	34	2639	共同住宅建築	民受	東区馬出5丁目470	2,933.0	1,447.0	920.0		99.06.14	99.09.28	榎本
9922	1	下月隈Ｃ遺跡	SHC-5	5	10	2625	空港整備(調節池建設)	公受	博多区月隈４丁目地内	65,000.0	65,000.0	10,000.0		99.04.08	00.03.30	瀧本

調査番号	受付番号	遺跡名	遺跡略号	調査次数	分布地図	遺跡番号	調査原因	事業種別	所在地	開発面積	調査対象面積(㎡)	調査面積	古墳	着手日	終了日	調査担当者
9923	－	元岡・桑原遺跡	MOT-15	15	139	2782	大学建設用地造成	公受	西区元岡・桑原地内	275,000.0	2,800.0	2,754.0		99.06.11	99.09.28	
9924	11－2－ 5	有田遺跡群	ART-193	193	82	0309	専用住宅建築	国補	早良区小田部1丁目393	266.0	26.0	9.0		99.06.14	99.06.16	蔵富士・米倉
9925	10－2－672	比恵遺跡群	HIE-69	69	37	0127	共同住宅建築	民受	博多区博多駅南5丁目109	238.1	150.0	150.0		99.06.28	99.07.15	長屋
9926	8－2－516	鋤崎古墳群B群	SKK-B-1	1	112	0632	研究施設建築	民受	西区今宿青木421-4外11筆	45,413.0	500.0	290.0	1＊	99.06.21	99.07.29	米倉
9927	10－2－381	博多遺跡群	HKT-118	118	49	0121	社屋建築	民受	博多区冷泉88-1	201.1	201.0	200.0		99.07.13	99.09.30	大庭
9928	10－2－605	原遺跡群	HAA-20	20	82	0311	店舗改築	民受	早良区原6丁目2-30	1,554.1	1,150.0	833.0		99.07.12	99.10.07	蔵富士
9929	11－2－234	有田遺跡群	ART-194	194	82	0309	倉庫建築	国補	早良区南庄3丁目181	244.0	109.0	78.0		99.07.27	99.08.12	米倉
9930	11－2－ 15	箱崎遺跡	HKZ-19	19	34	2639	共同住宅建築	民受	東区箱崎1丁目2940-1	269.1	175.0	160.0		99.07.29	99.08.27	長屋
9931	11－2－ 13	有田遺跡群	ART-195	195	90	0309	専用住宅建築	国補	早良区小田部5丁目16-3	182.0	182.0	131.0		99.08.23	99.09.13	米倉
9932	11－2－297	那珂遺跡群	NAK-71	71	37・38	0085	専用住宅建築	国補	博多区那珂1丁目655	193.0	193.0	193.0		99.08.23	99.10.01	上角
9933	－ 1 －	元岡・桑原遺跡	MOT-16	16	139	2782	大学設用地造成	公受	西区元岡大字桑原字千切	275,000.0	1,190.0	1,224.0		99.08.02	99.11.10	松村
9934	－ 1 －	元岡・桑原遺跡	MOT-17	17	129	2782	大学設用地造成	公受	西区大字元岡字池ノ浦地内	275,000.0	700.0	680.0	2	99.09.10	99.12.08	松浦
9935	11 2 8	那珂遺跡群	NAK-72	72	24	0085	専用住宅建築	国補	博多区那珂6丁目153・154	274.1	274.0	164.0		99.09.03	99.10.06	長屋・阿部
9936	1	高畑遺跡	TKB-18	18	24	0095	道路建設	公受	博多区板付6丁目地内	5,300.0	4,750.0	4,750.0		99.09.01	00.02.29(継続中)	長屋
9937	1	三筑遺跡	SCC-3	3	25	0104	道路建設	公受	博多区板付7丁目地内	11,000.0	1,200.0	1,200.0		99.09.01	99.10.31	長屋
9938	1	梅林遺跡	UBY-5	5	74	2775	道路建設	公受	城南区梅林2丁目地内	17,000.0	855.0	626.0	1＊	99.07.15	99.09.30	井澤
9939	10 23 10	元寇防塁	GKB-8	8	71	0116	校舎増築	民受	早良区西新町6丁目798-1他	42,003.0	150.0	150.0		99.09.27	99.11.05	大塚
9940	1	吉武遺跡群	YST-8	8	93	0405	下水道埋設	国補	西区大字吉武	1,700.0	37.0	37.0		99.09.06	99.09.08	大塚
9941	11 2 26	博多遺跡群	HKT-119	119	48	0121	共同住宅建築	民受	博多区中呉服町119-2他8筆	639.0	420.0	340.0		99.09.27	99.11.18	本田
9942	11 2 135	比恵遺跡群	HIE-70	70	37	0127	共同住宅建築	民受	博多区博多駅南4丁目99	585.0	313.0	313.8		99.10.01	99.11.18	井上
9943	11 2 308	桧原遺跡	HBR-5	5	64	0215	共同住宅建築	民受	南区桧原7丁目707-1・-4	1,695.0	252.0	169.0		99.10.07	99.10.27	上角
9944	11 2 219	三筑遺跡	SCC-4	4	25	0104	駐車場	国補	南区三筑2丁目19-5	344.0	275.0	125.3		99.10.13	99.10.31	阿部・榎本
9945	11 2 448	周船寺遺跡群	SSJ-12	12	131	0689	専用住宅建替	国補	西区大字飯氏カリ町980-2	655.0	54.0	23.0		99.10.25	99.10.25	蔵富士・米倉
9946	－ 1 －	元岡・桑原遺跡	MOT-18	18	129	2782	大学用地造成	公受	西区桑原字別府地内	275,000.0	6,700.0	6,700.0		99.10.15	12年度継	吉留
9947	－ 1 －	元岡・桑原遺跡	MOT-19	19	140	2782	大学用地造成	公受	西区桑原字千原地内	275,000.0	3,200.0	3,200.0		99.10.15	12年度継	松村
9948	11 2 255	那珂遺跡群	NAK-73	73	23・24	0085	共同住宅建築	民受	博多区那珂3丁目19・20・21	943.0	500.0	382.0		99.11.08	00.01.12	久住
9949	11 2 218	警弥郷B遺跡	KYB-4	4	41	0158	共同住宅建築	民受	南区弥永3丁目11-3	784.0	350.0	325.5		99.11.11	99.11.30	阿部・榎本
9950	11 2 140	下山門敷町遺跡	SYS-3	3	90	0378	共同住宅建築	民受	西区下山門3丁目470	11,685.0	1,450.0	1,450.0		99.11.08	00.01.07	星野
9951	1	今山遺跡	IMY-8	8	119	0620	道路拡幅工事	令達	西区横浜2丁目地内	990.0	120.0	115.0		99.09.22	00.03.09	米倉

調査番号	受付番号	遺跡名	遺跡略号	調査次数	分布地図	遺跡番号	調査原因	事業種別	所在地	開発面積	調査対象面積(㎡)	調査面積	古墳	着手日	終了日	調査担当者
9952	11 1 1	博多遺跡群	HKT-120	120	48	0121	道路拡幅工事	令達	博多区御供所地内	650.0	350.0	350.0		99.10.28	00.03.21	大庭
9953	11 2 404	井尻Ｂ遺跡	IGB-13	13	25	0090	専用住宅建築	国補	南区井尻１丁目755-8	84.9	84.0	60.0		99.11.22	99.12.11	佐藤
9954	11 2 68	拾六町平田遺跡	JRH-3	3	90	0381	共同住宅建築	民受	西区石丸２丁目54-5	1,487.0	637.0	560.0		99.12.02	00.01.27	蔵富士
9955	11 2 433	比恵遺跡群	HIE-71	71	37	—	共同住宅建築	民受	博多区山王１丁目150-1・外３	1,363.6	881.0	592.6		99.12.06	00.03.01	井上
9956	10 1 111	周船寺遺跡群	SSJ-13	13	132	0689	公営団地改築	令達	西区大字千里452-3	1,600.0	1,600.0	949.0		99.11.15	00.03.10	池田
9957	11 2 272	日佐遺跡群	OSS-2	2	40	0100	共同住宅建築	民受	南区日佐４丁目514-9	2,969.0	900.0	900.0		99.12.01	00.01.13	上角・本田
9958	1	井尻Ｂ遺跡	IGB-14	14	25	0090	道路拡幅工事	令達	南区井尻１丁目地内	13,640.0	950.0	952.0		99.11.25	00.02.15	屋山
9959	7 1 50	箱崎遺跡	HKZ-20	20	34	2639	区画整理事業	令達	東区箱崎１丁目	67,000.0	1,647.0	641.0		99.12.13	00.03.31	榎本
9960	11 2 217	博多遺跡群	HKT-121	121	48	0121	社屋建築	民受	博多区中呉服町57-1	146.0	146.	60.0		99.12.13	00.01.27	佐藤
9961	11 2 368	那珂遺跡群	NAK-74	74	37	0085	共同住宅建築	民受	博多区那珂１丁目423・424・426	598.0	388.0	598.0		99.12.20	00.02.08	本田
9962	1	飯倉Ｇ遺跡	IKR-G-5	5	74	0254	道路建設	公受	早良区梅林４丁目396-5外	17,000.0	821.0	313.0		99.05.25	99.06.10	星野
9963	1	梅林遺跡	UBY-4	4	74	2775	道路建設	公受	城南区梅林４丁目地内451-10外	17,000.0	910.0	760.0		99.07.24	99.10.30	井澤
9964	1	飯倉Ｇ遺跡	IKR-G-4	4	74	0254	道路建設	公受	早良区梅林４丁目地内137-7外	17,000.0	1,250.0	170.0		99.03.09	99.04.30	星野・加藤
9965	11 2 220	井尻Ｂ遺跡	IGB-15	15	25	0090	共同住宅建築	国補	南区井尻１丁目362-3	368.0	36.0	36.0		00.01.14	00.01.28	上角
9966	11 2 140	下山門乙女田遺	SOM-2	2	90	2474	共同住宅建築	民受	西区下山門３丁目470	11,685.0		770.0		00.01.06	00.02.26	星野
9967	11 2 495	有田遺跡群	ART-196	196	82	0309	店舗付専用住宅建	国補	早良区小田部３丁目16・17-2	99.3	99.3	69.0		00.02.04	00.02.12	蔵富士
9968	11 2 530	神松寺遺跡群	SNS-2	2	62	0201	共同住宅建築	民受	城南区神松寺１丁目1709-1	1,854.3	188.0	188.0		00.02.21	00.03.16	蔵富士
9969	11 2 447	博多遺跡群	HKT-122	122	48	0121	共同住宅建築	民受	博多区古門戸61	219.9	219.9	206.0		00.02.21	00.05.08	佐藤
9970	11 2 207	博多遺跡群	HKT-123	123	49	0121	ホテル建築	民受	博多区須崎町1-1	312.6	190.0	190.0		00.02.22	00.03.24	上角
9971	11 2 303	那珂遺跡群	NAK-75	75	38	0085	共同住宅建築	民受	博多区竹下５丁目433	1,294.4	250.0	250.0		00.03.01	12年度継続	長屋
9972	11 2 820	麦野Ａ遺跡群	MGA-7	7	12	0048	未定	国補	博多区麦野５丁目2-33・36	2,432.9	460.0	450.0		00.03.13	12年度継続	本田
9973	11 2 771	下原名切古墳群	SBN-1	1	5	2806	福祉施設建設	民受	東区大字下原字名切648-1外６	9,892.0	310.0	310.0	1	00.03.13	00.05.02	大塚
9974	1	井相田Ａ遺跡	ISA-1	1	11	0052	公園整備	令達	博多区井相田地内	1,200.0	4.0	4.0		00.02.08	00.02.09	本田
9975	1	野方平原遺跡	NKH-1	1	104	0524	道路拡幅	令達	西区野方６丁目741-1・742-2		130.0	120.0		00.03.13	00.03.29	久住
9976	11 2 271	飯倉Ｃ遺跡群	IKR-C-5	5	73	0246	分譲宅地造成	民受	城南区七隈２丁目831-35・979-1	945.0	390.0	350.0		99.03.22	12年度継続	米倉
9977	11 2 778	大林遺跡	OBY-1	1	103	0375	宅地造成	民受	西区拾六町５丁目977-4・外２	1,961.6	381.0	370.0		00.03.22	12年度継	池田
9978	11 2 732	箱崎遺跡	HKZ-21	21	34	2639	共同住宅建築	民受	東区箱崎１丁目2480	1,147.3	664.0	650.0		00.03.29	12年度継	榎本
9979	— — —	倉瀬戸古墳群	KDK-1	1	75	0289	学術調査	学術	城南区片江字倉瀬戸109-14他	—	—	394.0		99.07.31	99.08.20	福岡大学
9980	— — —	山ノ鼻１号古墳	HK-1-2	2	120	0875	市史跡環境整備	国補	西区大字徳永265-1外	—	—	363.0	1	99.11.17	00.02.23	荒牧
9981	— — —	吉塚遺跡群	YSZ-8	8	35・36	0123	市史跡環境整備（東光院境内）	市単費	博多区吉塚３丁目-20-37	—	—	105.0		00.02.23	00.06.05	荒牧



（●は平成11年度新規事業
○は平成10年度からの継続事業）

図中の番号は調査番号下２ケタを表わす
(79) は福岡大学が実施した倉瀬戸古墳群

平成11年度発掘調査地点位置図

9813 元岡・桑原遺跡群第７次調査（MOT-7）

所 在 地　西区大字元岡字池ノ浦
調査原因　大学建設用地造成工事
調査期間　1998.5.1～1999.6.11
調査面積　7,500㎡
担 当 者　吉留秀敏
処　　置　記録保存

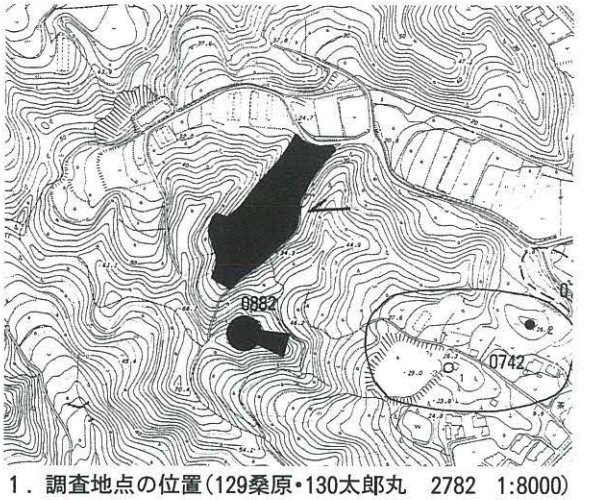
位置・環境　遺跡はＪＲ筑肥線周船寺駅の北方 3.4kmに位置し、糸島半島東部の丘陵地帯にある。丘陵の中の北東に開く谷地内に遺跡はあり、幅約60m、奥行約 200mを測る。調査は昨年度からの継続である。昨年度までに谷奥部を終了し、本年度は排土置き場としていた谷開口部付近を調査した。

検出遺構　新たに発見された遺構は、製鉄（精錬）炉１基、焼土壙５基、道路状遺構１条、建物１棟、柵列２条、柱穴多数がある。道路状遺構は西側斜面を段状に削平し、両側に側溝を設けている。幅は溝中央で約2.7mで、約 30mを確認した。柵列は道路状遺構と重複しており蛇行している。製鉄炉は小規模であり、周囲に覆屋跡とみられる柱穴４が付設している。これらは奈良時代を主とし、一部平安時代を含むものである。

出土遺物　出土遺物は、古代の土器類を主とし、鉄滓、炉壁など製鉄関連遺構が多い。パンケースで合計約80箱である。

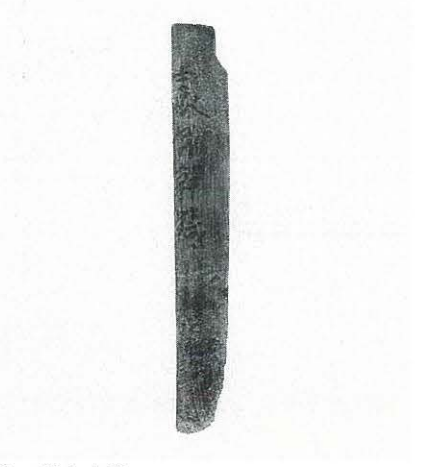
まとめ　昨年度は谷奥部に多くの建物群、製鉄炉が検出され、中央に掘られた池状遺構から木簡を含む多数の木製品が出土した。本年度はその谷前面部であったが、予想外に遺構、遺物が少なく谷底にも木製品など有機質遺物の遺存はなかった。しかし、谷奥部に向かう道路状遺構を検出し、古代の土地利用についての知見を得ることができた。

報告書は2003年度以降に刊行予定である。



1．調査地点の位置（129桑原・130太郎丸　2782　1:8000）

2．調査区全景（南東から）


3．出土木簡

9836 博多遺跡群第111次調査(HKT-111)

所 在 地　博多区奈良屋町地内
調査原因　小学校校舎建替
調査期間　1998.10.1～2000.10.7
調査面積　4,800㎡
担 当 者　佐藤一郎・井上繭子
処　　置　記録保存及び一部現状保存

位置・環境　本調査地は博多湾に面した「息浜」と呼ばれる砂丘上に位置する。調査区は豪商神屋宗湛屋敷跡推定地に隣接し、東40ｍで第５次、南西50ｍでは第42・60次調査が行われている。調査区を４分割し、平成11年度は南側のⅢ区、北側のⅣ区の調査を行った。

検出遺構　Ⅲ区は、現地表下約１ｍの暗褐色土層上面で第１面となる。さらにその下層に生活面が２～４面確認された。第１面では井戸、柱穴、土壙、石積土壙などが検出された。15～17世紀の時期と推定される。その下層は、ほぼ黄白色砂層面で、上面から石塁遺構が検出された。後世に石を抜き取られたり壊されたりして部分的に残っている状況である。全長53ｍ、幅3.3～3.5ｍ、最も残りの良い部分の高さは 1.4ｍで北北東－南南西の方向に延びている。

Ⅳ区はⅠ区の北東側に設置した。第１面である暗黄褐色砂質土層(16世紀の遺物包含層)、その下面の黄白色砂質土層よりなる。16世紀を主とする遺構が検出された。石積土壙、木枠や瓦組の井戸、建て替えのみられる掘立柱建物、南南西－北北東の方向をとる幅約 1.5ｍ、深さ約 0.6 ｍ、延長約40ｍの溝、その他土壙、柱穴などである。

出土遺物　包含層や土壙から、土師器小皿・坏、備前焼擂鉢・壷・甕、唐津焼碗・皿・片口、龍泉窯系青磁碗・皿、白磁坏・皿、景徳鎮系・越州窯系青花碗・皿・盤、越州窯系五彩碗・皿、朝鮮王朝粉青沙器碗・皿、朝鮮雑釉陶器碗・皿、瓦、700 枚を越える銅銭、銅製品、茶臼などが多量に出土している。さらに注目すべき遺物としてメダイが挙げられる。これは表にサルバトール・ムンディキリスト、裏に聖母マリア像がレリーフされたヨーロッパ製の鉛製鋳造品である。長さ３㎝、最大幅２㎝の楕円形を呈する。Ⅳ区の

1．調査地点の位置（48　千代博多　0121　1:8000）

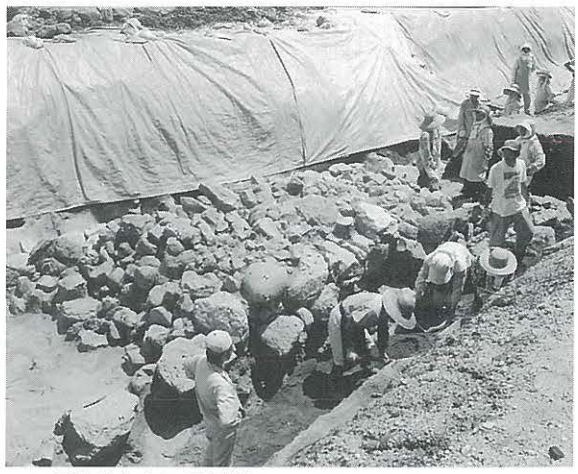
2．Ⅲ区全景（南西から）

3．Ⅳ区全景（南東から）

16世紀末～17世紀初頭の土壙から出土した。

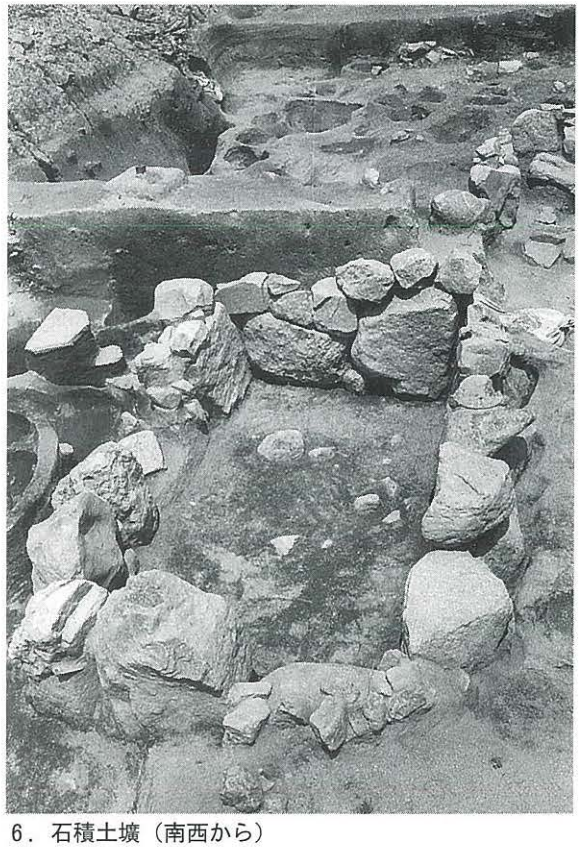
ま と め　豊臣秀吉による博多の復興の推進中、領主小早川隆景から神屋宗湛に宛てた書状に、上級の商人には瓦葺きを命じた記事が見られる。今回の調査で多量の瓦、輸入陶磁器、金属製品が出土し、このことからも本調査地点には富裕な商人が居を構えていたと推定される。また、調査地点南東部で検出された石塁遺構は、構造・規模等から13世紀後半に築造された元寇防塁である可能性が高い。今回の成果は、息浜における中～近世博多の一端を示したものといえよう。

報告書は2002年に刊行予定である。

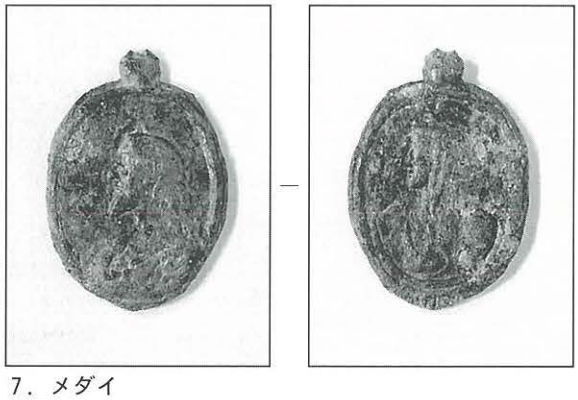


4．保存された石塁遺構

5．石塁遺構南西部分（北西から）



6．石積土壙（南西から）



7．メダイ

9901 大原D遺跡第６次調査（OBD-6）

所 在 地	西区大字大原地内	調査面積	3,904㎡
調査原因	中田埋立場建設	担 当 者	池田祐司　星野恵美
調査期間	1999.4.1～11.13	処　　置	記録保存

位置・環境　柑子岳(標高254ｍ)から派生する丘陵の北裾部に位置する。平成７年度から継続する第14地点と新たな第16地点の調査を行った。第16地点は標高23～41ｍの谷部斜面にあたり、遺構は花崗岩バイラン土で検出した。

検出遺構　第14地点では引き続き包含層、住居跡等の調査を行った。遺物包含層は前回の調査より拡がった。焼失家屋ＳＣ００３は遺構内の炭をナイフで削ることで炭材の繊維の方向、まとまりを確認した。また、明確なプランは不明であるが、焼土面を伴うくぼみ等、居住空間を想定しうる状況を数カ所確認した。

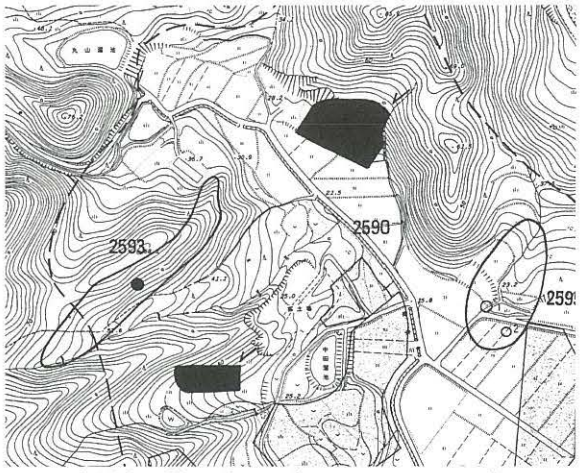
第16地点では縄文時代早期・晩期、古代の調査を行った。斜面の裾部には古代の包含層が厚く堆積し、その直下で溝、鍛冶炉、方形土壙、掘立柱建物、炭窯等の古代の遺構を確認した。縄文早期の遺構は古代の遺構面から１ｍ下で検出した。集石遺構５基、土壙１基である。

出土遺物　第14地点では前回同様条痕文、無文土器が出土し、瘤状の貼付文、山形状の圧痕文がみられるものが各１点ある。石器は黒曜石製がほとんどで石鏃が多い。

第16地点では古代の溝、包含層から須恵器・土師器・越州窯青磁・緑釉等の遺物がコンテナ30箱、鍛冶関連の鉄滓・羽口がコンテ12箱出土した。縄文の遺物は無文土器を中心に条痕文土器・押型文土器、石鏃・黒曜石片が出土している。

まとめ　第16地点では鍛冶炉４基と鉄滓・羽口を廃棄した溝２条を検出した。包含層中ではあるが、大量の須恵器・土師器とともに緑釉青磁・越州窯青磁・鉛製の権・馬の歯等も出土しており、鍛冶関連の工人の施設と考えられる。

報告書は2001、2002年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（128　大原　2590　1:8000）

2．第14地点黒曜石剥片出土状況（南から）

3．第16地点集石遺構SX73（西から）

9902 元岡・桑原遺跡群第12次調査（MOT-12）

所 在 地　西区大字桑原字履形　　調査面積　5,500㎡
調査要因　大学移転に伴う造成工事　　担 当 者　菅波正人
調査期間　1999.4.6～2000.3.28　　処　　置　調査後保存

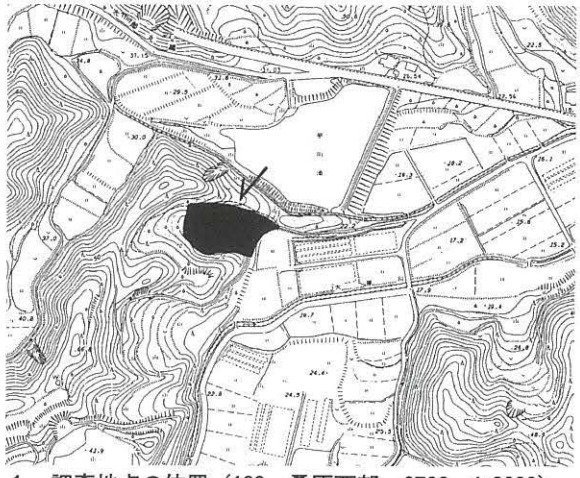
位置・環境　調査対象地は移転予定地の北側に位置し、この場所は以前、ミカン畑であった。遺跡は東側に開口する、幅20～40ｍの谷あいの北側斜面に営まれている。遺跡は畑の耕作土の下、２～４ｍで発見された。

検出遺構　製鉄炉：27基、焼土壙：５基、柱穴他

出土遺物　土器類（須恵器、土師器等）、製鉄関連遺物（炉壁、鞴羽口、鉄滓等）、木製品（火鑽具、送風管、掻き出し棒等）が出土。

製鉄炉の形態は両側に廃滓土壙がつく箱型炉である。炉は谷の北側の斜面を平坦に造成して、その場所に構築したと考えられる。南側斜面には炉は構築されていない。炉の配置は谷に対して、直交するもの（22基）と平行するもの（５基）がある。規模は幅30～80㎝、長さ40～ 130㎝を測る。炉の側面に鞴座と考えられる土壙が伴うものもある。炉の形態は規模や構造などからいくつかに分類され、切り合い関係等からそれらの変遷を追うことができる。炉の前面の谷部には鉄滓や壊した炉壁が廃棄されており、コンテナ箱で約5000箱以上が出土した。また、送風に使用されたと考えられる木製の管が10数点出土した。この管は半裁した木の内側を刳り貫いてあわせたもので、径約８～10㎝、長さ約60㎝を測る。製鉄炉の構造復元には重要な資料と考えられる。遺構の時期は整地層等から出土した土器から８世紀前半から後半にかけてのものと考えられる。

ま と め　本調査地点では製鉄炉以外の遺構はほとんどなく、砂鉄原料から鉄素材を造るまでの工程を担っていたと考えられる。これまで、糸島半島でも数基程度の製鉄炉の検出例は多々見られたが、今回のような例はなく、これらの位置付けに今後十分な検討が必要であろう。



1．調査地点の位置（139　桑原西部　2782　1:8000）

2．調査区全景（東から）

3．製鉄炉023（北から）

9903 元岡・桑原遺跡群第13次調査（MOT-13）

所 在 地　西区大字元岡字立浦
調査原因　大学移転に伴う造成工事
調査期間　1999.4.12～2.16
調査面積　600㎡（古墳３基）
担 当 者　松浦一之介
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は糸島半島の東部、金比羅山から東に延びる丘陵から南に派生する標高60ｍ程度の舌状丘陵上に立地する古墳群である。

検出遺構　本古墳群は前方後円墳１基（１号墳）と円墳２基（２・３号墳）から構成される。墳丘規模や内部主体の状況については後世の地形の改変で不明な点が多い。

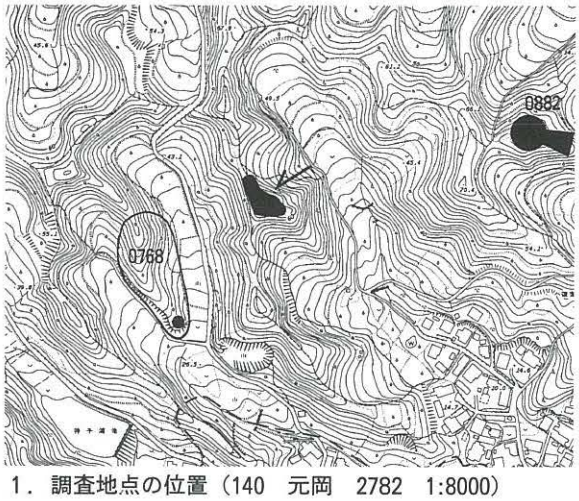
１号墳の墳丘規模は全長35ｍ、後円部径22ｍ、前方部長15ｍと推定され、地山整形後に一部薄く盛土され、二段築成である。主軸はＮ－28°－Ｗと推定される。内部主体は木棺直葬の粘土槨と考えられ、残存する部分に赤色顔料が撒かれていた。

２号墳は直径13ｍで、下層の３号墳を取り込むように墳丘が構築されている。内部主体は横穴式石室である。

３号墳は、直径 9.4ｍと推定される。内部主体は木棺直葬の粘土槨で、木棺長198㎝、幅56～60㎝を測る。主体部には副葬品がなく、赤色顔料が撒かれていた。このほか近世墓壙は21基検出された。

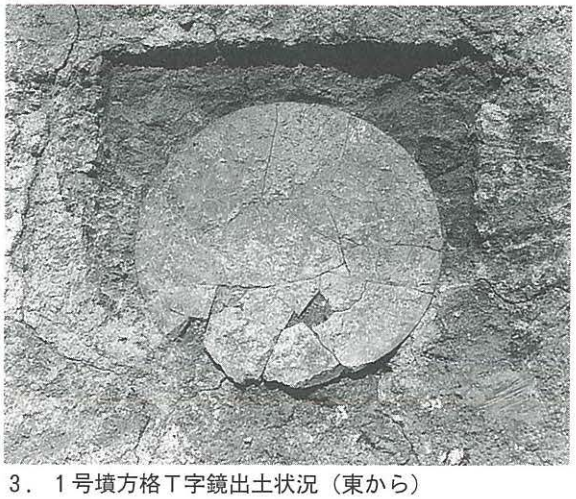
出土遺物　遺物の総量はコンテナ箱にして６箱である。１号墳の主体部から方格Ｔ字鏡が１面出土したほか、２号墳から土師器（甕、壷）が、また３号墳からは須恵器、土師器の他、鉄製品（鋤先、斧、鎌、鏃）、装身具類（碧玉製管玉、ガラス製小玉）等が副葬されていた。この他の遺物として近世墓の墓壙から、施釉陶器やかわらけ、人骨等が出土した。

ま と め　当初は円墳２基と考えられていたが、調査の結果、以上の成果を得ることができた。古墳群の築造年代は出土した遺物から、１号墳及び３号墳が４世紀代、２号墳が６世紀代前葉と考える。１号墳は遺存状況が良好でなかったが、当該地域の首長墓の系譜を考える上で重要である。



1．調査地点の位置（140　元岡　2782　1:8000）

2．調査区全景（北東から）


3．１号墳方格Ｔ字鏡出土状況（東から）

9904 元岡・桑原遺跡群第14次調査（MOT-14）

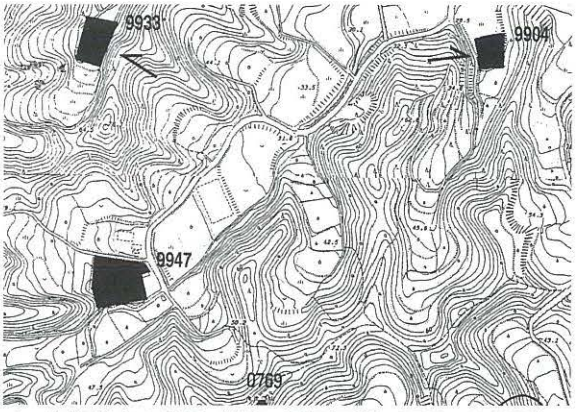
所 在 地　西区大字桑原字柳ヶ浦　　調査面積　1,241㎡
調査原因　大学移転に伴う造成工事　　担 当 者　松村道博
調査期間　1999.4.22～7.22　　処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は博多湾の西岸、糸島半島の東側にあたる。大原川の源泉の南西150ｍの位置にあり、東西を低位な丘陵に挟まれた北方に開く谷部に位置する。現況は畑地で開墾の際、東側の丘陵裾は階段状に造成し、西側は緩やかな傾斜で、自然の状態を保っている。北側に開く谷は幅５～10ｍ、奥行き50ｍ程度の浅い谷で大原川へ開く。

検出遺構　今回の調査は丘陵裾部から谷部の範囲である。試掘調査では古代の集落が予想されていた。調査の結果東側の丘陵斜面から径10～30㎝のピット、谷部からは古代の土師器の包含層を確認した。

出土遺物　古代の土師器がコンテナ１箱分出土。

まとめ　ピットは数量も少なく、企画性がない上に、強い傾斜面に立地し、土器も少量しか出土していないので別の地点に集落が想定される。



1．調査地点の位置（139　桑原西部　2782　1:8000）

2．調査区全景（南から）

9933 元岡・桑原遺跡群第16次調査（MOT-16）

所 在 地　西区大字桑原字牛切　　調査面積　1,224㎡
調査原因　大学移転に伴う造成工事　　担 当 者　松村道博
調査期間　1999.8.2～11.10　　処　　置　記録保存

検出遺構　丘陵裾部から谷部の範囲である。試掘調査では焼土、木炭が出土し炭窯等の遺跡の可能性が予想されていた。調査の結果、焼土や古代の土器は少量出土したが、集落や炭窯等の遺構の検出にはいたらなかった。

出土遺物　古代の土師器コンテナ１箱

まとめ　遺物は少量で小さな破片であり、二次的堆積と考えられ、集落は別の地点に存在するものであろう。

1．調査区全景（北から）

9905 那珂遺跡群第69次調査（NAK-69）

所 在 地	博多区那珂１丁目590-１他	調査面積	1,088㎡
調査原因	共同住宅建設	担 当 者	長家 伸
調査期間	1999.4.8～6.28	処　　置	記録保存

位置・環境　那珂遺跡群は御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地の上に立地している。現況は宅地で標高は約8.8m である。那珂井遺跡群では現在までに弥生時代～中世にいたる濃密な遺構群が確認されている。今回の申請地の西側隣地においても掘立柱建物・竪穴住居跡を中心とした生活遺構が確認されており、青銅器鋳造関係遺物を始めとして多くの遺物が出土している。

検出遺構　遺構が確認されたのは旧表土直下の鳥栖ローム層上面で、標高は西側で8.8m、東側で8.0mである。対象地南半を中心に削平が進んでおり、南半分は遺構がかなり欠失しているものと考えられる。これに対して北側半分は削平が比較的少なく遺構が濃密に分布している。

弥生時代: 竪穴住居跡４棟、井戸２基、掘立柱建物５棟以上を確認した。

遺構の配置は比較的散漫であるが、調査区北側に掘立柱建物がまとまる。後期の竪穴住居の貼床埋め土内からは雲雷文連弧文鏡が出土している。鏡は鈕を中心とした内区の部分で、外区は意図的に埋納以前に打ち割られている。

古墳時代: 竪穴住居跡14棟以上、溝１条、土壙を確認した。

後期に位置づけられ、竪穴住居跡の多くには竈が作られているが、住居廃棄時に破壊されている。

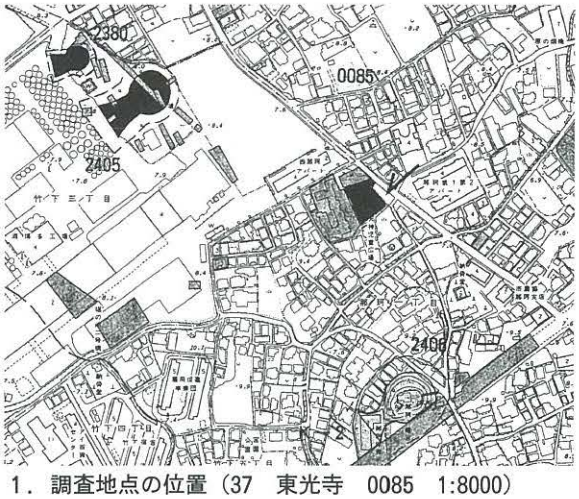
奈良時代～鎌倉時代: 溝３条、井戸１基を確認した。

鎌倉時代の溝は居宅を囲む溝と考えられる。これにともなう建物は不明であるが調査区から西及び南側に区画が広がるものと考えられる。

出土遺物　コンテナ32箱分が出土している。

まとめ　各時代の遺構が濃密に分布しているが特に住居貼床部分から出土した漢鏡は注目される。

報告書は2001年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（37　東光寺　0085　1:8000）

2．調査区南半部全景（北から）

3．調査区北半部全景（東から）

9906 那珂遺跡群第70次調査(NAK-70)

所 在 地 博多区竹下５丁目500　　調査面積 339㎡
調査原因 共同住宅建設　　担 当 者 榎本義嗣
調査期間 1999.4.13～5.31　　処　　置 記録保存

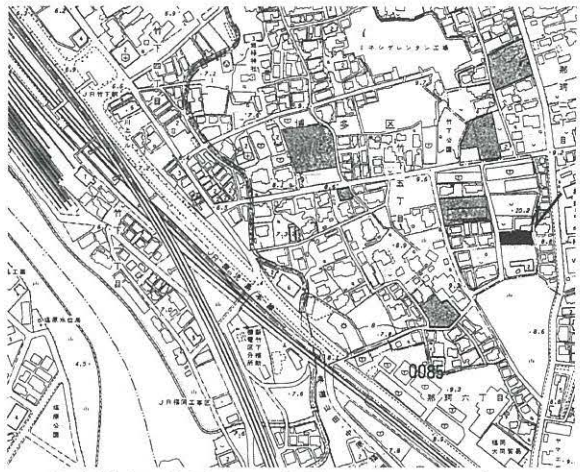
位置・環境　那珂遺跡群は福岡平野を貫流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地上に立地する。本調査区は同遺跡群の南西部に位置し、台地上部に堆積する鳥栖ローム層上面で遺構を確認した。その標高は約9.5～9.7ｍを測り、遺構面は東側へ緩く傾斜する。

検出遺構　検出した主な遺構は弥生時代後期の竪穴住居１軒、井戸１基、古墳時代初頭の方形周溝墓２基、古墳時代後期の竪穴住居２軒、古墳時代と考えられる土壙墓２基、奈良時代の溝１条である。竪穴住居はいずれも遺存状況が悪く、床面上での出土遺物は少量であった。井戸には後期前半の壺・甕10数個が数群に分れて投棄されていた。方形周溝墓(SX)は周溝の一部を検出したにとどまるが、共にコーナー部分を確認できた。西側に位置するＳＸ００１の周溝は幅約４～５ｍ、深さ約1.2 ｍを測る。ＳＸ００２の周溝はやや小規模で、幅約２～2.5ｍ、深さ約0.5～１ｍを測り、溝底はレベル差がある。双方の周溝南側はほぼ同一線上に位置し、企画性を看取させる。なお、墳丘盛土および主体部は後世の削平により遺存しない。また、古墳時代と考えられる土壙墓は床面に礫床を設置するもので、１基には鉄製刀子および耳環が副葬されていた。

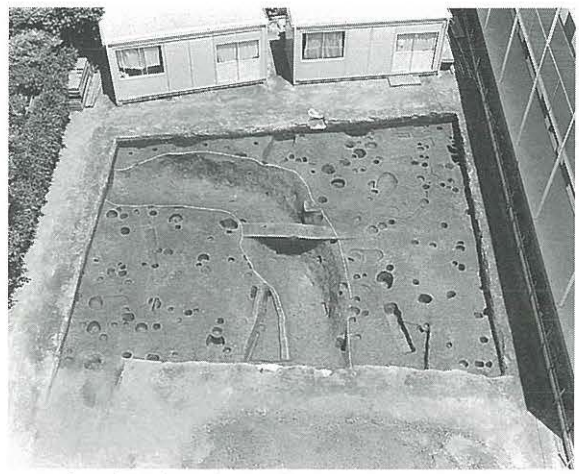
出土遺物　弥生土器、土師器、須恵器、鉄製品、青銅製品等がコンテナ数にして12箱出土した。また、ＳＸ００２上層からは滑石製子持勾玉が１点出土している。

まとめ　本調査区北側の第９次・41次においてもほぼ同時期の方形周溝墓が５基確認されており、該地には墓域が形成されていたものと考えられる。また、今回の調査によって調査区西側にも方形周溝墓群が拡がる可能性が高いと推定される。

調査報告書は2000年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（38　塩原　0085　1:8000）


2.調査区東側全景（西から）

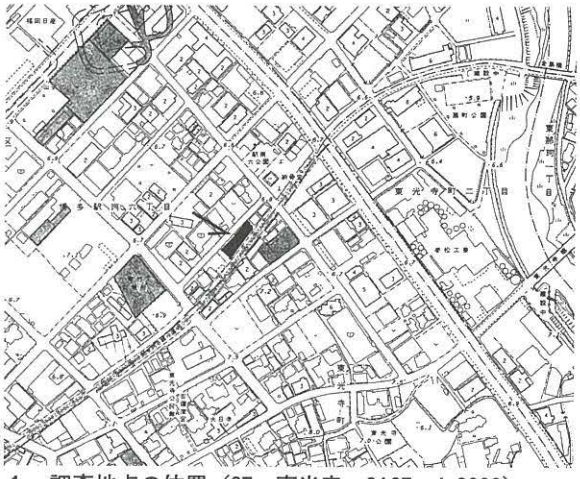
3.井戸遺物出土状況（東から）

9907 比恵遺跡群第67次調査（HIE-67）

所 在 地	博多区博多駅南６丁目81	調査面積	200㎡
調査原因	共同住宅建設	担 当 者	大庭康時
調査期間	1999.5.12～6.14	処　　置	記録保存

位置・環境　比恵遺跡群は、御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地の、北端部分に立地する。福岡平野のほぼ中央に広がる、弥生時代から古代・中世に及ぶ複合遺跡である。

今回の発掘調査地点は、その南端に当たり、浅い谷地形を挟んで那珂遺跡群と対する。中世以前に大規模な地形改変を受けたらしく、調査区中程を境に西側は段落ちとなる。そのため、東側では現地表下40～60㎝程で地山面となるのに対し、西側では180㎝余り掘り下げたところで遺物包含層が現れ、200㎝前後で地山にいたる。



1．調査地点の位置（37　東光寺　0127　1:8000）

検出遺構　今回の発掘調査では、古代の竪穴住居跡２棟、掘立柱建物跡１棟、奈良時代の溝１条、古墳時代？の井戸１基、土坑・柱穴多数を検出することができた。竪穴住居跡の２軒は重複しており、立て替えの可能性がある。ともに調査区外に延びており、その規模を確認することはできなかった。掘立柱建物跡は１間×２間分を確認したが、調査区外に延びている可能性が高く、全容を知り得なかった。柱穴は多数検出しているので、さらに数棟の掘立柱建物跡を復元することは可能だろう。奈良時代の溝は、調査区の東半部から検出したもので、南北方向を示している。この他、西半部より、時期不明の堀状の溝を検出している。

2．調査区北東部全景（南から）

出土遺物　出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器がほとんどで、石器の類、中世以後の遺物は皆無であった。コンテナ６箱分が出土した。

まとめ　本調査地点では、その立地から見て集落の縁辺部と言える。ただし、調査区の西半分が早い段階で削られており、溝と集落との関係など不明瞭な部分を多く残してしまった。今後の整理・検討を通じて明らかにしたい。

3．古墳時代（？）井戸完堀状況

9908 吉塚遺跡群第７次調査（YSZ-7）

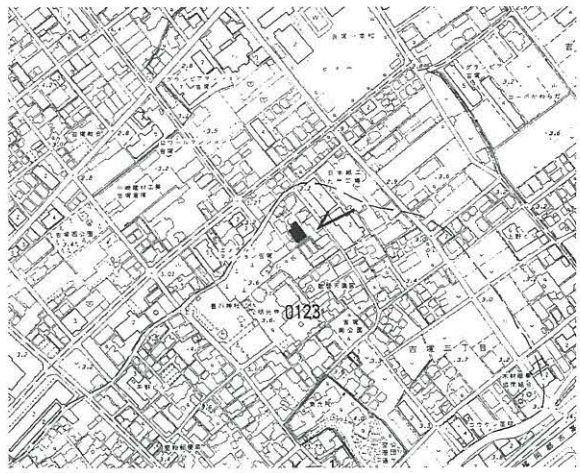
所 在 地　博多区吉塚３丁目355番6他　　**調査面積**　145㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　久住猛雄
調査期間　1999.4.12～5.29　　**処　　置**　記録保存

位置・環境　吉塚遺跡群は、博多湾岸に幾重にも連なる砂丘列の最後列の古砂丘上に立地する。西の海岸側の次の砂丘には堅粕遺跡群があり、南東は後背湿地となっている。遺跡群の東側で調査地の南側には、平安時代初期建立の薬師如来像のある東光院がある。本調査地は遺跡想定範囲の北東端にあり、現在の標高は4.0ｍ前後である。

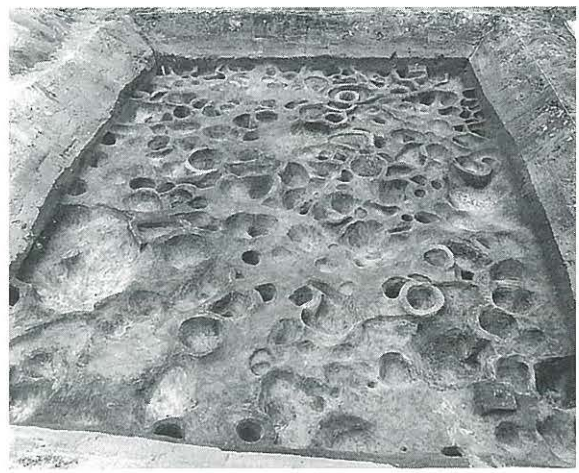
検出遺構　現地表下70～90㎝下で古墳時代から古代の遺物包含層に達し（ここで一部遺構が検出可能）、これを除いた地表下90～１１０㎝で淡黄褐色の砂丘面となり、遺構を検出した。遺構は非常に濃密で、重複が著しく、砂丘面が露出しているのは調査区の２割に満たない。遺構には、井戸２基の他、大小の土壙多数、きわめて多数の柱穴群がある。遺構の時期は奈良時代前後が主体をなすようだが、古墳時代前期・中期・後期、飛鳥時代、平安時代と連綿とみられ、12世紀頃まで存在する。

出土遺物　出土遺物は面積のわりにやや多量で、総量でパンケース30箱強出土した。古墳時代～古代の土師器・須恵器を主体とするが、瓦器・黒色土器・白磁などの輸入陶磁器、鉄製品などがある。また古墳時代の陶質土器や滑石製勾玉も出土した。なお、飛鳥～奈良時代の土師器の甕などには、外面タタキ整形の個体が多く出土しているのが特色である。

ま と め　以上のように今回の調査地点では、遺構が濃密に検出され、しかも古墳時代から奈良時代にかけては、間断なく集落が営まれたことが明らかとなった。この付近は当時の吉塚遺跡の集落の中心的な部分の可能性もあり、遺跡範囲の再検討と合わせ、今後の周辺の調査や試掘には十分な注意が必要である。　報告書は2001年刊行予定である。



1．調査地点位置図（35　吉塚　0123　1:8000）


2．第Ⅰ区（南半区）全景（西から）

3．第Ⅱ区（北半区）全景（北から）

9909 野方久保遺跡第５次調査（NKU-5）

所 在 地	西区野方１丁目128-1他	調査面積	129.0㎡
調査原因	道路建設	担 当 者	大塚紀宜
調査期間	1999.4.13～5.22	処　　置	記録保存

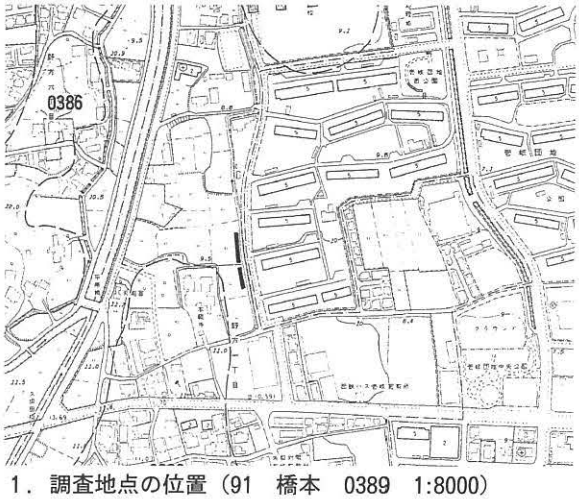
位置・環境　調査区は十郎川東岸に面した微高地の北端にあたり、遺跡群全体の北側になる。調査区北側は灰色砂質土が堆積して河川となり、南側はシルト層が堆積して台地端部の様相を呈する。

検出遺構　調査区北側では地表下70㎝で灰黒色シルト層に達し、その上面で遺構面となる。検出遺構は竪穴住居跡２基、溝、土壙、柱穴で、古墳時代中期以降とみられる。遺構面が切り込む遺物包含層はシルト、粗砂が堆積して構成され、自然流路が位置していたと見られる。調査区南側は灰白色シルト層上面を遺構面とし、検出した遺構は柱穴、土壙、溝を中心としている。遺構密度は高いが、建物の配置構成は不明である。調査区南端部分では遺構密度は低くなる。

出土遺物　出土遺物は弥生時代中期初頭～前半と、古墳時代初頭～前半の土器を主とし、縄文、中世の各遺物も検出する。遺構内からの遺物は磨耗が進んだものが多く、包含層内の土器に破片の大きなものが多い。遺物総量はパンケースで10箱相当になる。

ま と め　北側の自然流路は以前調査された牟多田遺跡に連続するものとみられ、時期的にも符合する。調査区南側の遺構群は北側住居跡などのレベル比からみて古墳時代中期以降と考えられるが、古い時期の遺構も含まれると思われる。縄文時代の遺物が出土するが、これに伴う遺構は検出されず、流れ込みであろう。

報告書は平成12年度刊行予定。



1．調査地点の位置（91　橋本　0389　1:8000）

2．調査区全景（北から）

3．A区全景（南東から）

9910 福岡城跡第43次調査（FUE-43）

所 在 地　中央区城内1-1
調査原因　確認調査
調査期間　1999.4.22～2000.3.15
調査面積　3,088㎡
担 当 者　塩屋勝利　池崎譲二
処　　置　盛土保存

位置・環境　国指定史跡福岡城跡(舞鶴公園)内に所在した鴻臚館跡の全容解明を目的とした確認調査である。鴻臚館跡関連調査では第15次となる。平和台野球場南側半分の調査を第Ⅳ期調査とし、平成11年度は南西部分1／4、(野球場のバックスクリーンから右中間付近)を対象とした。

調査概要　バックホーで平和台野球建設時の盛り土であるスタンド部分、野球場解体時の埋土であるグランド部分の除去を先行して実施し、以下を人力で精査した。

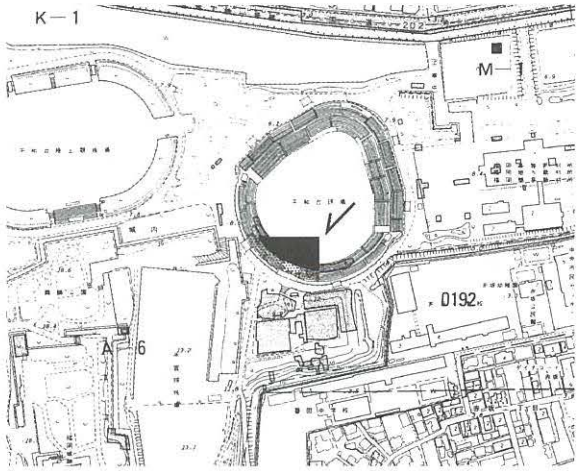
この結果、調査区を南北に分ける谷の存在が明らかになった。この谷は奈良時代に埋立等によって堀に仕立てられ、また南北をつなぐ陸橋状の築堤も造られている。この堀は鴻臚館廃絶後自然に埋没し、中世末期には池となり、最終的には福岡城築城時に埋め立てられ平坦面となった。

検出遺構　奈良時代の大規模な埋立造成が確認された。鴻臚館第Ⅱ期の北側建物区画(布掘り掘立柱列)が35ｍにわたって検出された。その他、2×3 間の掘立柱建物、柱穴、ゴミ穴、瓦溜まり等がある。

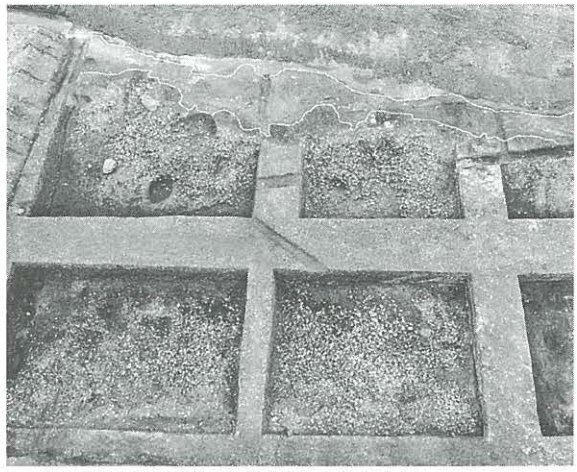
スタンド部分では旧陸軍24連隊の被服庫、武器庫３棟の基礎も良好に残っていた

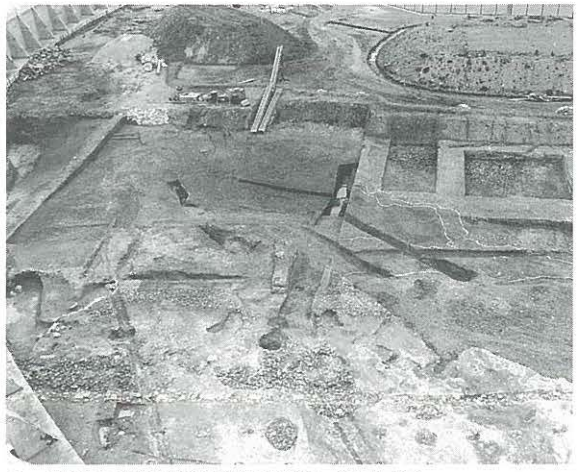
出土遺物　中世末期の池から大量の鴻臚館関係瓦、陶磁器が出土した。このなかには中世後半期の陶磁器も多数出土している。また、堀にも大量の瓦が廃棄され、ここから丸鞆、イスラム陶器、鬼瓦、滑石製陽物が出土している。鴻臚館の廃絶時期を示す11世紀半ばの焼土層から「 綱 」銘墨青白磁も出土した。

ま と め　堀で南側建物群は画されていることが明らかになり、さらに陸橋の存在、堀北側の瓦出土状況から、堀北側にも別区画の鴻臚館関係建物の存在する可能性が高くなった。



1．調査地点の位置（60　舞鶴　0192　1:8000）


2．中世末池状遺構瓦出土状況（北から）


3．調査区西半部遺構検出状況（南から）

9912 比恵遺跡群第68次調査（HIE-68）

所 在 地　博多区博多駅南３丁目3-33　　調査面積　284㎡
調査原因　共同住宅建設　　担 当 者　山崎龍雄
調査期間　1999.5.17～6.18　　処　　置　記録保存

位置・環境　調査地は那珂川沿いを北に伸びる低丘陵上に所在する比恵遺跡群の北側に位置する。地点は低丘陵の先端部に位置し、浅い谷が北から入り込み、低地部では河川跡が、高所部では弥生時代の甕棺墓や貯蔵穴・住居跡群等が検出されている。調査地点の標高は地表面で約5.5 mを測る。

検出遺構　廃土処理の関係から、西側半分をⅠ区、東側半分をⅡ区として調査を行った。試掘結果から、遺構面が深いことが予想されたので、境界から十分な引きをとって調査区を設定した。

Ⅰ区　遺構面までの深さは２～2.5ｍと深く、遺構面は明赤褐色のローム粘土である。撹乱がひどく、遺構はまったく確認できなかった。

Ⅱ区　こちらも撹乱を受けていたが、かろうじて調査区中央部で約５×4.5ｍの範囲で本来の遺構面を確認した。この遺構面までの深さは0.7ｍ程である。この面で、幅２～2.5ｍを測る溝（SD01）１条と、北西側境界地で弥生時代前期と思われる円形の竪穴住居跡の一部を確認した。

円形住居跡の直径は約７ｍと予想される。この住居跡は東に隣接する第25次調査区に続くと思われる。

出土遺物　主に溝SD01からコンテナ９箱分が出土した。弥生時代から近代にかけての遺物がある。弥生時代の石器・土器、古墳時代の土師器、須恵器、中世の土器・陶磁器、近世以降の陶磁器・瓦類・ガラス製品・木製品・金属製品などである。

ま と め　調査地点は撹乱を受けており遺構の残りはきわめて不良であった。ただし、わずかに残った遺構から、当地点にも弥生時代の竪穴住居跡が確認されたので、周辺のこれまでの調査例からみて当該期集落遺構が存在したのであろう。

1．調査地点の位置（37 東光寺 0127　1／8000）

2．Ⅱ区調査区全景（東から）

3．Ⅱ区で検出した円形竪穴住居跡（東から）

9913 博多遺跡群第115次調査（HKT-115）

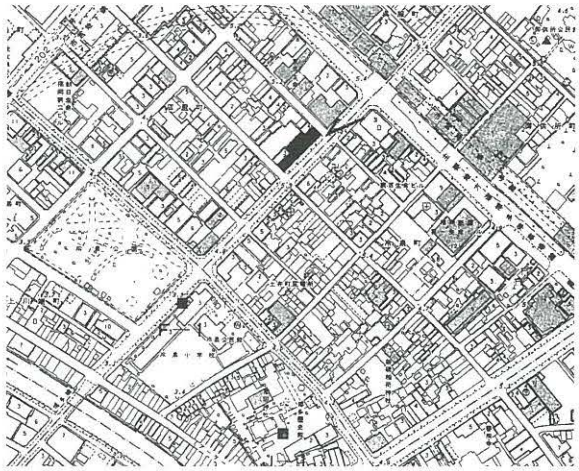
所 在 地　博多区店屋町34・35・77　　調査面積　601㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　屋山洋
調査期間　99.5.13～99.10.26　　処　　置　記録保存

位置・環境　博多遺跡群を形成する南北２つの砂丘のうち、内陸側にある博多浜の北西部に位置する。本調査地点は砂丘が西の那珂川に向かって傾斜する斜面上に位置するものの、調査区内では逆に西側がやや高くなっており、砂丘の突端部に高まりがあった可能性がある。周辺の調査では13～15世紀の鋳造関係などの遺物が多く出土しており、多くの工房が存在したものと考えられる。

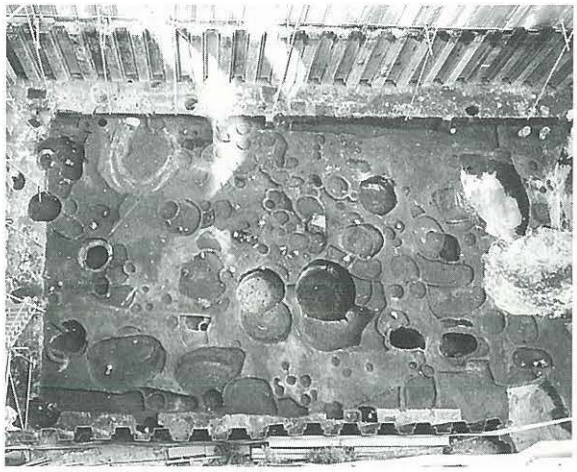
検出遺構　古墳時代～10世紀については遺物は出土するものの、遺構はほとんど確認できなかった。11世紀以降は遺構の数が増え、井戸・溝・土壙・柱穴・道路等を確認した。柱穴遺構は多く出土したがその中で根石を使用した４間以上の建物を確認した。その他の建物は小規模な工房跡と思われ、焼土と共にガラス坩堝や銅滓が出土している。また東側の39次調査区から延びる道路面も確認できた。

出土遺物　出土遺物は土器・陶磁器がコンテナ190 箱。獣骨14箱、石製品１箱。鉄（鉄滓・銅滓を含む）製品６箱を数える。弥生時代後期の甕棺片が最も古く、二重口縁壺なども出土している。輸入陶磁器は11世紀の越州窯系から出土し始め11世紀後半からは多量に出土するものの13世紀後半に激減する。骨製品は弭・簪が出土している。これらの原材料と思われる牛・鹿の骨片も井戸などから出土している。

まとめ　調査区から弥生末の甕棺と古墳初頭の二重口縁壺が出土しており墓域が存在した可能性がある。中世から近世にかけてはガラス・骨製品・鉄製品・人形等の生産に関連した遺物が多く出土しており雑多な工房が集中していたと思われる。



1．調査地点の位置（49　天神　0121　1:8000）



2．調査区全景（北から）

3．土壙内獣骨出土状況

9914 有田遺跡群第192次調査（ART-192）

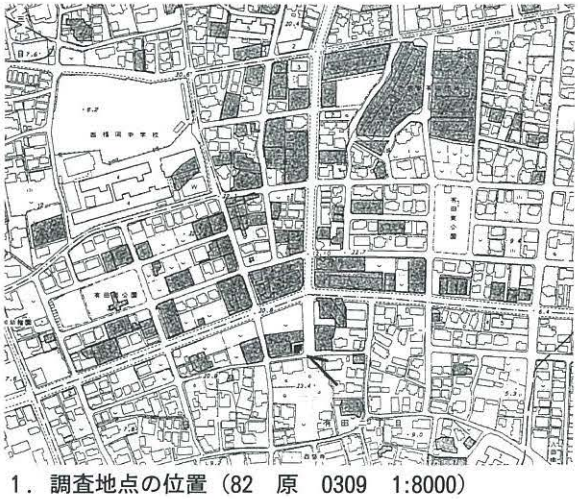
所 在 地　早良区有田２丁目13-３
調査原因　専用住宅建築
調査期間　1999.5.10～5.19
調査面積　73㎡
担 当 者　米倉秀紀・藏冨士寛
処　　置　記録保存

位置・環境　当調査地は有田台地の最高所に位置し、現況における遺跡の標高は13m程である。遺構は現地表下－30cmの橙色ローム（鳥栖ローム）上で検出した。

検出遺構　中世後半：溝３条
その他時期不明のピット群

出土遺物　中世陶磁器や土師器、須恵器などが出土した。遺物の量は少なく、コンテナ１／４箱にも満たない。

ま と め　当次調査の成果としては、100 次調査時に検出されていた中世後半代（16世紀前半）における濠状遺構の続きを検出したことが挙げられる。
なお、報告書は2000年に『有田・小田部35』第657集として刊行している。



1．調査地点の位置（82　原　0309　1:8000）

2．調査区東半（南から）

3．調査区西半（北から）

9915 立花寺B遺跡第6次調査（RGB-6）

所在地	博多区西月隈4丁目910-1・944他	調査面積	5,884.7㎡
調査原因	都市高速JCT建設	担当者	田上勇一郎
調査期間	1999.4.21～2000.3.24	処置	記録保存

位置・環境　調査地点は福岡平野の東南部、御笠川中流東岸の微高地上に位置し、現標高は11～13m。これまで5回の調査がおこなわれ、平安時代の官衙的施設、中世の集落などが検出されている。遺構検出面の標高は9～10mである。

検出遺構　A－1区では、上面で、古代の溝、土壙墓、井戸を検出した。下面では古墳時代中期の竪穴住居30軒、掘立柱建物1棟、河川、溝などを検出した。

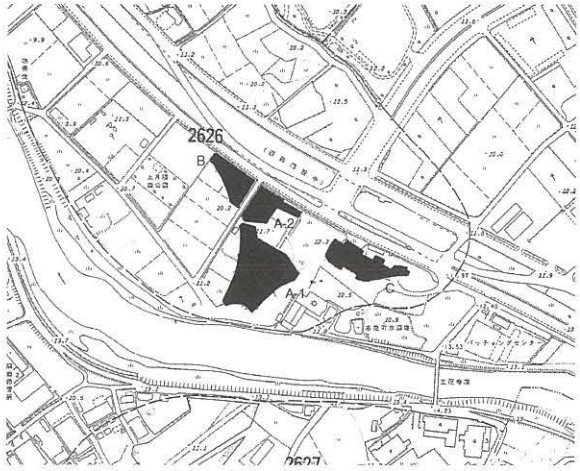
A－2区では古代の掘立柱建物3棟、溝、土壙などを検出した。B区では古代から中世の井戸、溝、柱列などを検出した。C区では上面で古代から中世の溝、土壙、井戸などを、下面で古墳時代と思われる掘立柱建物5棟と河川を検出した。

出土遺物　出土遺物はコンテナケース150 箱分。古墳時代の出土遺物は土師器甕・甑・椀・高坏、須恵器坏・甕・高坏、子持勾玉5点、滑石製臼玉、紡錘車など。須恵器は小田編年ⅠB期で、5世紀後半から6世紀初頭にあたる。古代から中世の遺物は土師器坏、椀、須恵器坏、甕、黒色土器、青磁、白磁などがある。C区で「田」という字が書かれた墨書須恵器が出土している。

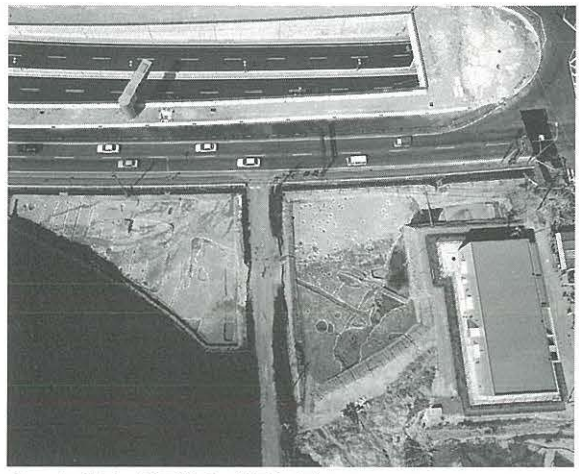
まとめ　今回の調査ではこれまであまり知られていなかった古墳時代中期の集落が検出され、当時の集落立地を考える上で貴重な発見例となった。竪穴住居は方形4本柱である。竈が存在したと思われるが、いずれも残存状況が悪く、構造を検出できなかった。河川からは多量の土師器・須恵器のほか、子持勾玉が出土し、水辺での祭祀が想定される。

古代・中世は井戸、建物等が検出されたが、中心地からははずれた部分であると考えられる。

報告書は2001年度刊行の予定である。



1．調査地点の位置（11　金隈　2626　1:8000）


2．A-2区、B区全景（南から）

3．A-1区下層全景（北東から）

9916 雑餉隈遺跡群第11次調査（ZSK-11）

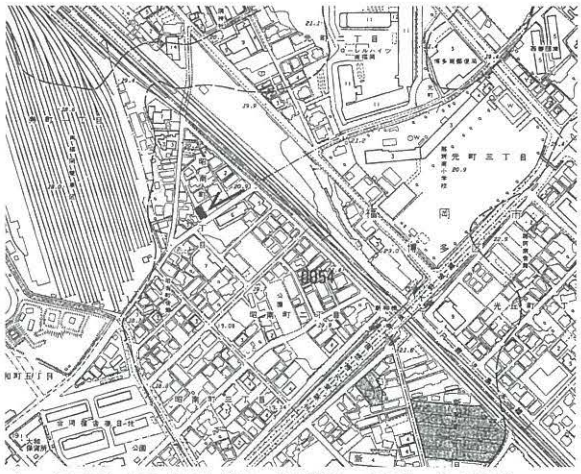
所 在 地	博多区昭南町１丁目36	調査面積	60㎡
調査原因	専用住宅建築	担 当 者	本田浩二郎
調査期間	1999.5.24～1999.6.3	処　　置	記録保存

位置・環境　雑餉隈遺跡群は福岡市の南端に位置している。周辺には麦野Ａ・Ｂ・Ｃ遺跡、南八幡遺跡などが展開している。これらの遺跡群は近接する舌状台地上に点在するが、その地形的な境界は現在のところ判然としない。調査区一帯の標高は21ｍ前後を測る。

検出遺構　調査は約60㎡の狭い面積ではあったが、９世紀初頭から前半頃の竪穴住居３軒、土壙墓１基、ピット群を検出した。住居は一辺が 3.2ｍ前後を測り、検出面からの深さは30㎝前後を測る。住居南西端に張り出し部を設け、白色粘土で竈を形成する。竈は住居廃絶時に基底部を残して破壊されていた。周辺で調査された同時期の住居と同じく、住居床面上からは柱穴は検出されない。土壙墓は1.3ｍ×0.9ｍの長方形を呈し、深さは検出面から30㎝前後を測る。出土遺物から中世の時期が考えられる。

出土遺物　遺物は土師器・須恵器・貿易陶磁などがコンテナケース４箱分が出土した。周辺の調査成果から旧石器時代・弥生時代に属する遺構・遺物の検出も予想されたが、本調査地点からの出土はなかった。

まとめ　雑餉隈遺跡周辺に位置する麦野遺跡群・南八幡遺跡では８世紀後半の竪穴住居が約 190軒ほど検出されており、大規模な集落が想定される。麦野Ａ遺跡第７次調査では郡衙規模の施設と考えられる遺構が検出されており、今後の調査での周辺の様相解明に期待される。



1．調査地点の位置（13　雑餉隈　0054　1:8000）

2．調査区全景（南から）

3．住居検出状況（西から）

9917 博多遺跡群第116次調査（HKT-116）

所 在 地　博多区奈良屋町２-12他　　**調査面積**　430㎡
調査原因　社屋建築　　**担 当 者**　本田浩二郎
調査期間　1999.6.1～9.24　　**処　　置**　記録保存

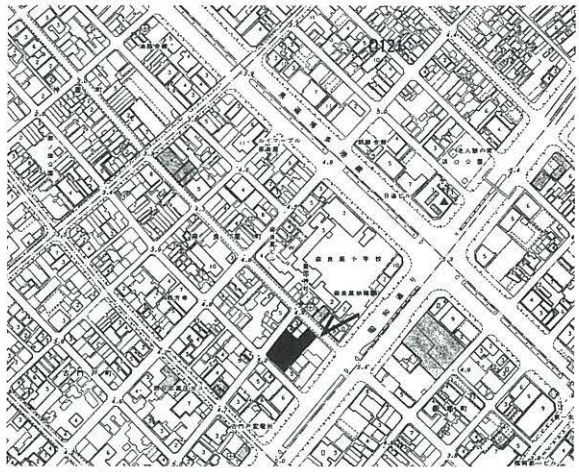
位置・環境　博多遺跡群は福岡平野の博多湾岸に位置し、那珂川と御笠川（石堂川）の河口に挟まれた三角州平野上に形成される遺跡群である。本調査地点は博多遺跡群の二つの砂丘のうち北側の砂丘上の西南側に位置する。周辺の調査成果をもとに現地表面から２ｍ前後の深さで堆積する近代から現代までの整地層を除去した後、調査に着手した。遺構面は合計３面が確認され、第１面が暗褐色土層面で標高は３ｍ前後、第２面が褐色粗砂層で標高は 2.5ｍ前後を測る。第３面は調査区内の一部で確認にされた遺構面で標高は2.2 ｍ前後の黄褐色粗砂層面である。

検出遺構　調査の結果、中世期中頃の14世紀後半から近世までの遺構・遺物が検出された。遺構の時期は15世紀代のものが最も多く検出され、この時期には付近一帯が居住地として利用されていたことが分かる。博多遺跡群北部に位置する本調査区付近は12世紀頃に陸地化したと考えられており、13世紀以降に集落などが営まれたと推測されている。今回の調査結果はこの推側を裏付けるものである。検出された遺構は井戸・石組遺構・方形竪穴遺構・掘立柱建物などがある。井戸は井戸枠として瓦を使用しているものと桶などの有機質のものを使用しているものに分けられる。石組遺構は３基が検出され、１基からは28枚の土師器皿が出土した。

出土遺物　遺物はコンテナケースで96箱程度が出土した。遺物としては土師器、青磁・白磁などの貿易陶磁器、国産陶器などがある。

ま と め　今回の調査では14世紀から17世紀代までの集落遺跡に伴う遺構・遺物が検出された。

なお、報告書は2000年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（48　千代博多　0121　1:8000）

2．調査第１面全景（東から）

3．調査第２面全景（東から）

9918 野芥遺跡群第9次調査（NKE-9）

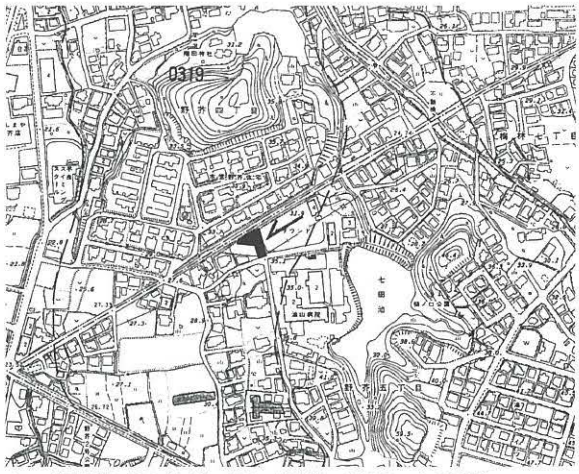
所 在 地　早良区野芥5丁目268-1　　調査面積　29㎡
調査要因　病院増築　　担 当 者　米倉秀紀・藏冨士寛
調査期間　1999.5.24～5.26　　処　　置　記録保存

位置と環境　野芥遺跡群は油山丘陵の裾部に広がる遺跡群であるが、当調査地はその南東側に位置する。病院の増築に伴う小規模調査で、面積は29㎡ほどである。

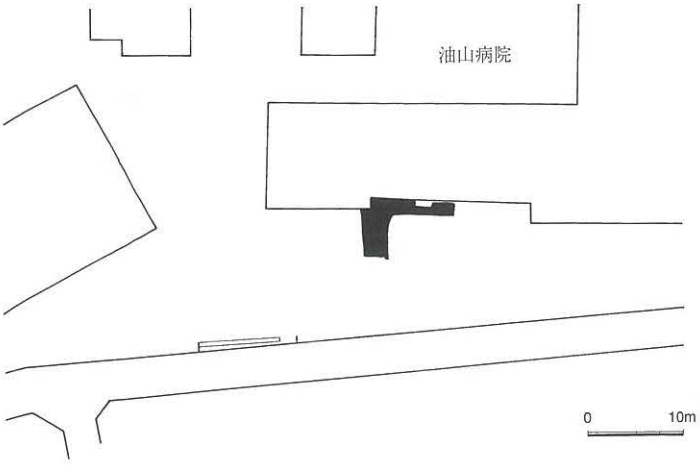
検出遺構　ピット群

出土遺物　なし

ま と め　ピットのうちのいくつかには、径10㎝ほどの柱痕跡が認められた。遺物の出土は全くなく、遺構の所属時期は不明。

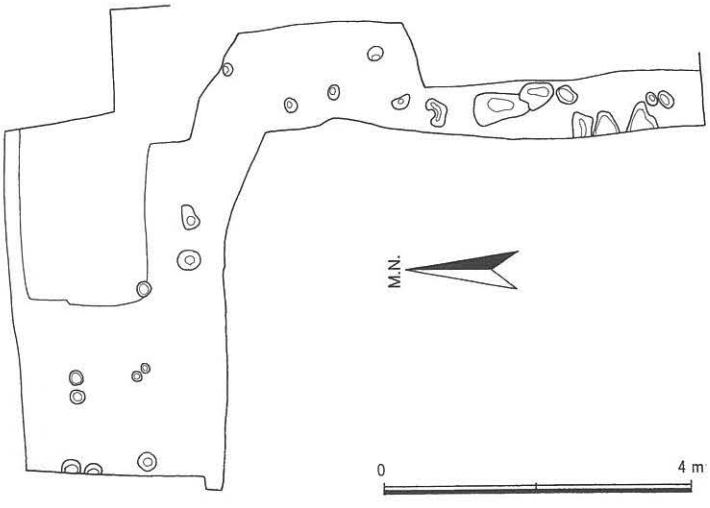


1．調査地点の位置（84　野芥　0319　1:8000）



4．調査場所(1/200)

2．調査区全景(1)（西から）



5．遺構配置図（1/100）

3．調査区全景(2)（北から）

9919 博多遺跡第117次調査（HKT-117）

所 在 地　博多区冷泉町83・84番地　　調査面積　365㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　久住猛雄
調査期間　1999.6.7～9.27　　処　　置　記録保存

位置・環境　調査地は、遺跡群南半の博多浜砂丘第１列北西部の北斜面に若干下る部分にあたる。現地表の標高は 5.6m前後である。西50mには櫛田神社がある。118次地点は南に接する。

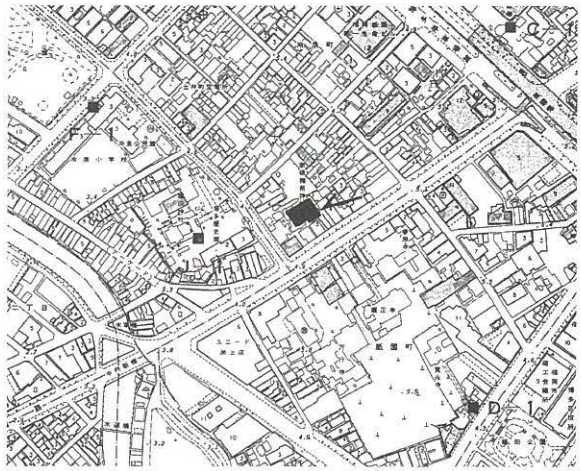
検出遺構　都合上、反転調査となり、西半をＩ区、東半をⅡ区とした。現地表下－２m前後までは、近世末期以降の撹乱や客土が著しい。Ｉ区は現地表下より－2.2 mで第１面とした（標高3.3 ～3.4m）。12世紀後半の整地面がある。第１面の検出遺構は12～14世紀が主体。第２面は古代前期の砂丘面とし、標高3.2～3.0m前後。検出遺構は古代前期もあるが、古代末～中世前期（11～13世紀）が多い。南側は井戸の重複が著しい。井戸側は判明分は全て桶組。北側では東西大溝を検出。第３面は砂丘中にだめ押しで設定。古墳時代前期・古代の柱穴・土壙を検出。

Ⅱ区は第１面を標高3.4m前後とした。12～14世紀の遺構を検出。遺構はきわめて濃密で整地層との区別が困難な部分あり。南側は近世後期の廃棄土壙が重複し、19世紀前半の大型土壙からは博多人形片が多く出土した。第２面は標高3.2～3.1mの古墳時代砂丘面に設定し、古墳前期の土壙・竪穴住居、古代前期および11～13世紀の遺構を検出。Ｉ区と同様、11～13世紀の遺構が濃密だが、井戸は少ない。

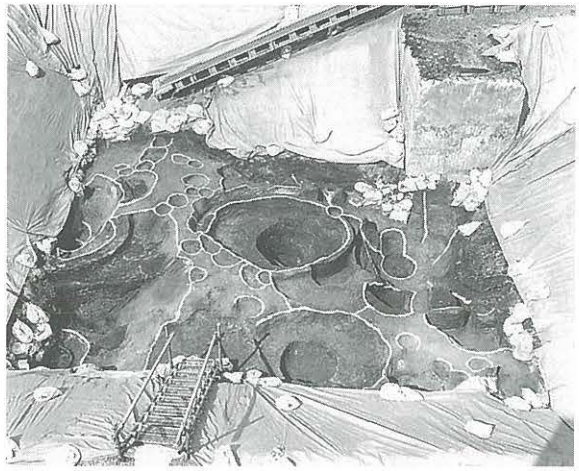
出土遺物　パンケース80箱前後の総量。古墳前期の古式土師器、古代の須恵器・土師器、11～14世紀の輸入陶磁器・土師器・瓦器・国産陶器・瓦・鉄製品・ガラス・坩堝・獣骨など、近世後期の陶磁器・素焼土器・瓦質土器・人形などがある。

ま と め　遺構・遺物の主体は11世紀後半～13世紀で、この時期の遺構の重複が著しい。一方14世紀以降は遺構・遺物が激減する傾向にある。

報告書は2000年度刊行予定である。



1．調査地点位置図（49 天神　0121　1:8000）



2．Ｉ区（西半区）第２面全景（西から）

3．Ⅱ区（東半区）第２面全景（北から）

9920 中山遺跡第１次調査（NAY-1）

所 在 地	早良区早良１丁目・大字西地区	調査面積	7483.24㎡
調査原因	圃場整備	担 当 者	大塚紀宜
調査期間	1999.6.22～2000.3.8	処　　置	記録保存

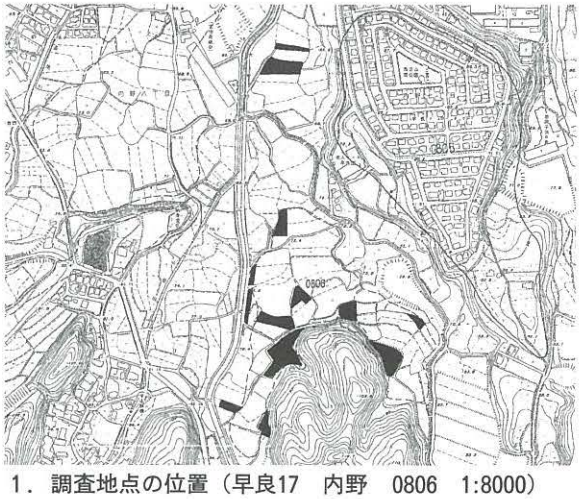
位置・環境　室見川上流域東側に開けた盆地内の、馬立山西側に位置する低位段丘及び扇状地上に位置する。現況は全域が水田で、全体に北から南へ緩く傾斜する。標高は65～90mになる。

検出遺構　調査対象区は12区に分散する。１区では焼土坑、土坑、溝、柱穴などの集落跡と見られる遺構を検出する。2区では半地下式炭窯を検出し、焼土壙、柱穴等もみられる。４区では焼土壙、溝を検出するが、川際で遺構密度は低い。５・６区では柱穴、溝、焼土壙を検出し、縄文前期～後期の遺物も検出される。８・９区では焼土壙、ピットを検出したが山際に位置し、遺構密度も低い。10区では高い密度で遺構が検出され、柱穴、土壙と半地下式炭窯を検出する。11・12区では水田の開発に伴う土石の廃棄土壙が検出される。

出土遺物　各区とも出土遺物は少量で、縄文・中世の遺物を主とする。炭窯、焼土壙内の出土遺物はほとんどなく、他の遺構からの出土遺物も少ない。遺物総量はパンケース20箱相当である。

まとめ　全体を通じて、溝、柱穴をはじめとする集落に関連する遺構と、焼土壙や炭窯等の生産遺構が出土している。焼土壙、炭窯は調査区全域で検出され、水田が開発される以前の山林を利用した操業で、製造した炭の消費先として近隣の製鉄遺跡との関連が伺われる。

報告書は2000年度刊行予定。



1．調査地点の位置（早良17　内野　0806　1:8000）

2．２区半地下式炭窯（南東から）

3．10区半地下式炭窯（西から）

9921 箱崎遺跡第18次調査（HKZ-18）

所 在 地 東区馬出５丁目470　　**調査面積** 920㎡
調査原因 共同住宅建築　　**担 当 者** 榎本義嗣
調査期間 1999.6.14～9.28　　**処　　置** 記録保存

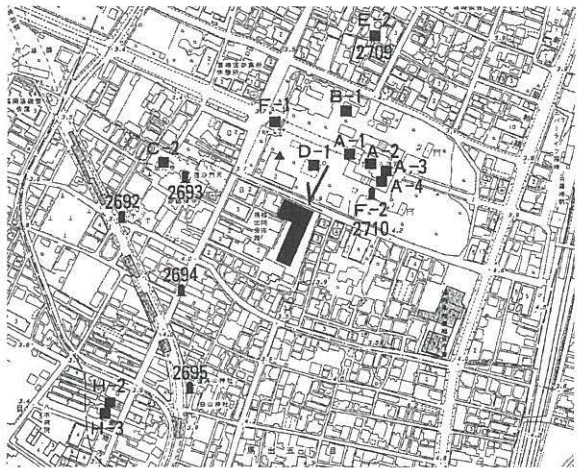
位置・環境　箱崎遺跡は博多湾岸に形成された南北方向の古砂丘上に立地する。本調査区は遺跡南側の西側緩斜面に位置し、標高約2.6～2.9ｍを測る黄褐色砂層上面で遺構を確認した。道路を隔てた調査区北側には筥崎宮が鎮座している。

検出遺構　検出した遺構は中世の井戸、土壙、溝、埋葬遺構、ピットである。井戸の大半は11世紀後半から12世紀後半の所産で、調査区南側において20数基が重複して検出された。井筒を確認し得たものは全て木桶を用いている。土壙は12世紀後半から13世紀代および近世に属する。12世紀後半代の陶磁器を廃棄したものや偏平な礫数個を底面に据えたものが確認できた。溝状遺構は10数状を検出した。幅数10㎝を測る小規模なものが大半であるが、調査区北側で確認した東西方向の溝３条は幅約２ｍ、深さ約１ｍを測り、14世紀末から15世紀代にかけて規模を縮小させながら、重複して掘り直しを行なっている。両端部ともに調査区外に延伸するが、現況での長さは約40ｍにおよび、覆土からは瓦の出土が目立つ。また、埋葬遺構として13世紀代の木棺墓１基を検出した。土師器小皿数点を供献する。

出土遺物　遺物はコンテナ数にして45箱が出土した。土師器、瓦器、須恵質土器、瓦質土器、国産陶器、輸入陶磁器、滑石製品、瓦、銭貨等がある。

ま と め　検出した井戸の時期から該地では11世紀後半に集落の形成が開始されるものと考えられる。また、その重複状況から定型化した集落が継続して営まれたものと推測される。上述した溝はその規模や出土瓦から寺社の区画に用いられた可能性を有するが、溝内部の建物等については今回の調査では明確にできなっかった。

調査報告書は2000年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　1:8000）

2．調査区北側全景（東から）

3．調査区南側全景（南から）

9922 下月隈C遺跡第5次調査（SHC-5）

所 在 地	博多区月隈4丁目地内	調査面積	12,000㎡
調査原因	空港整備事業（調節池建設）	担 当 者	瀧本正志
調査期間	1999.4.8～2000.3.30	処　　置	記録保存

位置・環境　調査地周辺は、福岡平野東辺部を北流する御笠川の沖積作用によって形成された低地で、東を月隈丘陵、西を春日丘陵に挟まれている。調査は、福岡空港の南側に調節池（80,000㎡）を建設するのに先立ち、10年度から5カ年計画で実施している第2年次にあたる。初年度調査では、縄文時代末期～鎌倉時代の水田、集落、河川などの外、多量の木製品が出土した。特に弥生時代後期の高床式建物部材の集中的出土は注目される。

検出遺構　検出した遺構の主な時代は、縄文時代終末期～弥生時代初頭、弥生時代中期、弥生時代後期、古墳時代、奈良時代、鎌倉時代の6時期である。縄文時代終末期～弥生時代は、河川、水田、堰、柵と掘立柱建物からなる集落・生産遺跡である。古墳時代では河川と水田、奈良時代では水田、鎌倉時代では井戸、掘立柱建物、土壙墓が検出された。

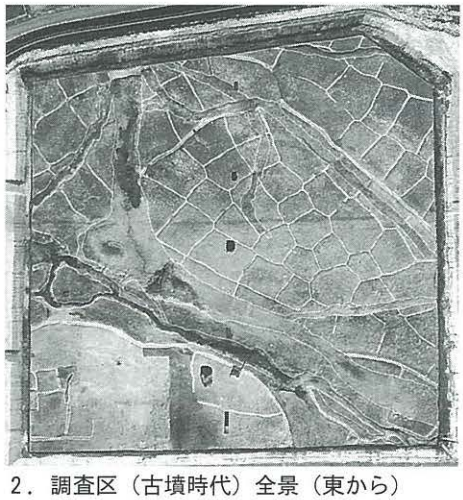
奈良時代の水田は、坪を区画する巾1mほどの畦畔と坪内を区画する巾30cmほどの畦畔により整然と区画されている。これに対して、古墳時代の水田は、大小の畦畔で区画されているものの、極めて不整形な平面形を呈している。

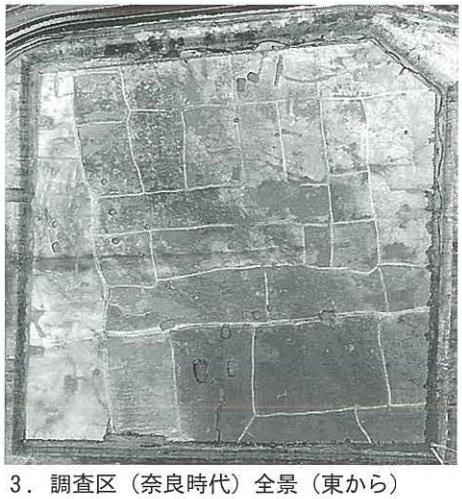
出土遺物　縄文時代終末期～中世の土器、陶器、磁器、石器がコンテナに182箱、弥生時代の農耕具、建築部材、履、楽器などが93点出土した。特に、縄文時代終末期の河川からは、良好な状態で祭祀土器や農耕木製品が出土している。楽器は、わが国で最大の長さが復元できる琴である。

まとめ　前年調査では、調査地周辺における低地への進出が弥生時代の極めて早い段階から行われていたことを示唆する資料を得た。今調査ではその考えに間違いがない裏付けを得ることができた。

調査報告書は2002年度に刊行予定である。

1．調査地点の位置（10　下月隈　2625　1:8000）


2．調査区（古墳時代）全景（東から）


3．調査区（奈良時代）全景（東から）

9923 元岡・桑原遺跡群第15次調査（MOT-15）

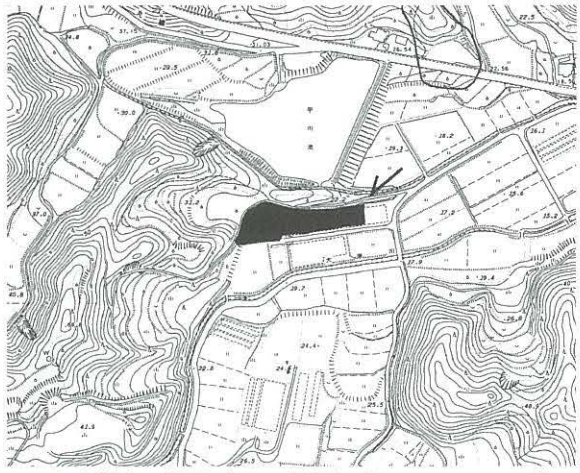
所 在 地　西区大字桑原字履形　　調査面積　2,754㎡
調査原因　大学移転に伴う造成工事　　担 当 者　吉留秀敏
調査期間　1999.6.11～9.28　　処　　置　記録保存（一部盛土保存）

位置・環境　遺跡は福岡市の西端、糸島半島東部の山間にある。調査対象地は小河川である大原川北岸の低地と小谷の前面部分である。標高は12～22mを測る。なお、西側に接する12次調査地点は奈良時代前半期の大規模な製鉄炉群が検出された。

検出遺構　検出遺構は、古墳時代前期の土壙、古代末～中世前期の水田遺構がある。土壙は湧水点にあり、杭列を伴う。土器、木製農耕具が少量出土した。水田遺構は畝畦、溝、石垣、杭列などがある。畝畦は水田床面での確認である。田面は50～80㎡と小規模で、11面を検出した。なお、水田床面下には古墳時から古代の遺物包含層があり、12次調査区に近い包含層の下部から木簡1点が出土した。

出土遺物　遺物はコンテナケースで80箱ある。水田関連遺構から土師器、輸入陶磁器、石製品、木製品などがある。また、包含層からは製鉄に関連する鉄滓、炉壁と土師器、須恵器などが出土した。
他に旧石器、縄文、弥生時代から古墳時代の遺物も少量出土している。

まとめ　古代包含層から出土した木簡は折敷底板を転用したもので、片面に三行約70文字が読みとれる。その内容は、古代の「解除(祓)」に関連するものであり、出土状況から、大規模な製鉄事業の開始に関わる儀礼に伴うものとみられた(『木簡研究』22)。これは律令初期に地方で行われた祭儀に係る重要な資料となるものである。

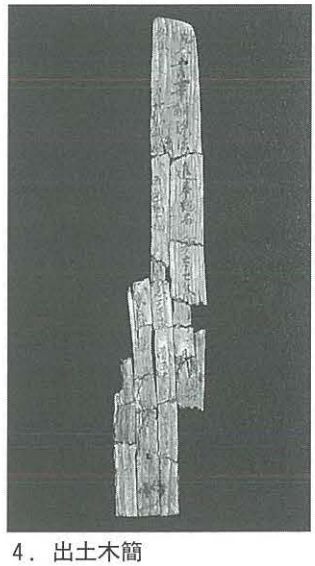


1．調査地点の位置（139　桑原西部　2782　1:8000）

2．調査区全景（東から）

3．木簡出土状況

凡人言事解除法　進奉物者　人方七十七隻（馬カ）　鳥方六十隻（酒人加カ）　須加［　］
水船四隻　弓廿張　矢卅隻　五色物十柄　□□多志五十本　赤玉百□　立志玉百　□
□□二柄　酒三［　］米五升　栗木二□　□木八束（桑カ　東カ）



4．出土木簡

9924 有田遺跡群第193次調査（ART-193）

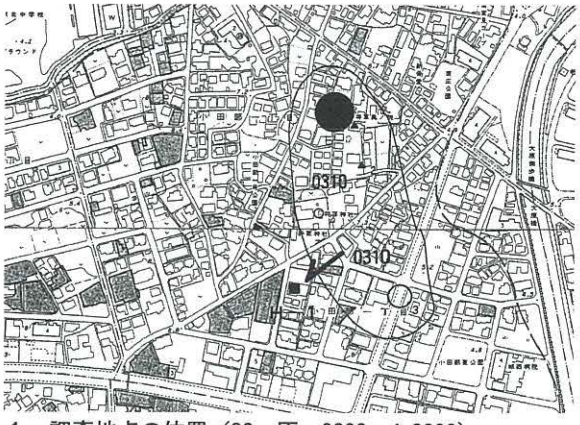
所 在 地　早良区小田部１丁目393
調査要因　専用住宅建築
調査期間　1999.6.14～6.16
調査面積　９㎡
担 当 者　米倉秀紀・藏冨士寛
処　　置　記録保存

位置・環境　有田台地の北側に位置し、北方へ開析する谷の谷頭付近に位置する。現況における遺跡の標高は７ｍ程で、遺構は表土下60㎝の橙色ローム上で検出される。

検出遺構　ピット２
　溝１

出土遺物　中・近世の陶磁器などが若干量出土。

ま と め　いずれの遺構も遺物を伴わず、時期不明。
　なお、報告書は『有田・小田部35』第657集として2000年３月に刊行された。



1．調査地点の位置（82　原　0309　1:8000）

9929 有田遺跡第194次調査（ART-194）

所 在 地　早良区南庄３丁目181
調査原因　農機具倉庫建築
調査期間　1999.7.27～8.12
調査面積　78㎡
担 当 者　米倉秀紀
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は八つ手状を呈する有田台地の北端部近くに位置する。北側50ｍの地点では竪穴式石室を持つ小型の円墳などが見つかっており、東側の隣接地では弥生時代の円形住居が発見されている。

検出遺構　弥生時代中期後半の円形住居の一部と、古墳時代後期のかまどをもった方形住居を発見した。古墳時代の住居は一辺5.5ｍと大きい。かまどは地山削り出しで基部を作り、その上に白色粘土で構築したものと考えられる。また、かまどの東側には、この時期には珍しく、貯蔵用と考えられる土壙があった。他にはピットを検出した。

出土遺物　出土遺物は少なく、弥生土器・石器・土師器・須恵器がコンテナ箱２箱分が出土したのみである。

ま と め　今回の調査では、弥生時代中期の住居跡と、古墳時代の住居跡を検出し、有田遺跡の北端部の集落の状況を明らかにした。
　なお、報告書は2001年度以降に刊行予定。

1．調査地点の位置（82　原　0309　1:8000）

2．調査区全景（南から）

9925 比恵遺跡群第69次調査（HIE-69）

所 在 地　博多区博多駅南５丁目109　　調査面積　150㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　長家伸
調査期間　1999.6.28～7.15　　処　　置　記録保存

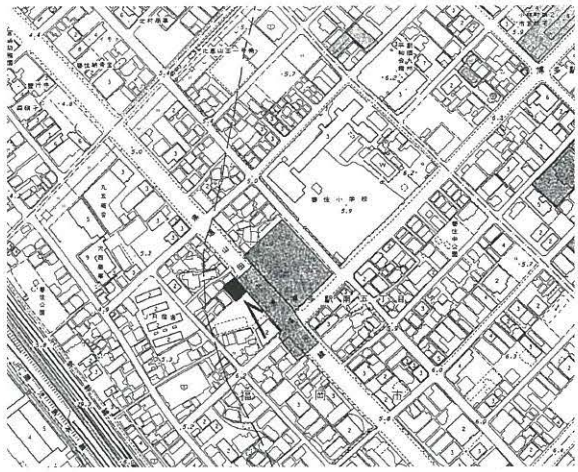
位置・環境　那珂遺跡群は御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地の上に立地している。現況は宅地で標高は約６ｍである。今回の申請地の東側道路部分及びテニスコート部分でも弥生時代の住居跡・貯蔵穴・井戸等の生活遺構や甕棺墓等の埋葬遺構及び古墳時代～古代の生活遺構と官衙的施設と考えられる倉庫群・柵が確認されている。

検出遺構　今回の調査地点で遺構が確認されたのは旧表土直下の鳥栖ローム層上面で、標高は約5.8ｍであるが、戦前からの区画整理による地下げのため遺構がかなり消失しているものと考えられる。遺構は弥生時代前期後半～中期前半の貯蔵穴９基、弥生時代後期の井戸２基、時期不明の柱穴を確認した。

出土遺物　遺物は総量でコンテナ９箱分出土している。井戸からは祭祀に伴う遺物がほぼ完形で底面から出土している。貯蔵穴からは弥生土器破片とともに磨製石鏃が１点出土している。また時期は不明確であるが貯蔵穴を切るピットから辰砂が極少量出土している。磨りつぶす以前の鉱物の状態で出土は県内では４例目、比恵遺跡群内では２例目である。

まとめ　今回の調査で、貯蔵穴群が８次調査地点からさらに西側に広がることが確認された。また辰砂粒の出土により比恵遺跡群内で辰砂の流入が比較的潤沢であったことが想定できる。

報告書は2001年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（37　東光寺　0127　1:8000）

2．調査区西半分全景（東から）

3．貯蔵穴土層断面（北東から）

9926 鋤崎古墳群B-5号墳（SKZ-B-5）

所 在 地　西区今宿青木421-4他
調査原因　社屋建設
調査期間　1999.6.21～7.29
調査面積　290㎡（古墳1基）
担 当 者　米倉秀紀・蔵富士寛
処　　置　記録保存

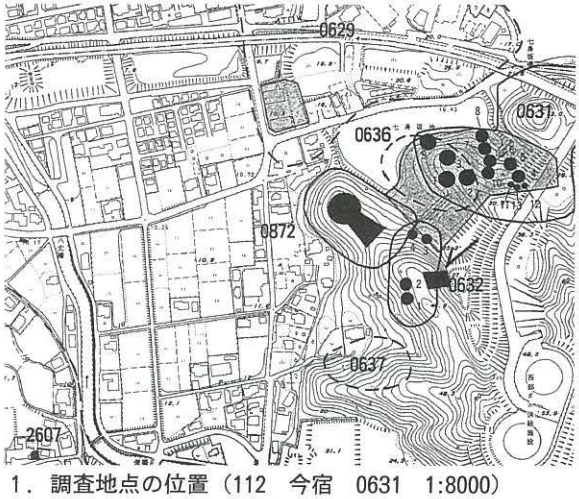
位置・環境　当古墳は鋤崎古墳（前方後円墳）の南東側、すでに調査を行ったA群の南側に位置する。福岡市文化財分布地図ではB群は4基の古墳からなるが、今回調査を行った古墳は、分布地図になく、5号墳の名前を付した。ただし、3・4号墳は現地では確認できなかった。

検出遺構　古墳は谷底から約10mの高さにあり、東向きの斜面上に立地している。古墳は直径約8mの円墳で、東側はすでに墳丘が流出している。古墳の高さは現存で約1mを測る。主体部は両袖横穴式石室で、斜面と平行に南側に開口している。玄室は1.8×1.8mの方形プランである。羨道部は東側壁と天井をすべて喪失している。西側壁は長さ2.4mを測る。羨道部からはそのまま墓道につながる。墓道は地山を断面台形に掘削して作られている。墓道は長く、最後に斜面を東に下って谷底にいたっている。この斜面に平面長方形の石を5段埋設して階段を作っていた。この墓道（墓道1）とは別に2本の墓道が検出された。1本は墓道1の西側（山側）にある墓道（墓道2）で、途中で墓道1とつながっている。もう1本は石室の羨道部東壁を壊した部分から斜面を下っている墓道（墓道3）で、羨道部床面と墳丘の一部を掘り込んでいる。

出土遺物　石室内からはガラス玉1点と鉄製品、羨道部からガラス勾玉1点、ガラス玉1点、鉄鏃3点、土器片、墓道1から石製勾玉1点と土器群、鉄滓が、墓道3からはガラス玉1点と土器群が出土した。また墓道1の平坦面と階段状遺構の上下から多くの完形土器群が出土した。

ま と め　以上のように当古墳は古墳時代の葬送儀礼を考える上で貴重な資料と言える。

報告書は2001年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（112　今宿　0631　1:8000）

2．調査区全景（東から）

3．階段状遺構（北東から）

9927 博多遺跡群第118次調査（HKT-118）

所 在 地　博多区冷泉88-1
調査原因　社屋建築
調査期間　1999.7.13～9.30
調査面積　200㎡
担 当 者　大庭康時
処　　置　記録保存

位置・環境　本調査地点は、博多湾岸に形成された砂丘上に展開する博多遺跡群の、南西部分に位置する。13世紀以来存在が知られる櫛田神社の東側に近接する。

検出遺構　古墳時代から現代に至る遺構・遺物が発見された。古墳時代では、竪穴住居跡と思われる遺構が数基あるが、後世の遺構に切られており、はっきりとしない。

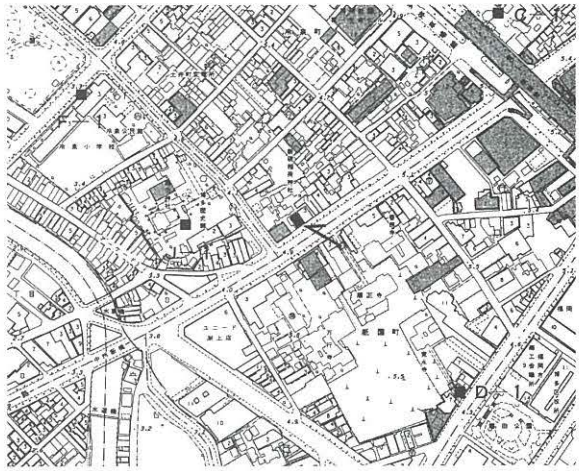
奈良時代では、合口甕棺が1基営まれていた。また、柱穴状ピットから皇朝十二銭の「隆平永宝」が出土した。

中世にはいると、11世紀後半から遺構・遺物は急増する。特に白磁碗・皿を廃棄した土壙では、量・質ともに見るべきものがある。鎌倉時代末の14世紀前半には、調査区を北東－南西に横断して浅い溝が掘られている。隣接地での過去の発掘調査では、この溝の延長は見られず、おそらく両調査区の間で折れ曲がる区画溝と考えらえる。この溝には、その廃絶にあたって、大量の土師器皿・坏が捨てられている。

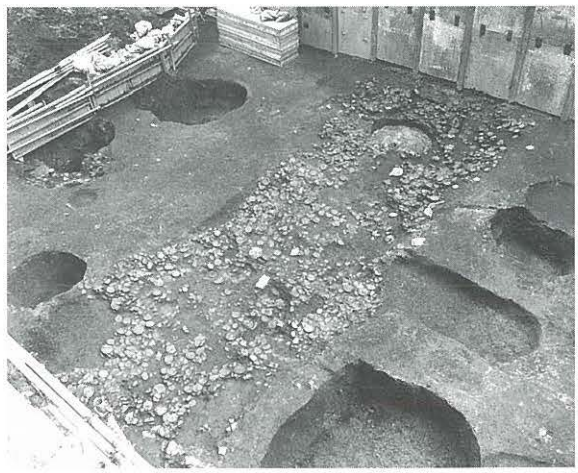
中世後半の遺構・遺物は見られないが、江戸時代の18世紀以降素焼き物の工房が営まれており、大型の廃棄土壙が多数掘られている。

出土遺物　今回の発掘調査では、弥生～近世に及ぶ土器・陶磁器・金属製品などコンテナ224箱分が出土した。

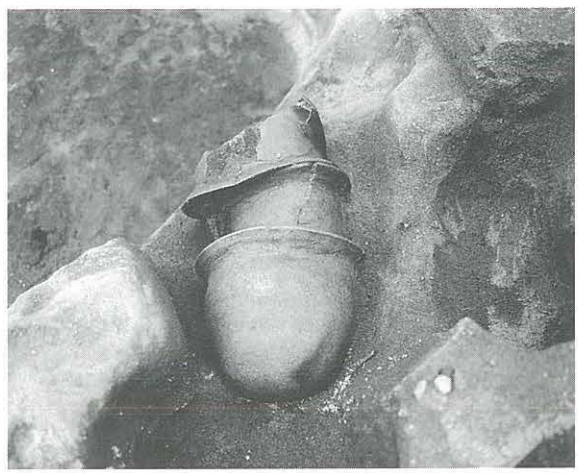
まとめ　今回の発掘調査で特筆すべきものとしては、14世紀前半の溝上の土師器一括廃棄があげられる。この類の遺構は、武家儀礼に関わる饗宴に伴うとされているもので、本調査区周辺が、鎌倉時代末期に博多に設置された鎮西探題の推定地に近いことから、未だ遺構としては確認されていない鎮西探題館にせまるものとして、注目される。



1．調査地点の位置（49　天神　0121　1:8000）



2．第1面検出かわらけ廃棄溝



3．第3面検出奈良時代甕棺墓

9928 原遺跡群第20次調査（HAA-20）

所 在 地　早良区原6丁目2-30
調査要因　店舗改築
調査期間　1999.7.12～10.7
調査面積　833㎡
担 当 者　藏冨士寛
処　　置　記録保存

位置・環境　原遺跡群は室見川東岸に位置し、標高６ｍ前後の低位段丘上に存在する遺跡群で、当調査地はこの北端にあたる。遺構面はかなりの削平を受けていたが、それでもまとまった遺構の検出をみることができた。

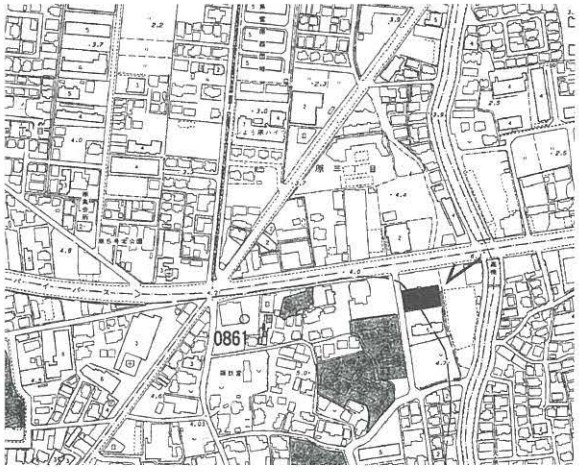
検出遺構　弥生時代（中期）：竪穴住居４　溝２
掘立柱建物
ピット群

検出した遺構の大半が弥生時代中期に相当する。住居は円形が２軒、方形が２軒で、調査区中央部に位置する円形住居は3.7×3.3ｍを測る。掘立柱建物は柱穴掘方が一辺0.7 ｍ程の略方形を呈する。調査区隅にかかっているため全貌は不明。柱穴の切りあいにより少なくとも２時期にわたる。遺跡の中央を走る溝は幅１ｍ、深さ0.3ｍ程で、遺跡中央でＬ字状に折れ曲がる。

出土遺物　出土遺物はコンテナ８箱ほどで、その大半が弥生時代（中期）に属するものである。

まとめ　当調査では、原遺跡群北端に位置すると考えられていたにもかかわらず、まとまった量の遺構を検出することができた。その遺跡の広がりを考える上でも有効な資料となろう。また溝の性格についてはその他の調査箇所で検出されているものも含めて今後考察していきたい。

なお、報告書は2000年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（82　原　0311　1:8000）

2．調査区東区（北から）

3．竪穴住居跡（北西から）

9930 箱崎遺跡群第19次調査（HKZ-19）

所 在 地　東区箱崎１丁目2940-１　　調査面積　160㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　長家伸
調査期間　1999.7.29～8.27　　処　　置　記録保存

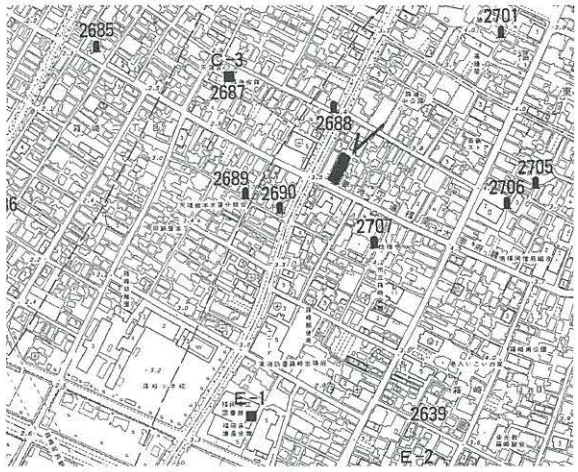
位置・環境　箱崎遺跡群は博多湾に面した砂丘の上に立地している。この砂丘はこれまでの調査の結果から現在の箱崎～馬出の間にひろがり、通称「大学通り」を中心として広がる遺跡群であることが確認されている。箱崎遺跡群ではこれまでの発掘調査で古墳時代～江戸時代までの遺構が確認されている。この中でも筥崎宮創建（923年）～鎌倉時代末までの遺構・遺物が最も広範囲で密度も濃く残っている。調査地点は砂丘の西側端に近く、南北に細長い調査区である。遺構面は黄白色の風成砂で標高2.2mを測り、調査区内では砂丘上の傾斜は認められなかった。

検出遺構　本調査区で確認した遺構は井戸８基・土壙・掘立柱建物・溝・ピットなどがある。時期は平安時代末～室町前期に限られている。埋葬遺構は検出していない。比較的狭い調査区の中で井戸が集中して見つかっている。井戸はいずれも井筒に木桶を使ったものである。いずれも標高0.8mあたりで湧水が著しく完掘はできていない。掘立柱建物では20㎝程の自然石を根石として据えていた。

出土遺物　総量でコンテナ20箱分出土している。遺物としては土師器・陶磁器が大半である。

まとめ　本調査地点周辺は箱崎遺跡群のなかでも調査があまり行われていない地域で、砂丘西側の集落の構成状況を知る手がかりとなる。今後の調査事例の増加に期待したい。

報告書は2001年刊行予定である。



1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　1:8000）

2．調査区全景（南から）

3．井戸（西から）

9931 有田遺跡第195次調査（ART-195）

所 在 地　早良区小田部５丁目16-3
調査原因　専用住宅建築
調査期間　1999.8.23～9.13
調査面積　131㎡
担 当 者　米倉秀紀
処　　置　記録保存

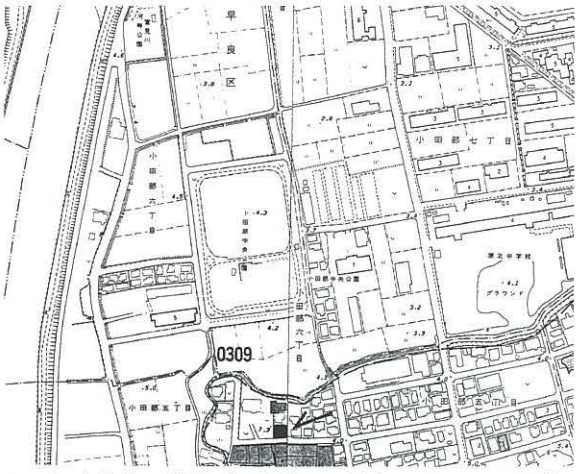
位置・環境　調査地点は八つ手状を呈する有田台地の西北端部近くに位置する。周辺では弥生時代の甕棺・古墳時代の住居群・大型建物、中世の館などが検出されている。

検出遺構　検出した遺構は大きく２時期に分けられる。古墳時代末頃の大型建物１棟と中世末頃の館に伴う溝２条である。前者はいわゆる３本柱柵に伴うもので、３×４間の布掘建物である。柵は削平のため存在しなかった。後者は15～16世紀頃の幅１ｍ前後の溝２条で、ともに南北方向に走る。

出土遺物　出土遺物の総量は平箱２箱である。そのほとんどが中世の溝から出土したもので、陶磁器・土器が出土した。大型建物からは土器の細片が若干出土しただけである。

まとめ　大型建物は有田遺跡や比恵遺跡で確認されている３本柱柵に伴うもので、概ね６世紀後半代～７世紀初頭頃に比定されている。有田遺跡では７箇所確認されており、当地区では柵内の東辺に沿って３×４間の総柱建物２棟が検出されている。今回検出した総柱建物は柵の北辺に沿うもので、この柵内で３棟目の建物となる。

報告書は、2001年度以降刊行予定。



1．調査地点の位置（81室見　90石丸　0309　1:8000）

2．調査区北半部全景（東から）

3．調査区南半部全景（南から）

9932 那珂遺跡群第71次調査（NAK-71）

所 在 地　博多区那珂１丁目655　　調査面積　193㎡
調査原因　専用住宅建築　　担 当 者　上角智希
調査期間　1999.8.23～10.1　　処　　置　記録保存

位置・環境　那珂遺跡群は福岡平野のほぼ中央部、那珂川と御笠川にはさまれた中位段丘上に所在する。当調査地は那珂八幡古墳の北西約150 mの台地上に位置し、標高9.5 mを測る。調査地の北東30mの地点では第８次調査が実施され、弥生時代の集落が確認されている。

検出遺構　古墳時代初頭の溝１条、古墳時代後期の竪穴住居３棟、近世前期の溝１条のほか、柱穴多数を検出した。

古式土師器が出土した溝SD02は幅40㎝、深さ20～35㎝を測り、調査区を南北に走る。竪穴住居跡SC06は3.8×3.9 mの方形を呈し、７世紀に位置付けられる。近世の溝SD01は幅2m30㎝、深さ60㎝を測り、南北方向に縦断する。

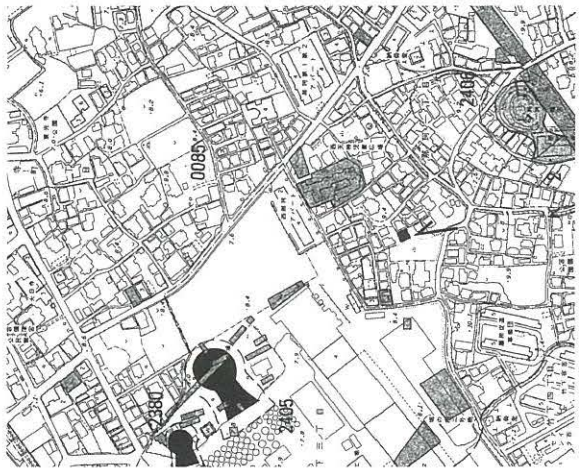
弥生時代の遺構は検出できなかったが、弥生土器が相当数出土している。

出土遺物　遺物の総量はコンテナ13箱分である。古墳時代の土師器、須恵器を中心に、弥生土器、古式土師器、中世・近世の遺物が出土した。

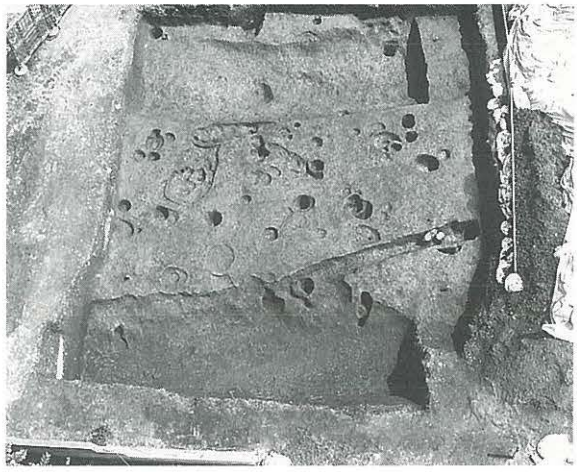
まとめ　これまでの調査の成果をもとに、那珂・比恵遺跡群の所在する台地の西縁を南北に縦断する、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて存続した、並列二条溝の存在が推測されている。古式土師器が出土した溝SD02は、この並列二条溝の東側溝の可能性がある。

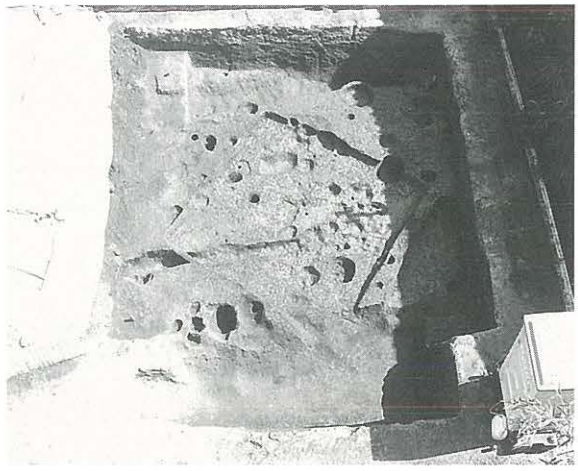
当地点も周辺の調査地点と同様、弥生時代から近世に至るまで、連綿として集落またはその周辺施設として利用されてきたことが分かった。

なお、報告書は2000年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（37　東光寺　85　1:8000）


2．調査区北半部全景（西から）


3．調査区南半部全景（西から）

9934 元岡・桑原遺跡群第17次調査（MOT-17）

所 在 地　西区大字元岡字池ノ浦
調査原因　大学移転に伴う造成工事
調査期間　1999.9.10～12.8
調査面積　680㎡（古墳２基）
担 当 者　松浦一之介
処　　置　記録保存

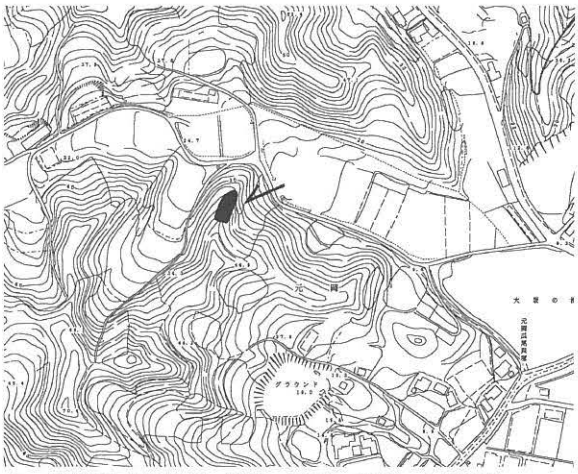
位置・環境　糸島半島の東部、金比羅山から東に延びる丘陵上に元岡池ノ浦古墳が所在するが、調査地点はそこから更に北東に派生する、標高40ｍ程度の舌状丘陵の端部に立地する古墳群である。

検出遺構　本古墳群は円墳２基で構成される。墳丘規模は共に約11ｍで地山整形を行った後、粘質土と砂質土で版築状に盛土しているが、後背面は果樹園の造成で大きく削平されている。内部主体は、共に竪穴系横口式石室で石材には花崗岩を用い、床面には敷石が施されている。開口方向はいずれも西側である。１号墳石室は奥壁側が大きく破壊されている。規模は玄室長 157㎝、奥壁推定幅80㎝、前幅69㎝である。横口部には羨道状の側壁が設けられ、墓道はほぼ水平である。２号墳の石室も石材が抜き取られ、腰石を留めるにすぎない。規模は玄室長196㎝、奥壁、前幅共に79㎝を測る。横口部は大きく破壊され、墓道はほぼ水平である。

この他の遺構としては、古墳群の西側斜面で焼土坑を２基検出している。また尾根上に沿って試掘溝を設けたが古墳は確認されなかった。

出土遺物　出土遺物の総量はコンテナ箱にして４箱である。須恵器、土師器が石室や墓道から出土した他、１号石室には鉄器、ガラス製小玉等が副葬されていた。

まとめ　古墳群の築造年代は出土した須恵器の年代観から６世紀後半と考えられる。また、トレンチの土層観察から、１号墳が先に築造されたものと考えられる。墓道の土層観察から１号墳は初葬を含めて３回、２号墳は５回の埋葬があったものと推定される。



1．調査地点の位置（129　桑原　2782　1:8000）

2．元岡古墳群B群全景（北から）

3．2号墳石室全景（西から）

9935 那珂遺跡群第72次調査（NAK-72）

所 在 地　博多区那珂６丁目11-153・154　　**調査面積**　164.85㎡
調査原因　個人住宅建築　　**担 当 者**　長家伸・阿部泰之
調査期間　1999.9.3～10.6　　**処　　置**　記録保存

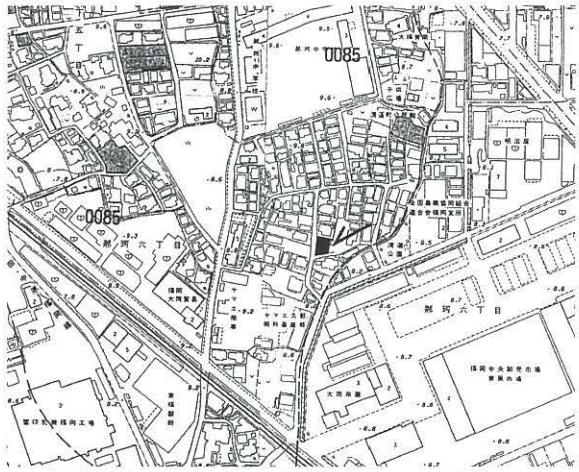
位置・環境　本調査区は御笠川・那珂川両河川に挟まれ、春日丘陵から標高を漸減させながら北西にのびる洪積丘陵上に立地し、那珂遺跡群の南端部に位置する。遺構は標高約10ｍの現地表面より－１ｍの鳥栖ローム上にて検出される。古代～中世の遺構が検出された48次調査区の西約100ｍの地点に位置する。

検出遺構　検出した遺構は古墳時代後期の竪穴住居２軒・時期不明確なもの２軒・掘立柱建物２棟・土壙１基・柱穴多数で、遺構は調査区全体に分布する。

出土遺物　出土した遺物は弥生土器・須恵器・土師器・陶磁器で、遺物コンテナ５箱分である。大半の須恵器は竪穴住居SC01・02からの出土である。弥生土器は全て遺構面直上の遺物包含層からの出土であるほか、竪穴住居SC01に切られる土壙より黒曜石製打製石鏃が１点出土している。

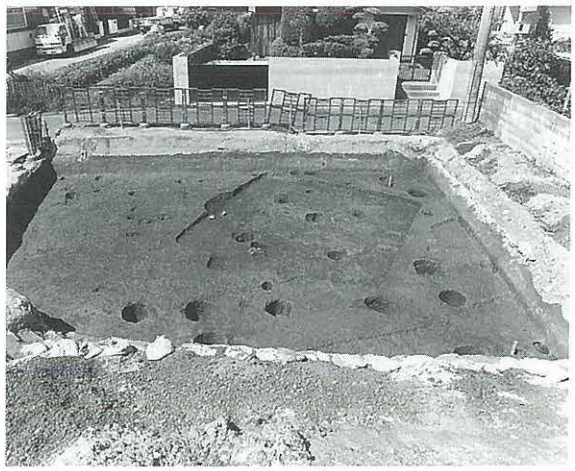
ま と め　検出された遺構で時期の明確なものは古墳時代後期の竪穴住居２軒のみである。掘立柱建物は、柱穴内からの確実な遺物はなくはっきりした時期は確定できないが、古墳時代後期の住居を切っており、すくなくとも住居廃絶以降の所産と思われる。また竪穴住居SC01・02より鉄滓が出土している。SC02からは椀形滓が出土しており、調査区周辺で鍛冶が行われていた可能性がある。柱穴の１つからは11世紀末頃の白磁皿が３個体一括で出土しており、当該期の集落の存在が指摘できる。

なお、報告書は1999年度に報告書刊行予定。



1．調査地点の位置（24　板付　0085　1:8000）

2．調査区東半部全景（西から）


3．調査区西半部全景（東から）

9936 高畑遺跡第18次調査（TKB-18）

所 在 地　博多区板付６目地内
調査原因　道路建設（外環状線）
調査期間　1999.9.1～2000.2.29（Ⅰ区）
2000.4.13～6.28（Ⅱ・Ⅲ区）
調査面積　4,750㎡
担 当 者　長家伸
処　　置　記録保存

位置・環境　申請地は旧九州管区警察学校敷地内で、外環状線建設に伴い埋蔵文化財の発掘調査を行った。高畑遺跡は御笠川と諸岡川沿いにはさまれた洪積台地上に広がる遺跡群である。対象地は台地を東西に横断するもので、東側をⅠ区、西側をⅡ・Ⅲ区として調査を行った。また台地中央尾根線上は削平が著しく遺構は確認できていない。

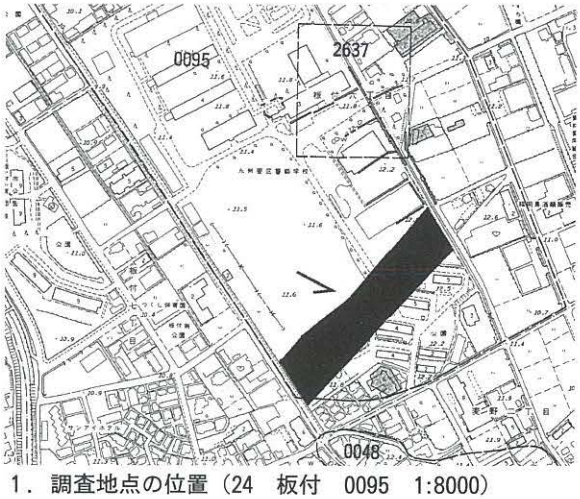
検出遺構　Ⅰ区　削平が著しく弥生時代前期貯蔵穴５基、後期竪穴住居１基、溝１条、中世溝１条、古代～中世道路状遺構１本を検出している。道路状遺構はいわゆる西海道水城東門ルートと言われるものである。現状で幅約20ｍの切り通しとなっている。路面には波板状と総称される凹凸面が形成され砂質土を充填している。また道路表層には砂質土およびシルト質土を広げており、整備状況が良好に観察できる。また路床部分に瓦・磚による地鎮状の遺構も検出されている。

Ⅱ・Ⅲ区　削平が大きい中でも台地の縁辺部分を中心に遺構を検出している。確認したものは弥生時代後期の竪穴住居跡12棟、掘立柱建物跡５棟、井戸・土壙25基、溝１条、古墳時代の竪穴住居２棟及び滑石製品の製作工房１基である。滑石工房からは臼玉・未製品・チップ・原石が多量に出土している。また溝からは多量の遺物が出土しており確認した以外にも多くの遺構が存在したことが想定できる。

出土遺物　総量でコンテナ200箱分出土した。

まとめ　道路状遺構は周辺の調査から８世紀代に造られ12世紀代まで存続したと考えられている。今回の調査区においても波板状の凹凸面からは12世紀中頃までの遺物が出土しておりこれを裏付ける結果となっている。今回の調査は構造を考える上で特に貴重な成果をあげている。

なお、報告書は2002年度刊行予定。



1．調査地点の位置（24　板付　0095　1:8000）

2．Ⅰ区全景（西南から）

3．道路状遺構内波板状遺構（南東から）

9937 三筑遺跡第３次調査（SCC-3）

所 在 地	博多区板付７丁目地内	調査面積	1,200㎡
調査原因	道路建設（外環状線）	担 当 者	長家伸
調査期間	1999.9.1～10.31	処　　置	記録保存

位置・環境　三筑遺跡は、諸岡川右岸沿い立地する遺跡群であり、これまでに２次にわたる発掘調査が行われ、水田およびこれに伴う水利遺構が確認されている。本調査地点は麦野・板付地区に存在する洪積台地西側の沖積地部分にあたる。調査前は水田として利用されており、一部は盛土を行って宅地化されていた。旧水田は標高10.5m、盛土後の生活面は標高11.5m である。

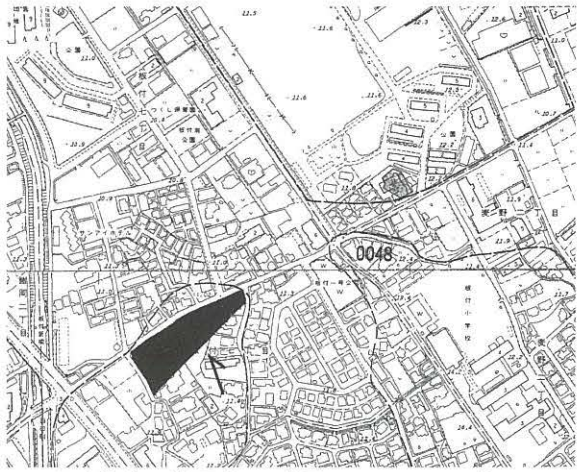
検出遺構　調査は重機による表土除去から行い、盛土-水田土-床土を除去した黄褐色～黄白色シルト上面が遺構確認面である。この遺構確認面は標高10～10.2ｍを測り、ほぼ平坦であるが、調査区の西端で諸岡川方向に向かって傾斜を始めており、これより西側は旧諸岡川の河川流路内にあたるものと考えられる。

検出した遺構は溝・土壙等の水田に伴う施設である。水田の時期については遺構の性格上遺物が少なく不明瞭な点が多いが、陶磁器の破片が出土しており中世以降の水田と考えられる。また水田にともなう畦畔については今回の調査では確認できなかったため水田の区画等は不明である。

出土遺物　土師器・須恵器・陶磁器がコンテナ１箱分出土しているが、小破片がほとんどである。

まとめ　水田遺構が確認できたが時期が不明瞭であった。またこれに伴う施設も確認されていない。周辺の遺構のあり方とあわせて検討していく必要があろう。

報告書は2000年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（25　井尻　0104　1:8000）

2．調査区全景（西から）

3．調査区土層（東から）

9938 梅林遺跡第５次調査（UBY-5）

所 在 地	城南区梅林２丁目地内	調査面積	626㎡
調査原因	道路建設（外環状線）・地下鉄建設	担 当 者	井澤洋一
調査期間	1999.7.15～9.30	処　　置	記録保存

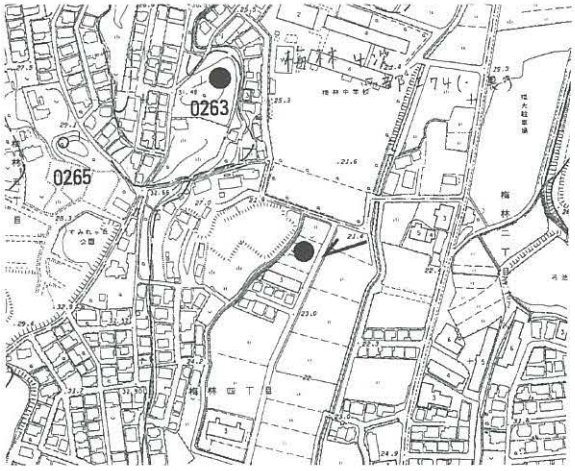
位置・環境　標高約600ｍを測る油山からは、博多湾に向かって幾つもの舌状丘陵が派生する。その丘陵の内、標高30～40ｍの丘陵からは、更に東や西方向に枝状に舌状台地が分岐している。当遺跡は、この西北方向に突き出した丘陵に挟まれた、狭く浅い谷部に存在する。標高は、約22.4～21ｍを測る。当該地の西側には、古墳時代の豪族の居館跡等を検出した梅林遺跡第１次調査地点が隣接し、更に、その西方約20ｍの地点には、古墳～戦国時代の水田跡を検出した第３次調査地点が存在する。

検出遺構　遺構は、古墳時代の溝２条、池状遺構１基、古墳～江戸時代の水田跡４面、堰堤２条、暗渠２条、平安～江戸時代の溝２条である。

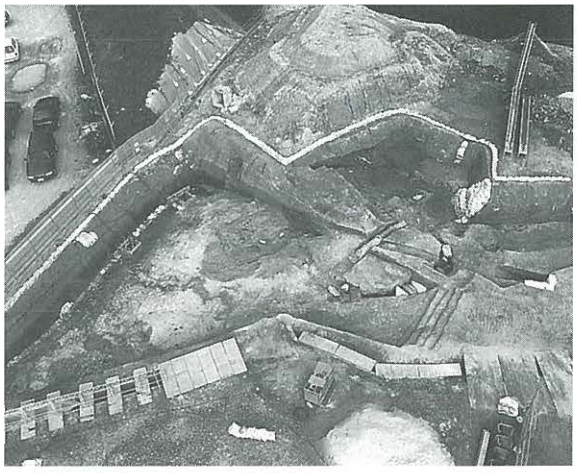
出土遺物　縄文時代の打製石鏃、古墳時代の須恵器坏・蓋・甕、土師器甕・鉢・壺、鉄滓、平安時代の土師器椀・皿、鎌倉～江戸時代の瓦質土器、白磁碗等が出土している。

ま と め　当調査地点は、その大部分が弓池、及び堰堤に含まれている。

弓池は、出土遺物等により古墳時代以降に構築されたと考えられる。それ以前は、池状遺構SG02のように、冷たい谷川水を一時的に溜める温め構造機能の池が多数作られていたと考えられる。このような構造の池は、第３次調査で検出したような狭い耕作地に適応したものであったと言えよう。当調査は、小河川の開析によって形成された、谷平野に於ける耕作地の拡大・展開の過程を知ることができるものである。



1．調査地点の位置（74　七隈　2775　1:8000）


2．調査区全景（西から）

3．堰堤及び暗渠（南から）

9939 元寇防塁跡第８次調査（GKB-8）

所 在 地	早良区西新6丁目798-1他	調査面積	150㎡
調査原因	校舎建築	担 当 者	大塚紀宜
調査期間	1999.9.27～11.5	処　　置	記録保存

位置・環境　西新地区の元寇防塁史跡指定地区の東側に近接する。西南学院大学構内に位置する。南側に面する道路から1.5ｍほど高くなり、防塁に伴って形成された砂丘が遺存するものとみられる。

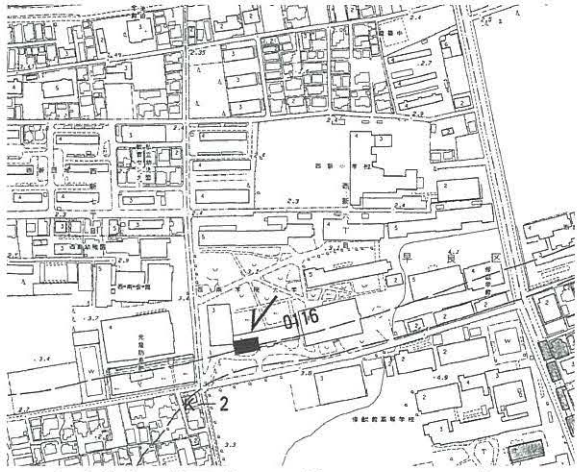
検出遺構　旧校舎の基礎の下部から防塁後面に積まれた石垣が出土する。自然石のみを用いており、砂丘基盤の上に粘土を貼って地盤を安定させ、石を積み上げている。また石材は防塁の外面に使用し、石塁内部は粘土で構築する。防塁前面の推定線付近には大型の石材が散在し、前面の根固め石と考えられる。

また、石塁とは別に背面に築かれた土塁を検出した。土塁方向は石塁方向と平行しており、石塁と50㎝～１ｍの間隔をとり、間隙に風成砂層が堆積している。断面で粘土と砂の細かい互層構造が見られ、前面の石塁内部の粘土よりも細かい積み上げを行っている。土塁の前面、後面はほぼ直立し、土塁後面は砂層で緩いスロープを作っている。

出土遺物　土塁内部から須恵器小片が出土している。風成砂層中から近世以降の遺物が出土する。遺物総量は15点で、中世の遺物は出土していない。

まとめ　使用される石材は他の防塁で使用されている石材より小型で、材質から今津海岸産と推定される。土塁は他の地区の防塁では検出されず、その機能、構築時期については課題が残る。

報告書は2001年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（71　西新　0116　1:8000）

2．防塁検出状況（北から）

3．防塁検出状況（北西から）

9940 吉武遺跡群第８次調査（YSZ-8）

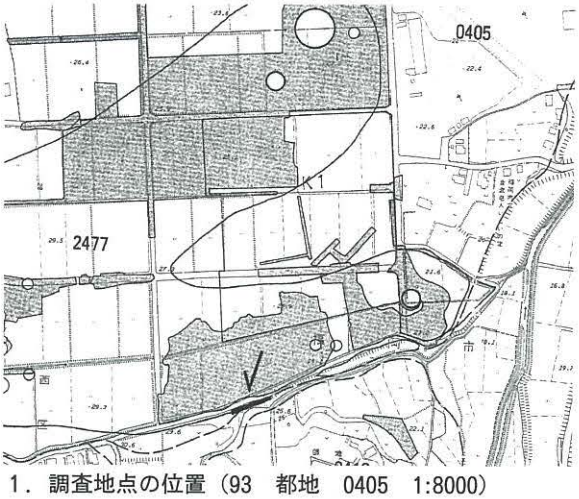
所 在 地	西区大字吉武字高木	調査面積	37㎡
調査原因	下水道工事	担 当 者	大塚紀宜
調査期間	1999.9.6～9.8	処　　置	記録保存

位置・環境　調査地点は吉武遺跡群全体の南端に位置する。吉武遺跡群第４次調査の南側に隣接する地点で、本調査地点の南側はすぐに台地端部の段落ちになる。

検出遺構　調査範囲は幅１ｍ、全長37ｍで、現地表面である道路面より70㎝下で遺構面となる。遺構面は明褐色粘質土で礫を多く含み、遺構面と現地表面の間層は大部分が客土による盛土である。土層状況から、現遺構面が削平を受けていることが予想できる。掘削の結果、柱穴、溝を検出した。柱穴は30㎝～70㎝の大きさのものを主体とする。柱穴覆土は暗灰色粘質土で礫を多く含み、堅い。

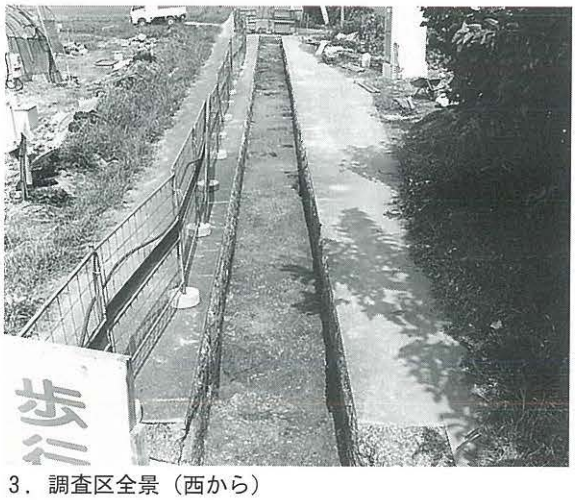
出土遺物　柱穴からは弥生土器が磨耗した状態で出土したほか、須恵器破片が出土した柱穴もある。遺物の出土量としては比較的多く、パンケース１箱相当が出土している。

ま と め　柱穴のうち、調査区内で建物を構成すると確定できるものはないが、柱穴の中で柱根が残るものがあり、建物の一部が調査区内にかかることが考えられる。第４次調査区とは距離があり、建物などが直接連続するとはみられない。第４次調査によると本調査区の北側に隣接する地域は遺構の密度が周囲と比較して薄くなり、遺跡群の端部としての景観がうかがえる。



1．調査地点の位置（93　都地　0405　1:8000）

2．調査区全景（東から）


3．調査区全景（西から）

9941 博多遺跡群第119次調査（HKT-119）

所 在 地　博多区中呉服町119-2他8筆　　調査面積　340㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　本田浩二郎
調査期間　1999.9.27～11.18　　処　　置　記録保存

位置・環境　博多遺跡群は福岡平野の博多湾岸に位置し、那珂川と御笠川（石堂川）の河口に挟まれた三角州平野上に形成される遺跡群である。本調査地点は博多遺跡群の二つの砂丘北側の砂丘上の東南端部の落ち際に位置する。遺構面は一面のみで褐色粗砂層で標高は２ｍ前後を測る。

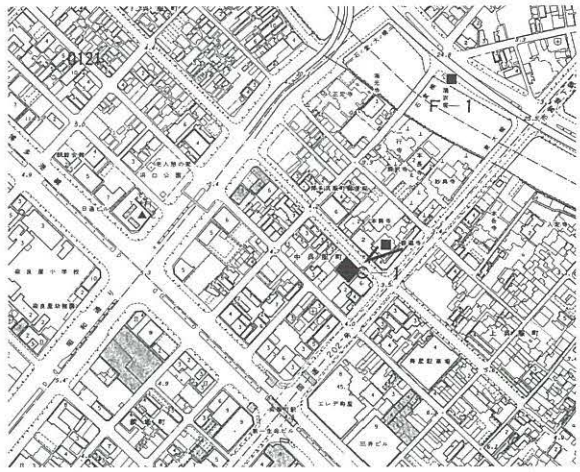
検出遺構　調査の結果、古代から中世まで遺構を検出した。このなかでも12世紀～13世紀の遺構が多くみられる。検出した遺構は井戸・溝状遺構・方形土壙・石組遺構・柱穴などである。井戸は11基検出されたが、井筒は有機質のものを使用していたため残存していなかった。本調査地点での湧水は標高１ｍ前後である。

出土遺物　遺物はコンテナケースで40箱分が出土した。土師器、白磁・青磁等の貿易陶磁器、国産陶器、須恵器・銅製品などがある。包含層からは８世紀後半に属する須恵器碗、９世紀前半に属すると考えられる銅鏡が出土した。

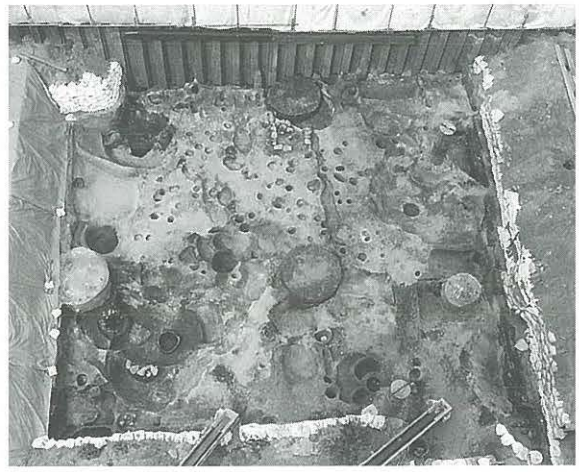
まとめ　調査区の北東方向には石堂川が流れており、調査区中央に川に直交するようにトレンチを設定し堆積状況を確認したところ、石堂川に向かって交互に粗砂が堆積していることが確認できた。勾配は緩やかであるが、調査地点が石堂川左岸の自然堤防の後背地上に位置していることが分かる。

今回の調査では８世紀後半から14世紀代までの遺構・遺物が検出され、付近一帯が永続的に集落として土地利用されていたことが分かった。

なお、報告書は2000年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（48　千代博多　0121　1:8000）


2．調査区全景（東から）

3．遺物出土状況（南から）

9942 比恵遺跡群第70次調査（HIE-70）

所 在 地	博多区博多駅南４丁目99	調査面積	313.8㎡
調査原因	共同住宅建築	担 当 者	井上繭子
調査期間	1999.10.1～11.15	処　　置	記録保存

位置・環境　比恵遺跡群は、福岡平野を北流する御笠川と那珂川に挟まれた中位段丘上に立地する。本調査区は比恵遺跡群の北東端に位置する。遺構は現地表下約１ｍ、標高約4.8 ～4.4 ｍの鳥栖ローム上面で検出された。遺構面は北東側に向かい傾斜しており、台地の縁辺部であると推定される。

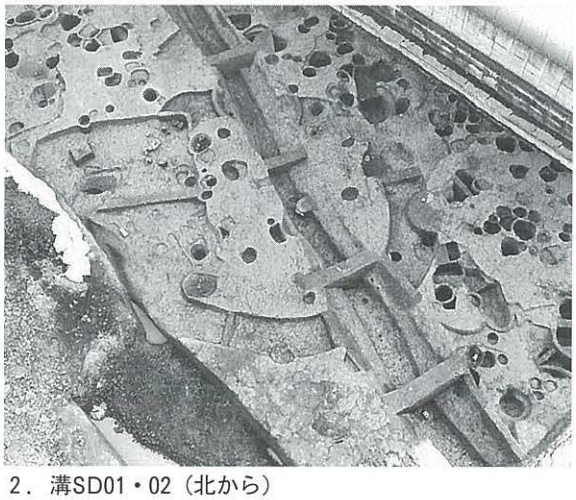
検出遺構　遺構は調査区の北東端以外の全域で検出された。検出遺構は弥生時代中期から後期の住居跡、井戸、土壙、ピット、１×２間の掘立柱建物、及び溝２条である。SD01は東南東から西北西の方向へほぼまっすぐに走る。SD02は東から西へ走り、途中SD01に切られ、南西へ向きを変える。SD02は両端が途切れており、壁がほぼ直で立ち上がる。また、溝の北側よりの地山上には弥生時代後期後半から終末期の土器が多量に集中して分布しており、SD02の時期を特定できよう。SD01は、埋土の色や須恵器・白磁等の出土遺物から古代以降の時期が推定される。住居は周溝と柱穴のみの残存であるが、２本の主柱穴を持つ円形住居跡であると考えられる。井戸は６基検出されたが、そのうち１基の底から丹塗りの袋状口縁壷が完形で出土している。

出土遺物　いずれの遺構からも弥生時代中期の遺物が多く出土している。SD02からは弥生時代後期後半から終末にかけての土器が多量に出土した。パンケースで35箱程度である。

まとめ　本調査区は比恵遺跡群の北東端で台地の縁辺部に立地しており、遺構面である鳥栖ロームがかなり削平されていたが、遺構の密度と残存状況は比較的良かった。台地の縁辺部まで集落が営まれていたと推定される。また、２条の溝の性格など今後の調査が期待される。

報告書は2001年に刊行予定である。

1．調査地点の位置（37　東光寺　0127　1:8000）


2．溝SD01・02（北から）

3．竪穴住居SC03（南東から）

9943 桧原遺跡群第５次調査（HBR-5）

所 在 地	南区桧原７丁目707-1・4	調査面積	169㎡
調査原因	共同住宅建築	担 当 者	上角智希
調査期間	1999.10.7～10.27	処　　置	記録保存

位置・環境　桧原遺跡群は福岡平野の南側、油山丘陵の一角に位置し、樋井川の支流である桧原川によって開析された谷の東岸丘陵一帯に南北に細長く広がっている。

本調査地点は桧原遺跡群の北端に隣接し、試掘の結果、旧石器および古墳時代の遺構が確認されたため、調査を実施した。

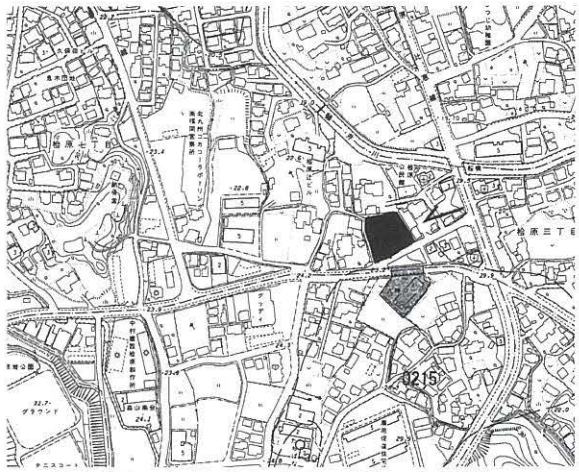
検出遺構　地表下約40㎝で遺構を検出したが、地山の土は調査区の両側で異なる。西北側は赤褐色の鳥栖ローム、東南側は灰白色粗砂層で、層序は鳥栖ローム→灰白色粗砂層である。東南側の粗砂層は氾濫した河川の流路である。

調査の結果、上部大半が削平された土壙状の窪み１つと約70の柱穴を検出した。そのほとんどは古墳時代のもので、一部弥生時代の柱穴も存在する。柱穴が全体的に浅いので、旧地形はかなり削平されているものと思われる。柱穴群は西北側の鳥栖ローム部分に集中しており、２間×２間の掘立柱建物２棟が復元できた。無理な復元は避けたが、上の２棟以外にも同時期の建物が複数存在していたことは疑いない。

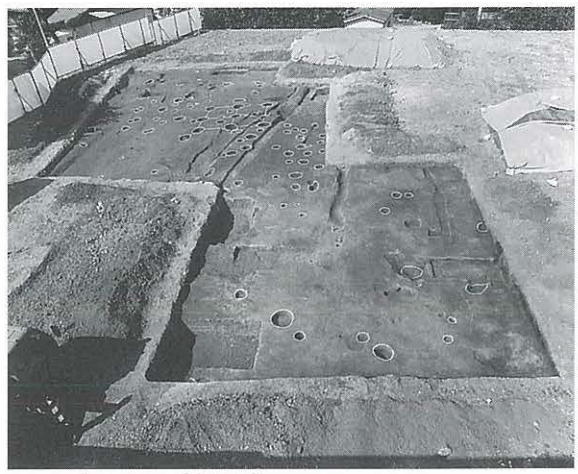
出土遺物　遺物の総量はコンテナ７箱で面積のわりには少ない。古墳時代の土器が大多数を占め、土師器の小型丸底壷・甕・椀、須恵器の坏蓋・波状文を施した器台等の破片がある。他に少量の黒曜石の剥片、弥生土器が出土している。試掘調査で旧石器が１点出土したが、本調査では出土しなかった。

ま と め　今回の調査では古墳時代の掘立柱建物を検出した。小規模ながら集落が存在した可能性があり、桧原遺跡群の範囲はさらに北へ広がっているようである。

報告書は2000年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（64　油山　0215　1:8000）



2．調査区全景（南から）

3．調査区北半部（南から）

9944 三筑遺跡第４次調査（SCC-4）

所 在 地　博多区三筑２丁目19-5
調査原因　駐車場建設
調査期間　1999.10.13～10.26
調査面積　125,25㎡
担 当 者　榎本義嗣・阿部泰之
処　　置　記録保存

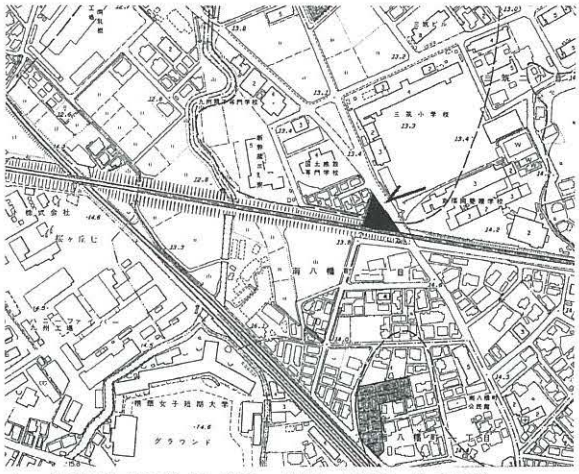
立地・環境　本調査区は須玖丘陵の北側の開析された谷の沖積地上に位置する。同調査区の東１kmには御笠川が北流し、西に諸岡川が北流している。遺構は標高約13mの水田耕作土の30cm下、黄白色粘質土上にて検出される。

検出遺構　検出した遺構は土壙・柱穴・溝で、掘方が不整形なものが多く遺物を全く伴わないものが大半である。遺構は調査区全体に分布するが、南側は水田開削による削平を受けており、遺構は確認できなかった。

出土遺物　出土した遺物は須恵器横瓶・土師器片各１が遺構に伴って出土した以外は、若干の陶磁器片が検出面より出土したのみである。

ま と め　検出された遺構で時期の明確なものは須恵器横瓶が出土した土壙のみである。横転した状態で上半部が失われており、調査区全体にわたって削平をうけた可能性が高い。他の土壙も不整形で底部も凹凸が激しく、遺物も出土していないが、笹原遺跡・南八幡遺跡等で墳墓とされる類例が報告されており、本調査区で検出された土壙も墳墓である可能性がある。

報告書は1999年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（25　井尻　0104　1:8000）

2．調査区全景（西から）

3．横瓶出土状況（北から）

9945 周船寺遺跡群第12次調査（SSJ-12）

所 在 地	西区大字飯氏カリ町980番２	調査面積	23㎡
調査原因	専用住宅建築	担 当 者	米倉秀紀・蔵冨士寛
調査期間	1999.10.1～10.07	処　　置	一部保存の他記録保存

１．調査に至る経緯

平成11年９月24日、末松春美氏より西区飯氏下カリ松 980番２における埋蔵文化財事前審査申請書が提出されたのに伴い、同年10月15日に試掘調査を実施した結果、自然流路内に弥生土器が包含されているのを確認し、遺物の採取を主目的に、同年10月25日に１日だけ発掘調査を行った。

２．調査区の位置と環境及び層序

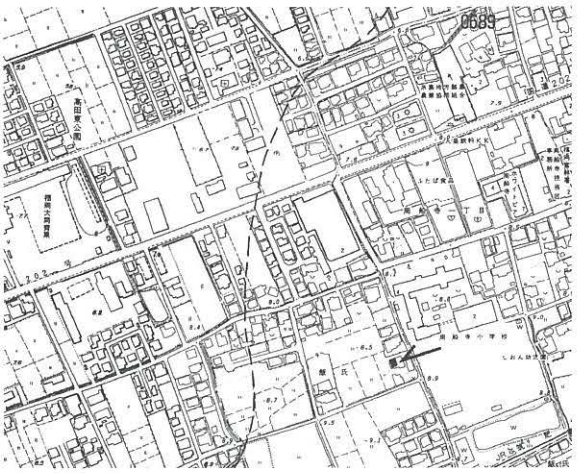
周船寺遺跡は糸島平野の沖積微高地上にある。調査地点は遺跡の中央部西端近くにある。現況は宅地で、上部30㎝の下はマイナス１ｍまで水田耕作土である。その下は流路に伴うと考えられる土で、全体に東から西に傾斜しており、これから西には大きな自然流路が走るものと考えられる。

３．遺構と遺物

調査区は予定建物内の遺物の集中が予想される部分を中心に23㎡あけたが、遺物が出土したのは、そのうちの約10㎡で、さらに遺物が集中するのは大型土器がまとまっていたほぼ１㎡のみである。遺物は前述の自然流路と考えられる土層内から出土した。出土した遺物はそのほとんどが弥生時代前期の大型壺３個体と甕などの破片で、それ以外の遺物は確認できない。また出土土器の多くは壺で、甕はごくわずかである。ほとんど摩滅もないことから、この地点に捨てたか、極めて近い地点から流れたものと思われる。

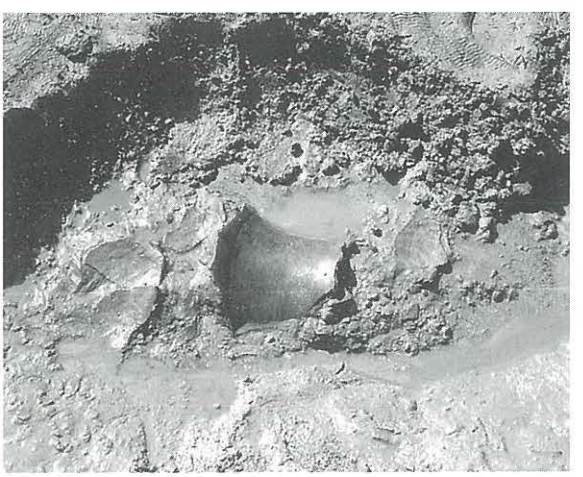
１は甕の口縁部片で、復元口径29.6㎝を測る。口唇部外側とその下約５㎝の凸帯部に刻目を施す。口縁部の刻目は３㎜～７㎜間隔、凸帯部の刻目は５㎜～１㎝間隔である。調整は、外面が凸帯から下はススが付着しているためやや不明確であるがハケメ状、凸帯から上はナデ、内面は口縁部近くがナデもしくは指押さえ、胴部はハケメの後ナデである。２は甕の底部で、焼成後に穿孔を加えている。底部径8.2㎝を測る。

３以降は壺である。３は口縁部の小片で、所謂歯ブラシ状口縁である。大きく外反し、全面横ナデで仕上げている。４は復元口径23.9㎝を測る。外面はヘラ状工具によるナデ、内面は指押さえ及びハケメを施す。胎土には雲母を含む。漆黒色を呈する土器である。５は復元口径24.5㎝を測る。

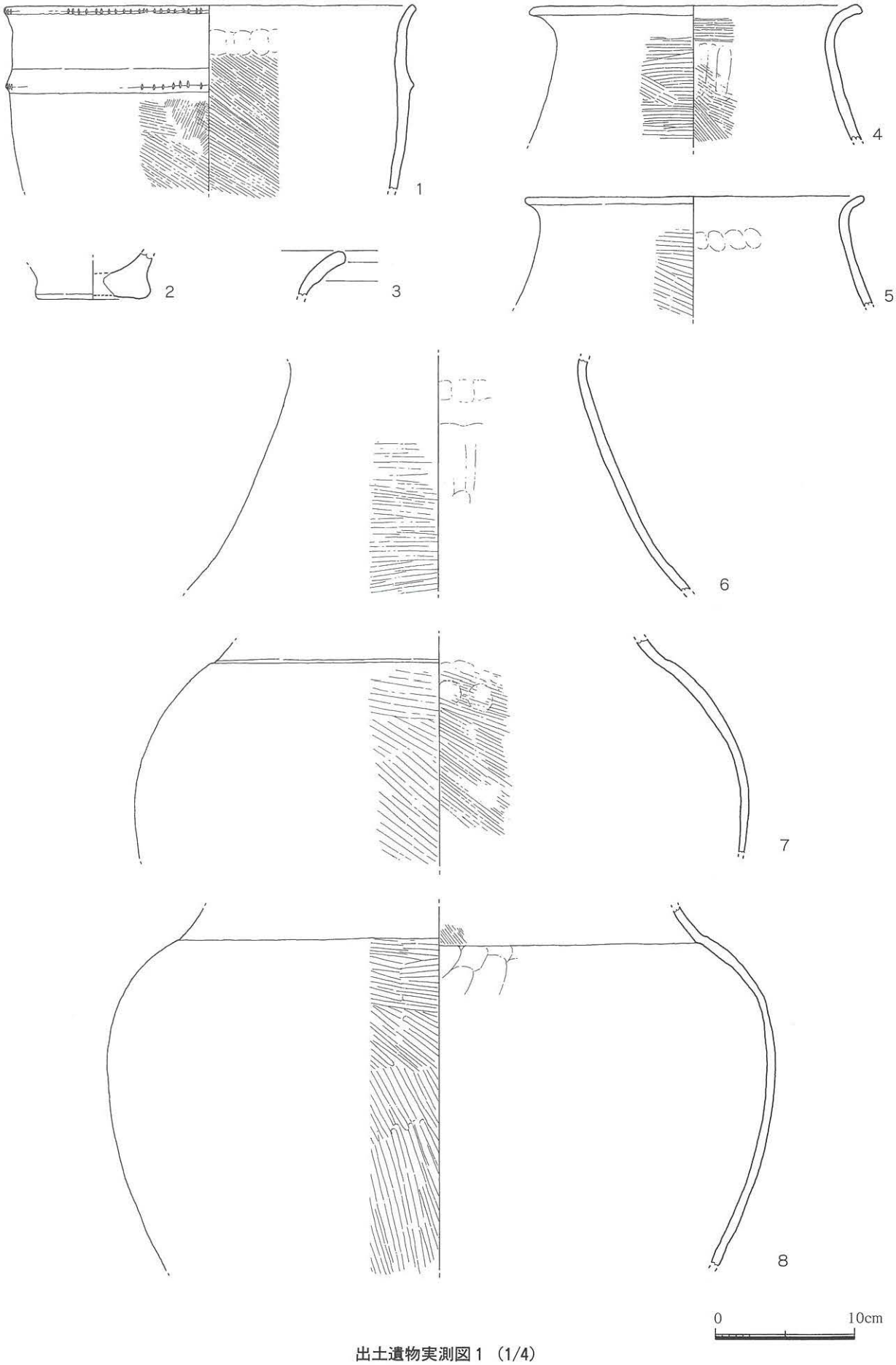


１．調査地点の位置（131　泉　0669　1:8000）

２．調査区全景（北から）



３．遺物出土状況



出土遺物実測図１（1/4）

外には赤色顔料を塗布している。外面はヘラ状工具によるナデ、内面はナデ仕上げである。6は頸部～胴部上半の破片で、途中に段を有する。外面には赤色顔料を全面に塗布している。5と同一個体と思われる。外面はヘラ状工具によるナデ、内面はナデ調整である。胎土には金雲母を含んでいる。7・8は胴部上半の土器で、頸部との境に段を有する。胴部最大径の位置は異なり、8は7より高い位置にある。調整は、外面はともにヘラ状工具によるナデであるが、内面は7がハケメ、8は段より上がハケメ状、胴部はていねいなナデである。色調は7が黄灰色であるが、8は黒色に近い。また胎土は8には金雲母を含んでいる。9は大型の壺で、復元口径31.1㎝、推定器高55～60㎝、胴部最大径54.7㎝を測る。全体的に歪んでいる。頸部と胴部の境には段を有する。調整は外面がヘラ状工具によるナデ、内面は全面指押さえの後、ハケメを施している。胎土には雲母・金雲母を含まない。

4．まとめ

調査地は周船寺遺跡の西端近くに位置し、自然流路ないしは湿地状の地点にあったと考えられ、これより西側は同じ状況を呈していると考えられる。出土した土器はすべて弥生時代前期の土器で、夜臼系のものと板付系のものが存在する。胎土に雲母と金雲母を含むものと含まないものがある。また調整は、壺の外面がほぼ例外なくヘラ状工具によるナデであるが、内面は個体によって異なっている。今回は個体数が少ないため、その差が形式・器形あるいは時期差とどう関係するかわからない。糸島地区の他の前期土器との比較が必要であるが、今回はできなかった。

出土遺物実測図2（1/4）

9946 元岡・桑原遺跡群第18次調査（MOT-18）

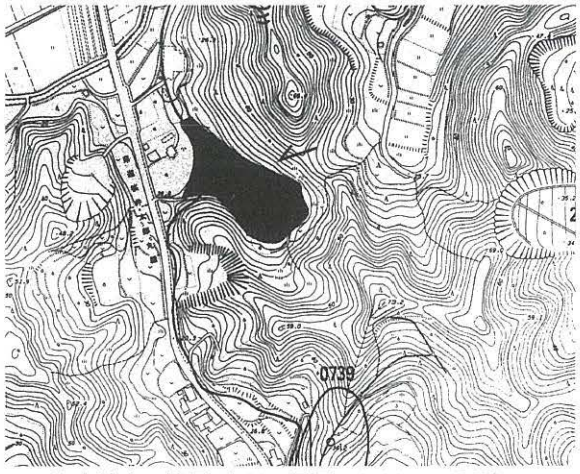
所 在 地	西区大字桑原字別府	調査面積	6,700㎡
調査原因	大学移転に伴う造成工事	担 当 者	吉留秀敏
調査期間	1999.10.15～2000.3.25	処　　置	記録保存

位置・環境　遺跡は福岡市の西端、糸島半島南部の山間にある。石ヶ元古墳群のある丘陵と戦国期の山城である戸山城に挟まれた谷部である。対象地が広く周囲が山林に囲まれているために３区に区分し、本年度はそのうち谷奥部にあたる１区を調査し、次年度へ継続することとした。

検出遺構　調査区の中央部では４面の遺構面があり、上から、中世、奈良後期、飛鳥～奈良前期、古墳時代後期の遺構を検出した。また、調査区外周の斜面には中世末～近世の遺構がある。近世から中世は道路状遺構、水田関連遺構がある。飛鳥～奈良時代は掘立柱建物、石垣、溝、製鉄（精錬）炉、鍛冶炉、焼土壙、土壙、杭列、埋甕などがある。古墳時代は、掘立柱建物、竪穴住居、溝などがある。

出土遺物　遺物はこれまでに古墳時代から古代を主としてパンケース350箱分が出土している。内容は、土器類、石製品、木製品、鉄製品、製鉄関連遺物などがある。また、これ以外に、中世の土器類、陶磁器や旧石器時代から弥生時代までの石器、土器類も出土している。

ま と め　本調査区では、古墳後期と飛鳥～奈良期の大きく２時期に集落が展開し、その後、中世に谷全体が水田化されたことが明らかとなった。古代には小規模ながら製鉄操業もあり、既調査の７次調査区と類似した様相がうかがわれた。これらは糸島半島における古代の鉄生産や集落展開に関する新たな知見となろう。



1．調査地点の位置（129　桑原　2782　1:8000）

2．調査区全景（西から）

3．調査区全景（東から）

9947 元岡遺跡群第19次調査（MOT-19）

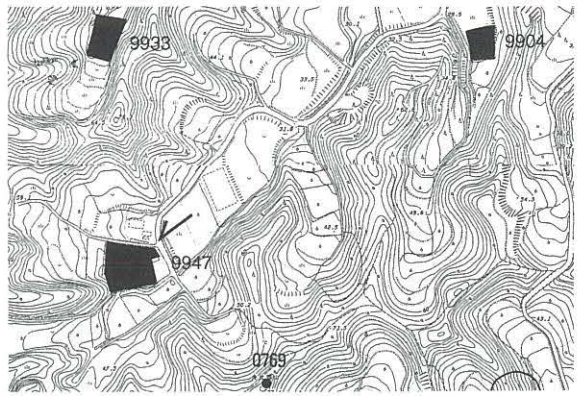
所 在 地　西区大字桑原字千原　　調査面積　3,200㎡
調査原因　学校移転に伴う造成工事　　担 当 者　松村道博
調査期間　1999.10.18～12.27　　処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は博多湾の西岸、糸島半島の東側にあたる。大原川の最上流部にあたり、第16次調査の東側丘陵の反対側である。標高約45ｍを測り、南北を低位な丘陵に挟まれ、西から東に開く谷部に位置する。現況は畑地で開墾の際階段状に造成し、自然の状態を保っているところはない。今回の調査は大原川の西側に鋸歯状に開析された谷部に展開する遺跡の南端部である。

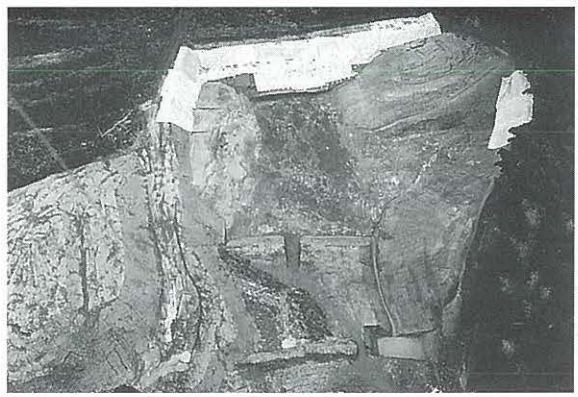
検出遺構　試掘調査で木炭、焼土などが出土したことで製鉄遺跡に伴なう炭窯等の生産関連遺構が予想されていた。しかし調査の結果北東の尾根先端部に径10～30㎝のピット、谷部からは底部糸切りの土師器が少量出土しただけで遺構の検出には至らなかった。

出土遺物　古代から中世の土師器コンテナ１箱。

まとめ　遺物は少量で小さな破片であり、二次的堆積と考えられ、集落は別の地点に存在するものであろう。



1．調査地点の位置（140　元岡　2782　1:8000）


2．調査区全景（東から）

9967 有田遺跡群第196次調査（ART-196）

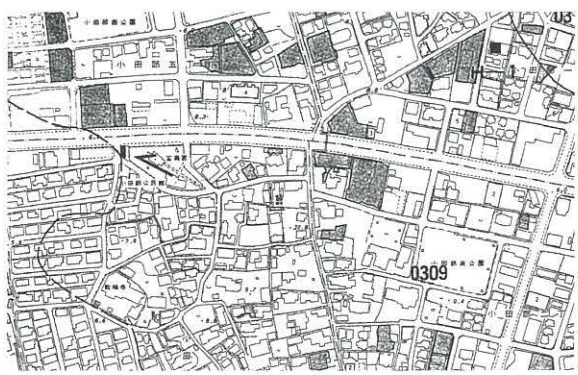
所 在 地　早良区小田部16-2・17-2　　調査面積　69㎡
調査原因　店舗兼専用住宅建築　　担 当 者　藏冨士寛
調査期間　2000.2.4～2.12　　処　　置　記録保存

位置・環境　当調査区は有田台地の西端、北西方向に延びる台地上に位置する。現況における遺跡の標高は７ｍ程で、現表土下 0.7ｍ程の橙色ローム上に遺構が存在する。

検出遺構　土壙１とピット群。所属時期は不明。

出土遺物　中・近世の陶磁器などがごくわずかに出土。

まとめ　土壙は一辺１ｍ程の略方形を呈するもので、柱穴である可能性がある。



1．調査地点の位置（82　原　0309　1:8000）

9948 那珂遺跡第73次調査（NAK-73）

所 在 地	博多区那珂３丁目19・20・21	調査面積	383㎡
調査原因	共同住宅建築	担 当 者	久住猛雄
調査期間	1999.11.8～2000.1.12	処　　置	記録保存

位置・環境　那珂遺跡群は、那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に展開している。調査地点は、遺跡の中央部東端に位置し、東 100ｍで諸岡川となる。調査地の標高は8.5ｍ前後である。

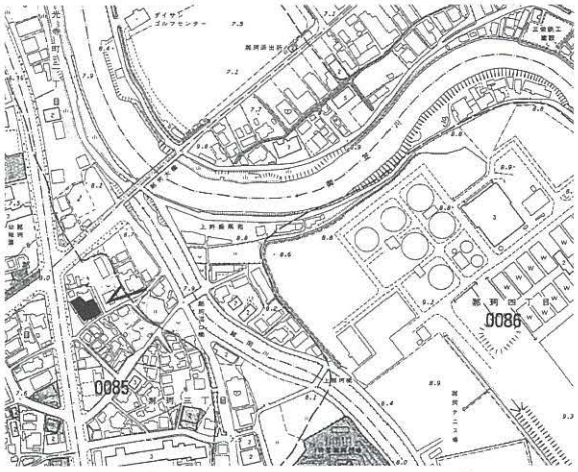
検出遺構　地表下25～50㎝前後の耕作土・攪乱土を除去し、橙褐色土（鳥栖ローム土）の面で遺構を検出した。

検出遺構は、古代・中世・近世初期の各時期の井戸計５基、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居８棟前後(二ケ所で重複が著しい)、古墳時代後期や中世の溝計３条、弥生時代前期の木棺墓、各時期の土壙10基、柱穴多数（現場で復元推定できた建物２棟）などがある。柱穴には弥生時代から古墳前期の大型柱穴もある。井戸では、土器を大量に出土したSE07（奈良時代中頃）のほか、径5.0×4.5ｍ、深さも５ｍのSE01（13世紀）が特筆される。SE01は非常に大きく、また井戸枠は方形縦板横桟井筒で、部材がきわめて良好に遺存していた。また上層では井戸側落ち込みに土師器の大量廃棄（14世紀前半か）がみられた。

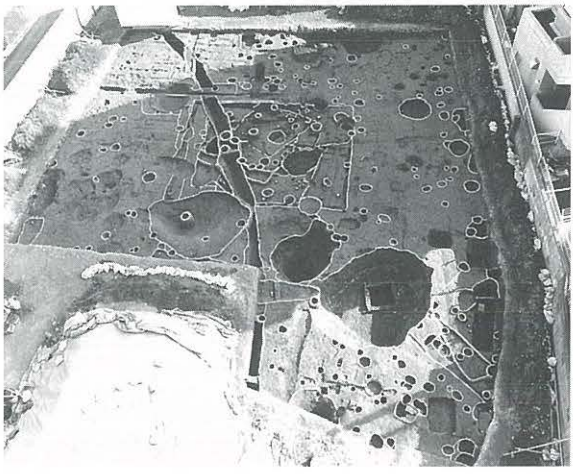
出土遺物　パンケース90箱前後出土した。弥生土器、古式土師器、古墳後期から古代の土師器・須恵器、中世の土師器、輸入陶磁器、国産陶磁器、石器（剥片、石包丁）、井戸枠部材などがある。

まとめ　今回の調査では、弥生時代から近世初期にかけての集落を検出した。特に、大型の井戸SE01は、規模や構造から、中世における在地有力者の屋敷の存在を示唆するものである。またベッドを有する7.0×8.5ｍの大型住居（弥生終末）SC07や、６世紀末前後の直線的な溝SD02なども、各時期の集落の展開を考える上で興味深い。また今回の調査により、段丘東端際まで遺跡が展開することが確認されたと言えよう。

報告書は2001年刊行予定である。



1．調査地点位置図（23 雀居　0085　1:8000）


2．調査区全景（北から）

3．中世大型井戸SE01（北から）

9949 警弥郷B遺跡第4次調査（KYB-4）

所 在 地　南区弥永3丁目11-3
調査原因　共同住宅建築
調査期間　1999.11.11～11.30
調査面積　325.5㎡
担 当 者　榎本義嗣・阿部泰之
処　　置　記録保存

位置・環境　本調査区は那珂川の中流域右岸、標高約18.5mの沖積微高地上に位置する。遺構は水田耕作土の直下30㎝、黄褐色シルト質粘土上にて検出される。調査地周辺は新幹線博多南線の西側にあたり、これまで調査が行われていなかった地点である。

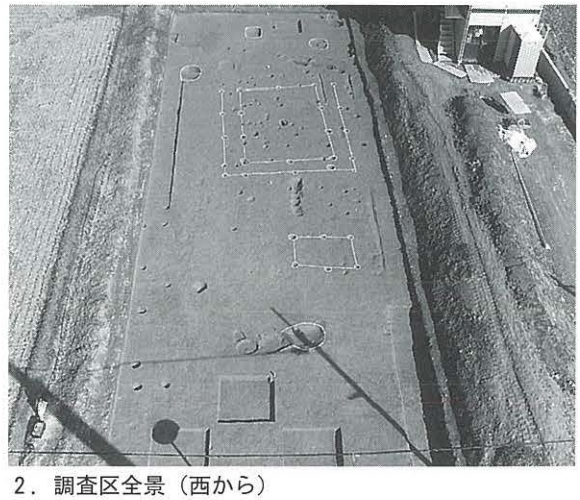
検出遺構　検出した遺構は11世紀末から12世紀はじめの掘立柱建物2・土壙・溝・柱穴多数で、掘立柱建物SB010 は南・北・西側の3面に庇を持つ2×3間の建物である。

出土遺物　出土した遺物はコンテナ2箱程度である。SK003 より白磁V類椀と短刀が出土している。

まとめ　本調査区の遺構検出面であるシルト質粘土からは遺構検出時より縄文土器片が出土していたため、グリッドごとに掘り下げを行ったところ、縄文晩期の粗製深鉢・磨製石斧・黒曜石剥片等が出土し、黄褐色シルト質粘土が縄文晩期の包含層であることが確認された。この層は調査区の西側ほど浅く、西半には達していない。それより下の層から遺物は出土していないため、縄文期の遺物の分布は調査区東半に限定される。また、東側のグリッドで中世の遺構検出面よりマイナス5㎝のレベルでピットが検出されている。埋土の色調等から縄文晩期にまで遡るものと思われるが、遺物の出土はなく今後の検討を要する。

報告書は1999年度に刊行予定。

1．調査地点の位置（41　警弥郷　0158　1:8000）


2．調査区全景（西から）

3．掘立柱建物検出状況（西から）

9950 下山門敷町遺跡第３次調査（SYS-3）

所 在 地	西区下山門３丁目431-1	調査面積	1,450㎡
調査原因	共同住宅建築	担 当 者	星野恵美
調査期間	1999.11.08～2000.1.7	処　　置	記録保存

位置・環境　下山門敷町遺跡は福岡市西郊に位置する早良平野の西北、生の松原海岸から１km程南に入った沖積地に位置し、十郎川東岸の幅60～ 100m、標高３ｍの自然堤防上に営まれた遺跡である。

第３次調査地点は下山門敷町遺跡の最北に位置し、遺構面の標高は 2.4ｍ前後を測り、調査区の中央がやや高くなっている。

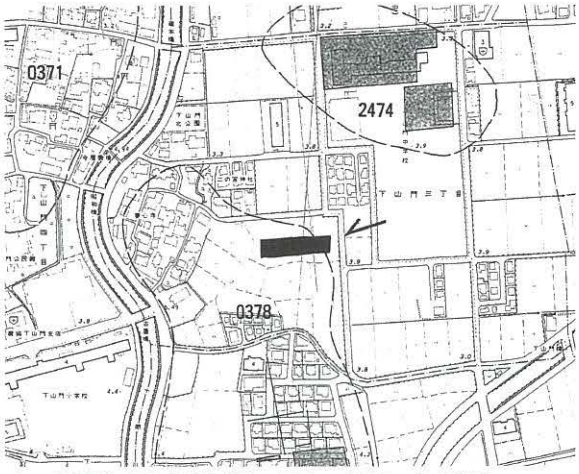
検出遺構　上面で古墳時代前期・古代・中世の遺構を、厚さ約60㎝の弥生前期～中期の包含層をはさみ、下面で弥生時代前期～中期の遺構を検出した。全体的に削平が激しく遺構の遺存状況は悪い。

- 弥生時代前期末：貯蔵穴10基
- 　　中期　：土壙墓３基、祭祀土壙１基
- 弥生時代　：竪穴住居跡２軒
- 　　掘立柱建物跡２軒
- 古墳時代前期　：竪穴住居跡１軒
- 古代　：溝７条
- 中世　：溝２条、墓８基

出土遺物　遺物は弥生土器・土師器・須恵器を主としてコンテナ23箱分が出土した。包含層中からは大量の弥生土器と共に黒曜石の原石、石器の未製品が出土している。弥生時代前期の貯蔵穴から磨製石鏃が１点、中期の墓から碧玉製の管玉が１点出土している。

まとめ　第１・２次調査では奈良～平安時代の建物・井戸・柵・溝と多量の鉄滓・フイゴの羽口など製鉄関係の官衙に関連すると考えられる遺構・遺物が確認されたが、今回の調査では鉄滓がわずかに出土した程度である。弥生時代～古墳時代にかけては集落として存在し、古代には南北方向の溝や足跡・杭跡が検出され、水田として使われていた様相を呈する。中世の墓は敷町遺跡の北側に広がる乙女田遺跡の中世集落に関連すると考えられる。

報告書は2001年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（90　石丸　0378　1:8000）

2．上面調査区全景（東から）

3．下面調査区全景（東から）

9951 今山遺跡第８次調査（IMY-8）

所 在 地	西区横浜２丁目地内	調査面積	115㎡
調査原因	道路拡幅工事	担 当 者	米倉秀紀
調査期間	1999.9.22～2000.3.9	処　　置	記録保存

位置・環境　調査地点は弥生時代の石斧製作遺跡として著名な今山の東下にあり、東側約50ｍに現海岸線がある。調査地点の現標高は3.9ｍを測る。

検出遺構　平安時代中・後期のドック状遺構；溝状遺構で、溝の壁には石垣を施している。底の幅2.5ｍ、上部幅4.5 ｍ、現存の深さ1.5 ｍ、推定の深さ2.5 ｍ前後、最上部の幅５ｍ以上を測る。溝は調査区内から始まり、北に向かって伸びる。江戸後期の絵図では北側に湾があり、この湾に伸びるものと思われる。底には２カ所の削り出しの土手があり、その土手を境に北側が深くなっている。

出土遺物　古墳時代前期の製塩土器層；製塩土器が大量に出土。厚さ30㎝の製塩土器層を成し、灰層も出土した。調査区内ではわずかに焼けた土があったが、製塩炉は見つからなかった。

弥生時代（紀元前２～１世紀）の石斧製作関係；製塩土器層の下で検出。チップは直径１～２ｍ前後のユニットが数カ所あり、ユニット内は厚さ10～20㎝前後を測る。

縄文時代包含層；石斧層下部の礫層の下の砂層及び土混じりの砂層から出土する。前期・中期の包含層で、最厚部で約2.5 ｍ。地山面の標高は約3.2～3.9ｍを測る。特記すべきは石斧の未製品が出土したことである。

出土遺物　平安時代；土器・木簡削りかす
古墳時代；土器・製塩土器・タコ壺
弥生時代；土器・石斧未製品・チップ石器
縄文時代；土器・石器・石斧未製品・木
総量コンテナ416箱

ま と め　今回の調査で今までの今山の調査内容の中でも突出した内容を示し、従来確認できなかった古代の遺構と多くの縄文時代の遺物が出土したことから、今山遺跡における最も重要な地点といえよう。報告書は2001年度以降刊行の予定。

1．調査地点の位置（111　横浜　0620　1:8000）

2．調査区全景（北から）

3．チップ群出土状況

9952 博多遺跡群第120次調査（HKT-120）

所 在 地	博多区上呉服町	調査面積	350㎡
調査原因	道路拡幅工事	担 当 者	大庭康時
調査期間	1999.10.28～2000.3.22	処　　置	記録保存

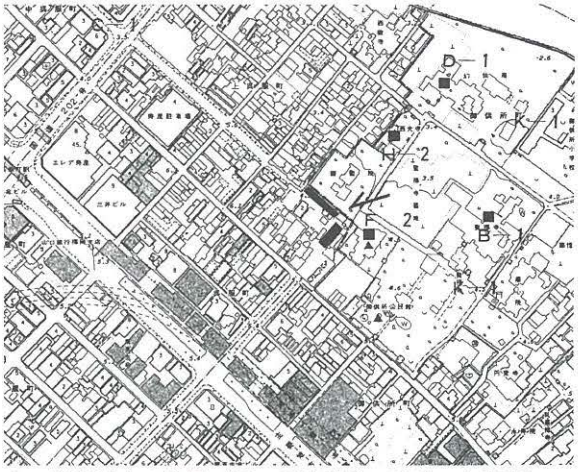
位置・環境　本調査地点は、博多湾岸に形成された砂丘上に位置する。博多遺跡群が占地する三例の砂丘のうち、二列目の北東端付近にあたり、現状では北と西を聖福寺境内に画されている。

検出遺構　平安時代から現代に至る遺構・遺物が発見された。検出した遺構は、井戸・土壙・溝・柱穴などである。土坑には、人骨の一部が遺存し土壙墓と思われるもの、護岸の石積みを持つ池状のものなどがある。そのほか、室町時代14世紀前半頃と推定される礎石建物跡が出土した。

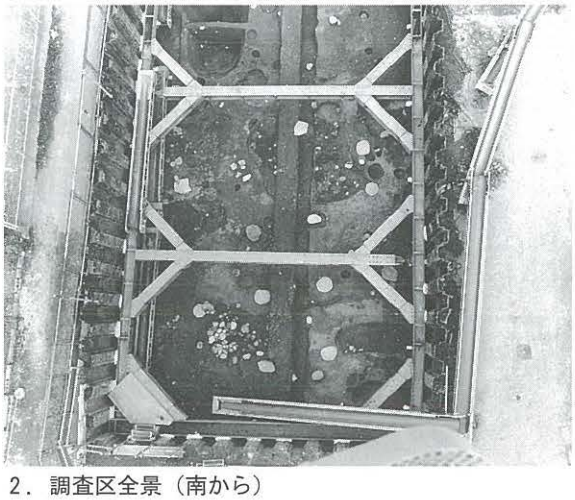
出土遺物　今回の発掘調査では、土器・陶磁器202箱、木製品５箱、石製品２箱、金属製品４箱、獣骨２箱、人骨１箱が出土した。

ま と め　今回の発掘調査では、調査区北西端付近で砂丘が検出された以外は、旧河川河口部近くの堆積層であった。この堆積過程で、人頭骨・塔婆状木製品などが流れ込んでいた。木製品には、「南無阿弥陀仏」と墨書された笹塔婆なども見られ、葬送の場が近かったことを予見させる。鎌倉時代中頃から、調査区全体を厚い整地層が覆う。13世紀中頃から14世紀前半までの整地層中には、数枚の遺構面があり、それぞれが造成面と見られる。これらの造成面上には、大型の礎石が据えらえ、また土壙からは鬼瓦を含む瓦類が出土しており、寺院に伴うものと考えられる。池状遺構なども、寺院にかかわる遺構であろう。なお、今回の調査地点は、近世には聖福寺の子院の継光庵が営まれた場所である。継光庵は、15世紀中頃には大内氏の重臣相良正任が寄宿していたことが知られ、今回の発掘調査で出土した礎石建物などが、中世の継光庵の遺構である可能性は高いといえよう。

2001年度報告書刊行予定。



1．調査地点の位置（48　千代博多　0121　1:8000）


2．調査区全景（南から）

3．調査区土層（北から）

9953 井尻B遺跡群第13次調査（IGB-13）

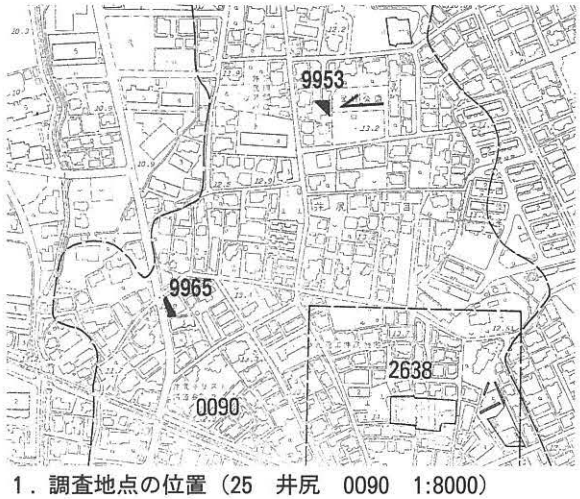
所 在 地　南区井尻1丁目755-8
調査原因　専用住宅建築
調査期間　1999.11.22～12.11
調査面積　841㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地は福岡平野を貫流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地、中位段丘状の北側に立地する井尻Ｂ遺跡群のやや北側中央部に位置している。50㎝の盛り土および訓㎝の耕作土下ローム層上面（標高12ｍ）で遺構を確認した。

検出遺構　弥生時代後期前半の竪穴住居跡１、弥生時代中期の柱穴70、中世（12世紀）の溝１条を検出した。柱穴群は掘立柱建物、竪穴住居の柱穴とみられるが、調査区域が狭く、竪穴住居の壁が失われており、規模の復元は困難である。

出土遺物　住居跡の床面や柱穴から弥生土器や砥石、溝から陶磁器などコンテナ15箱分。

まとめ　今回の調査地は都市計画道路予定地に隣接しており、今後周辺での発掘調査が増えることが予想され、集落の全貌も調査を積み重ねることによって明らかになっていくことだろう。



1．調査地点の位置（25　井尻　0090　1:8000）

2．調査区全景（南から）

3．竪穴住居跡（南から）

9954 拾六町平田遺跡第３次調査（JRH-3）

所 在 地	西区石丸２丁目54-5	調査面積	560㎡
調査原因	共同住宅建築	担 当 者	藏冨士寛
調査期間	1999.12.20～2000.1.27	処　　置	記録保存

位置・環境　当調査区は室見川の西岸、早良平野の北西側に位置し、拾六町平田遺跡群北端部に相当する。

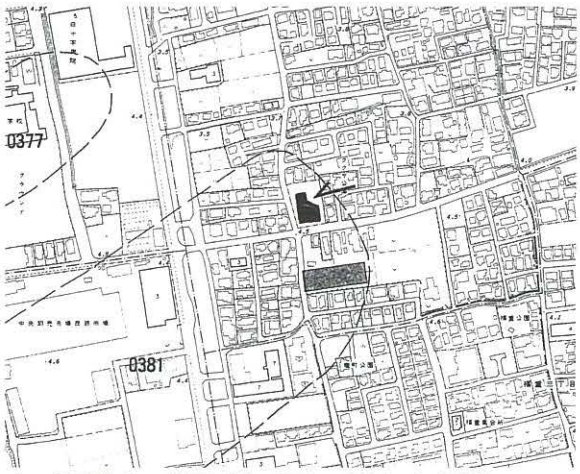
検出遺構　調査はまず、調査区北側の発掘より着手したが遺構は発見されず、直ちに埋め戻しを行って南側部分の発掘を行った。その結果、古墳時代中期の土壙１、溝１、ピット群を確認した。

土壙は南側調査区のほぼ中央で認められ、径２ｍ、深さ0.8 ｍのすり鉢形を呈する。その中には木等の腐植土が互層状に堆積しており、それに伴って壷や甕などの土師器も検出された。溝は南側調査区の東側で認められ、幅３ｍ、深さ0.2 ｍを測る。覆土にはごくわずかに土器を含むのみ。

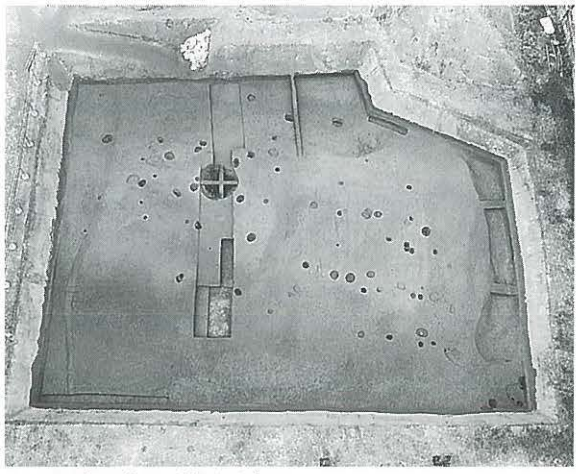
出土遺物　コンテナ５箱ほど出土している。大半が古墳時代土師器で、若干の須恵器が混じる。なお、当調査区は北側に向かってわずかに傾斜しており、その堆積土中には多くの土師器・須恵器を含んでいた。

まとめ　今回の調査では古墳時代中期相当の遺構、遺物が大半を占めた。出土した土師器には高杯の占める割合が高く、またミニチュア土器も出土するなど、何らかの祭祀にともなう遺物の廃棄、または流れ込みであったと考えられる。

なお報告書は2000年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（90　石丸　0381　1:8000）


2．調査区全景（南から）

3．遺物出土状況（東から）

9955 比恵遺跡群第71次調査（HIE-71）

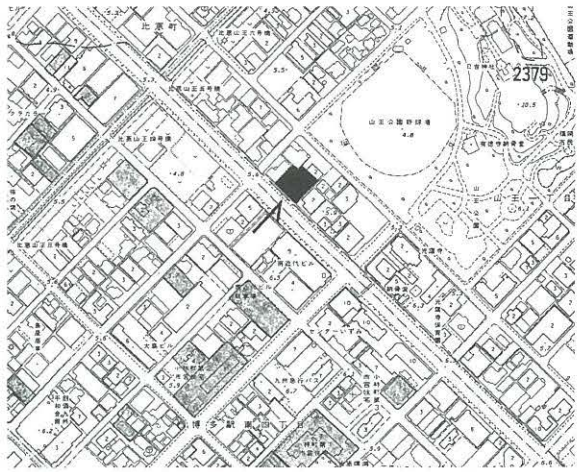
所 在 地　博多区山王１丁目150他　　調査面積　592.6㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　井上繭子
調査期間　1999.12.6～2000.3.1　　処　　置　記録保存

位置・環境　比恵遺跡群は、福岡平野を北流する御笠川と那珂川に挟まれた中位段丘上に立地する。本調査区は比恵遺跡群のほぼ中央部に位置し、北に第５次調査地点、東に第51次調査地点、南に第19次調査地点、西に第20次調査地点が接する。遺構は現地表下約20㎝、標高約6.2ｍの鳥栖ローム上面で検出された。遺構面はかなり削平を受けている。

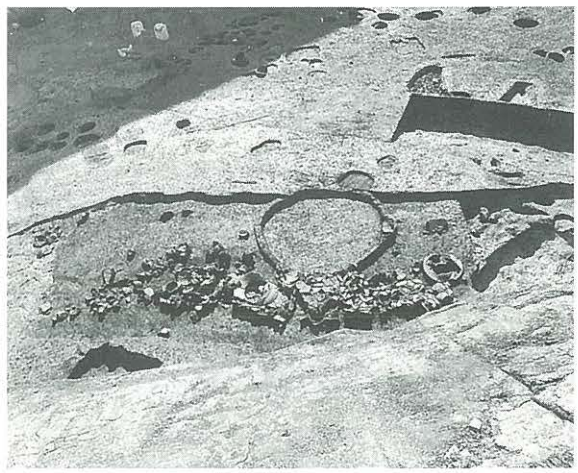
検出遺構　遺構は調査区全域で密に分布している。古代の溝(SD01)１条、弥生時代中～後期の周溝状遺構(SD02)１基、弥生時代中～後期の住居跡５軒以上、弥生時代中・後期の井戸各１基、土壙、柱穴多数が検出された。SD01は断面がＹ字形を呈し、ほぼ南北方向に流れる。遺物は少ない。SD02は深さが５㎝ほどでかなり削平されていると思われるが、壁は直に立ち上がり、一辺を住居跡に切られているものの、隅丸方形状に巡ると思われる。遺物は少ないが、弥生時代後期の住居に切られていることなどから、弥生時代中期から後期にかけての時期と考えられる。住居跡は壁溝や貼床のみの残存状況のものが多く、プランや柱穴が確認しにくい。出土遺物から弥生時代中期から後期にかけての範囲に収まるであろう。いずれもほぼ軸を南北方向にとる。

出土遺物　弥生時代中期の遺物が圧倒的に多いが、住居跡の一部から弥生時代後期、SD01から古代の須恵器・土師器片が出土している。その他、石包丁、磨製石鏃も検出された。

まとめ　今回の調査区は比恵遺跡群のほぼ中心部にあたり、遺構の分布状況は非常に密度が高かった。弥生時代中期から後期にかけての遺構が集中している。報告書は2001年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（37　東光寺　0127　1:8000）


2．溝SD02土器出土状況（西から）

3．井戸SE84（北西から）

9956 周船寺遺跡第13次調査（SSJ-13）

所 在 地　西区大字千里452-3他
調査原因　公営住宅改築
調査期間　1999.11.15～2000.3.10
調査面積　949㎡
担 当 者　池田祐司
処　　置　記録保存　一部現状保存

位置・環境　高祖山から北に広がる丘陵裾の沖積平野に位置し、調査地点の標高は約11ｍを測る。調査区は道路を挟んで２地区に別れる。現況は１ｍ強の盛土がなされている。盛土以前は水田で、耕作土、床土を除去した面で遺構を検出した。

検出遺構　東側の調査区では東に地形が落ち、縄文時代晩期から弥生時代中期までの包含層がたまる。この包含層を除去した面で埋甕と縄文土器が出土した。微高地部分では、淡青灰色シルト上面で住居跡等の遺構を検出した。西側の調査区では弥生前期を中心とした遺構を検出した。また埋甕が口縁部から残存する。

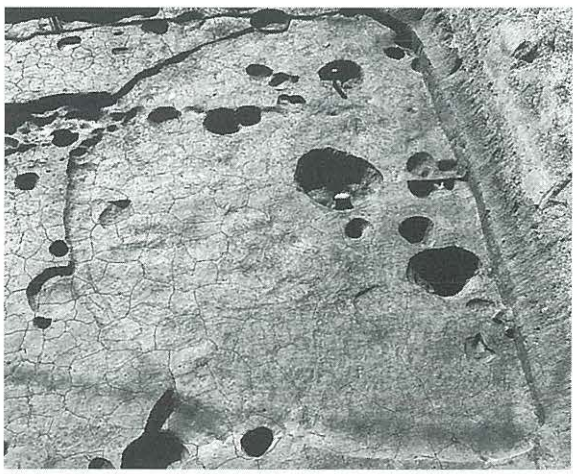
検出した遺構は住居跡９軒、土壙、多数のピット、埋甕７基で、住居跡は弥生時代前期、埋甕は晩期のものと考えられる。住居跡は円形のもの６軒、方形のもの３軒である。

出土遺物　土器、打製・磨製石鏃、石斧等が出土した。土器は縄文時代晩期初頭から弥生時代中期のもので、住居跡や土壙内で完形品が潰れた状態のものもある。石器は黒曜石製が多い。住居跡021、029の床には、風化した玄武岩の細片が多く散らばっており、石斧等の製作に関連した跡と考えられる。その際の叩石と考えられる径７～８㎝ほどの円礫が多数出土している。

まとめ　周船寺遺跡では、これまでの調査で弥生前期の遺構が広く確認されている。今回の調査区に近接した１次調査地点(千里シビナ)においても円形住居跡が確認されており、周辺に弥生時代前期の集落が広がっていることがわかる。ただし、遺跡内には河川堆積や地形の起伏がみられ、比較的小規模な拡がりが数カ所に存在すると考えられる。晩期については、埋甕以外の遺構は不明確であった。

報告書は2000年度に刊行予定である。

1．調査地点の位置（132　千里　0689　1:8000）


2．竪穴住居（東から）

3．埋甕（東から）

9957 曰佐遺跡群第2次調査（OSS-2）

所 在 地　南区曰佐４丁目514-9　　調査面積　900㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　本田浩二郎・上角智希
調査期間　1999.12.1～2000.1.13　　処　　置　記録保存

位置・環境　曰佐遺跡群は福岡平野の南部、那珂川中流域に位置し、すぐ東には弥生時代の大規模集落と墳墓群で有名な須玖・岡本遺跡が所在する。当調査地点は第１次調査地点に南接する。第１次調査では中世の遺構（火葬土壙墓など）と縄文土器を包含する河川流路跡が検出された。

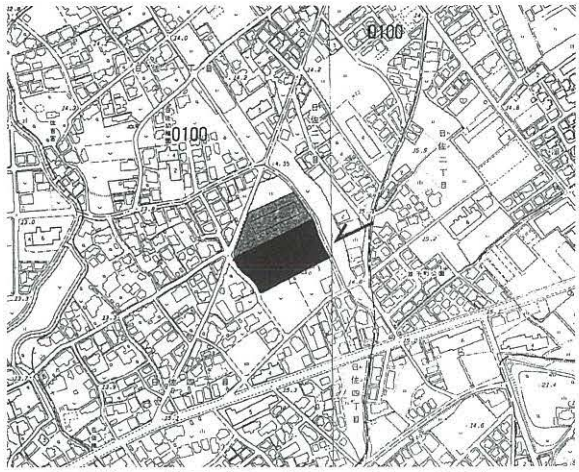
検出遺構　調査区は東西に長い略長方形を呈する。12世紀頃の屋敷地に伴う一連の遺構を検出した。該地を長方形に区画する溝3条を検出した。北と南の溝が15ｍの間隔で並行して走り、東側の溝がそれに直交する。溝によって15ｍ×70ｍ以上の細長い形に区画される。北側の溝は１箇所途切れる。その区画内、調査区中央部に２×４間と１×３間の掘立柱建物２棟が並び、その西と南には柵列を設けている。その東側では10ｍほど離れて別の１棟を検出した。調査区西側では溝の内外に、火葬土壙墓を含む土壙７基が存在する。

さらに掘り下げて縄文時代の遺構を探したが、少量の縄文土器が出土したのみで遺構は確認できなかった。

出土遺物　遺物の総量はコンテナ７箱である。12世紀頃の底部糸切の土師器坏・小皿、瓦器椀、輸入陶磁器のほか、古代の須恵器、縄文土器、黒曜石が出土した。

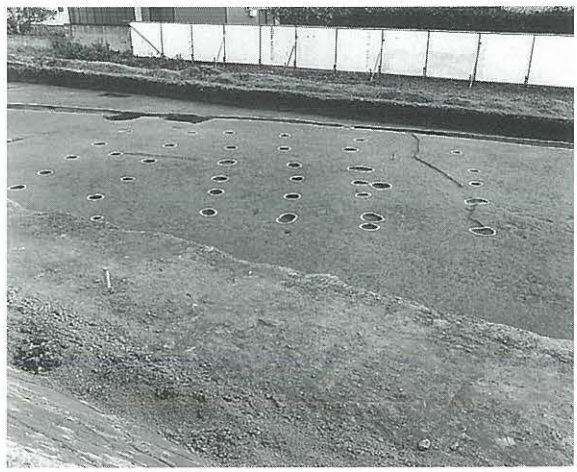
まとめ　溝によって区画された中世前期の住居群を確認した。母屋のほかに離れの建物がある。これらの特徴より、階層的に高い人々の居住地と考えられる。名主層の屋敷地に比定できるか。

なお、報告書は2000年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（25　井尻　0104　1:8000）

2．調査区全景（西から）


3．掘立柱建物（北から）

9958 井尻Ｂ遺跡群第14次調査（IGB-14）

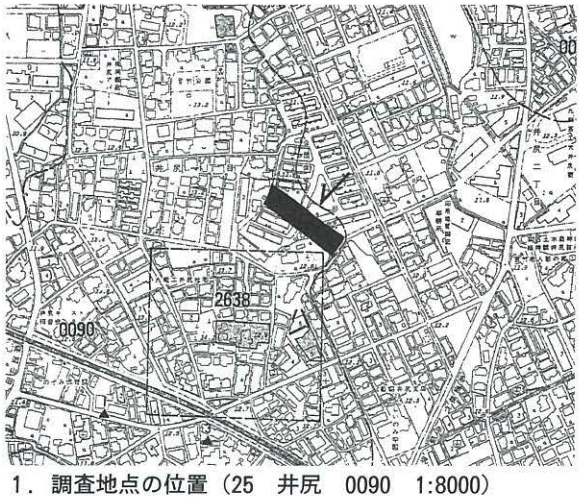
所 在 地	南区井尻１丁目地内	調査面積	952㎡
調査原因	道路建設	担 当 者	屋山洋
調査期間	1999.11.24～2000.2.29	処　　置	記録保存

位置と環境　井尻Ｂ遺跡群は福岡平野の中央部、那珂川と御笠川に挟まれて春日丘陵から博多湾に向かって延びる台地上に位置する。今回の調査地点は南北に延びる台地を東から開析した谷の中に位置する。遺構検出面の土壌は調査区北西端が八女粘土とその下層の硬砂層。調査区中央から南はアシ科の地下茎を多く含む暗茶褐色泥質土と青灰色グライ砂の上に堆積した灰白色の粘質土を地山とする。調査区全域で遺構面の上に20㎝ほどの黒色土が堆積しており、北側では多量の遺物を含んでいた。

検出遺構　北西端の台地際で弥生時代の掘建柱建物と古墳時代初頭の井戸を確認した。柱穴のほとんどは遺物が出土しない。井戸は八女粘土上から褐色硬砂層まで掘り込んだ後、井形に組んだ角材の上に半円形の井筒を置き、周囲を粘土で埋めている。井筒内からは甕の破片が数個体分、手捏ね土器、木製品の一部が出土した。調査区の南側はウシの足跡が全面的に広がっていることから水田跡と思われる。

出土遺物　約50箱の遺物が出土した。遺物のほとんどは包含層からの出土で弥生時代中期を中心とし、甕棺や石包丁の破片を含む。その他に弥生後期前半から中頃の土器や８世紀後半の須恵器や瓦片も出土している。特に弥生時代後期の青銅器鋳型が出土しており、２面を鋳型として使用している。

ま と め　同時期の鋳型が北側の11次調査でも台地の落ちから出土しており、西側台地上に弥生青銅器鋳造工房があった可能性が考えられる。南側の水田は古代末から中世と考えられる。



1．調査地点の位置（25　井尻　0090　1:8000）

2．調査区全景（南から）

3．井戸検出状況

9959 箱崎遺跡第20次調査（HKZ-20）

所 在 地	東区箱崎１丁目地内	調査面積	641㎡
調査原因	区画整理事業	担 当 者	榎本義嗣
調査期間	1999.12.13～2000.3.31	処　　置	記録保存

位置・環境　箱崎遺跡は博多湾岸に形成された南北方向の古砂丘上に立地する。本調査区は遺跡東端の砂丘東側緩斜面上に位置する。調査区は３区に分け、北側から１区、２区、３区と呼称した。その標高は2.0～3.3ｍを測り、中央の２区が最も高い。１区は遺跡北東端に位置し、南西側から北東側への砂丘の傾斜が顕著である。

検出遺構　各調査区では黄褐色砂層上面で遺構を検出した。

１区は南半部を除き、既存建物による撹乱が著しく遺構遺存状況は不良であったが、古墳時代初頭の竪穴住居１軒、11世紀後半から12世紀後半の井戸・土壙・土壙墓、近世の溝等を検出した。井戸は３基を検出し、井筒の下層には木桶が遺存する。うち１基は井筒を板材で方形に囲む構造を有する。土壙墓は１基のみであるが、中年女性の人骨が良好に遺存していた。

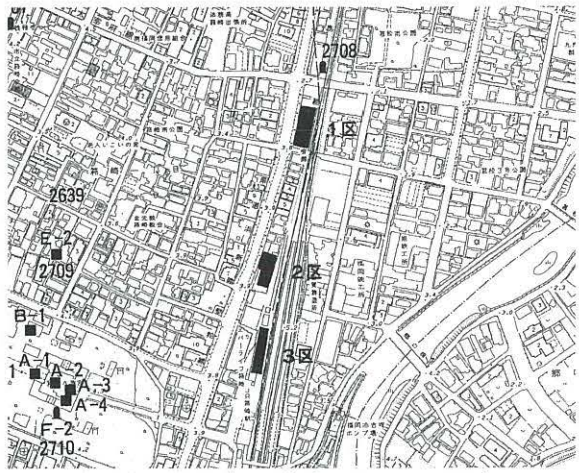
２区では古墳時代後期の竪穴住居２軒、11世紀後半から12世紀中頃の井戸・土壙・ピットを確認した。竪穴住居の全容は不明であるが、未製品を含む滑石製品が少量出土している。井戸は計６基を確認し、１区同様に板材を用いて方形に井筒を囲むものを１基検出した。

３区は狭長な調査区のため、全容を窺える遺構の検出例は少数であったが、12世紀中頃から13世紀代の井戸４基、多数のピットを確認した。井戸は調査区壁面にかかるため、井筒を検出し得たものは２基のみである。

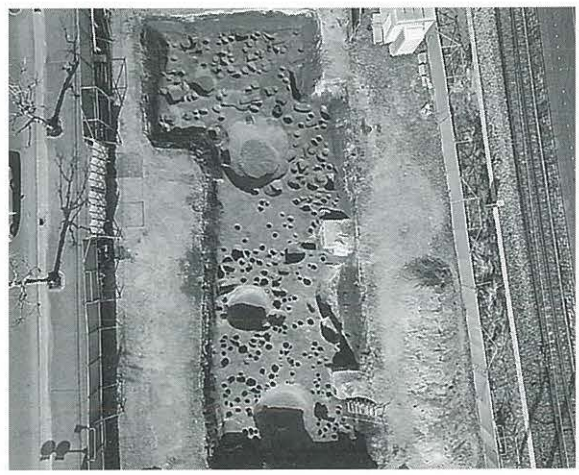
出土遺物　土師器、須恵器、瓦器、須恵質土器、輸入陶磁器、鉄製品、滑石製品等がコンテナ数にして32箱出土した。

ま と め　古墳時代の集落は単発的で、小規模に点在しているものと考えられる。これまでの調査では砂丘東側斜面に占地するものと推定される。

調査報告書は2001年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　1:8000）


2．第２区全景（南から）

3．第１区土壙墓（西から）

9960 博多遺跡群第121次調査（HKT-121）

所 在 地	博多区中呉服町57番1・2	調査面積	146㎡
調査原因	社屋建設	担 当 者	佐藤一郎
調査期間	1999.12.13～2000.1.27	処　　置	記録保存

位置・環境　調査地は福岡平野を貫流する御笠川と那珂川に挟まれた砂丘上に立地する博多遺跡群の南側砂丘の北端部に位置する。

本調査はバックホーで、約160㎝の盛土を鋤取りすることから始めた。その結果、試掘調査で確認された遺物包含層（黒灰色砂質土）は撹乱を受けており、現地表下約200㎝の地山の黄白色砂層（標高2.3m）まで削平を受けていた。

検出遺構　検出された遺構は、井戸3基（12世紀のものと15世紀のもの）、石積土壙の断片1基、土壙数基と柱穴ピット状遺構数個で、他の掘り込みはすべて撹乱で、そのはとんどはバックホーのパケットの痕である。

出土遺物　出土遺物は12世紀の青磁碗（龍泉窯とも同安窯ともつかないもの）から15世紀の雷門帯青磁16世紀の明代後半の青花皿や線描き蓮弁青磁碗まで幅がある。

まとめ　1987年に北東隣接地で試掘調査が行われ、地表下200㎝で地山の黄白色砂層が確認され、遺構の残りは良好であったことから、本調査地は既存の建物の解体の際に多大な破壊を受けたものとみられる。

1．調査地点の位置（48　千代博多　0121　1:8000）

2．調査区全景（北西から）

3．井戸（東から）

9961 那珂遺跡群第74次調査（NAK-74）

所 在 地　博多区那珂１丁目424・424・426　　調査面積　598㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　本田浩二郎
調査期間　1999.12.20～2000.2.8　　処　　置　記録保存

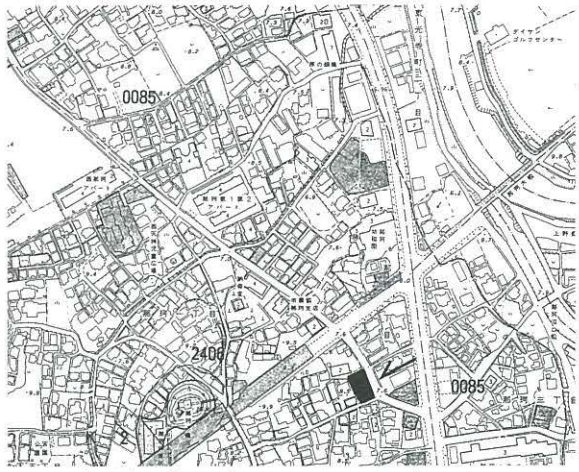
位置・環境　那珂遺跡群は福岡平野の中央部に位置し、御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵の北端に位置している。那珂遺跡群の北側には比恵遺跡群が存在するが、両遺跡は一連の遺跡群として考えられており、その分布範囲は南北2.4km×東西0.5～0.8kmが推定復元されている。

検出遺構　第74次調査地点は、那珂遺跡の北東側に位置しており、現地表面の標高は８ｍ前後を測る。調査の結果、対象地の南西側は中世以降の開発によって大幅に削平され、溝二条の底付近が検出されただけである。調査区北側でも西側半分が削平によって遺構が消滅していたが、残りの部分では遺構は良好に残存していた。調査地点付近は弥生時代中期頃に埋没した谷の西側斜面上に位置し、谷は弥生時代中期の遺物を大量に包含する暗褐色粘質土によって覆われていた。この包含層を掘り抜いて掘削された弥生時代後期から古代・中世の時期に属する井戸が９基検出された。弥生時代後期の井戸からは祭祀に用いられた壺・甕などの土器が出土した。古代の井戸は掘方の直径が３ｍ以上を測り、須恵器・土師器・木製品などが出土した。

出土遺物　遺物はコンテナケースで43箱分の弥生土器・土師器・須恵器・木製品・石器が出土した。

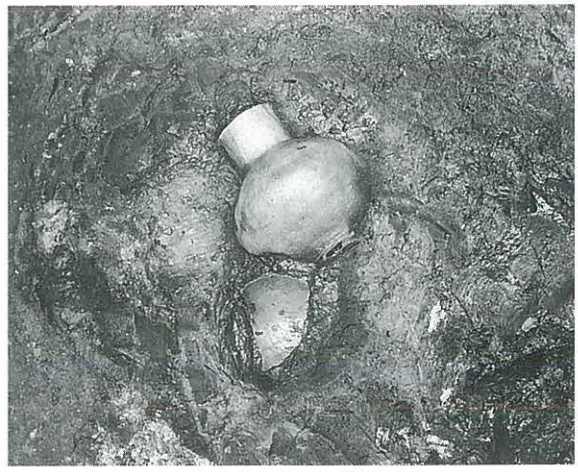
ま と め　本調査では調査区付近に弥生時代中期に埋没した谷が存在することが確認された。この谷は付近の調査区においても確認されており、当時の地形復元作業において貴重な知見となる。今後の資料の増加と、遺跡群全体の様相の解明に期待したい。

調査報告書は2000年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（37　0085　1:8000）

2．調査区北側全景（南から）

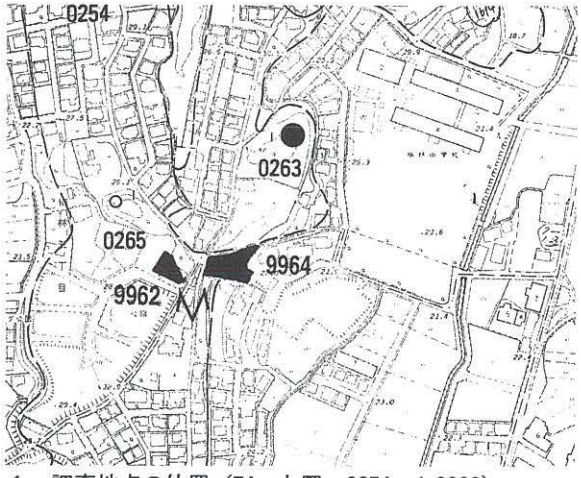

3．弥生時代井戸遺物出土状況（南から）

9962 飯倉G遺跡第5次調査（IKR-G-5）
9964 飯倉G遺跡第4次調査（IKR-G-4）

所 在 地　城南区梅林4丁目414-1・5丁目137-7
調査原因　福岡外環状道路、地下鉄3号線建設
調査期間　1999.3.9～4.27・5.24～6.10
調査面積　313㎡、170㎡
担 当 者　星野恵美・加藤隆也
処　　置　記録保存

位置・環境　飯倉G遺跡は、油山から博多湾に向かって派生した舌状丘陵の南端部に立地する。第4次調査地点は飯倉G遺跡のほぼ中央に位置する丘陵の東側斜面上に立地し、標高は約23～32mを測る。第5次調査地点は、標高約32mを測る丘陵頂部に立地しており、第4次調査地点の西側に隣接している。

西へ約100mの地点には梅林古墳が、東側には古墳時代の住居跡等を検出した梅林遺跡第2次調査地点が隣接する。



1．調査地点の位置（74　七隈　0254　1:8000）

検出遺構　第4次調査地点においては、西側では表土直下で、東側では2～4mの厚さがある盛土下の黄褐色粘質土上面で遺構を検出した。遺構は、溝3条（SD01～03）、焼土壙1基、他に性格不明のピット多数（風倒木跡も含む）である。

第5次調査地点では、表土から約－1m下の褐色粘質土上面で遺構を検出した。遺構は、溝1条（SD01）、土壙等である。

溝SD01の掘削時期は、出土遺物からみて、弥生時代中期後半以降と考えられる。第4次調査地点では、断面が「Y」字形で、幅2.5～4m、深さは最深部が5mを測り、斜面を南東から北西に走っていたが、丘陵頂部にあたる第5次調査地点では断面が「U」字形を呈しており、幅7mで南西へ弧を描きながら曲がっている。

2．第4次調査区全景（北から）

出土遺物　旧石器、弥生時代中期土器、古墳時代須恵器・土師器等が出土している。

まとめ　今回の調査で検出した溝SD01は、丘陵を巡る環濠の一部と考えられ、その平面形は東西に80m、南北に60mの楕円形に推定できる。溝の内部が削平を受けているため住居跡等の遺構の有無については確認できておらず、その性格については、周辺の今後の調査成果をみながら検討する必要がある。

なお報告書は、2001年度刊行予定である。

3．第5次調査区土層（西から）

9963 梅林遺跡第４次調査（UBY-4）

所在地	城南区梅林４丁目451-10・11	調査面積	760㎡
調査原因	福岡外環状道路、地下鉄３号線建設	担当者	井澤洋一
調査期間	1999.7.24～10.30	処置	記録保存

位置・環境　標高600ｍを測る油山からは、博多湾に向かって幾つもの舌状丘陵が派生する。更にこの丘陵は東や西方向に枝状に舌状台地を分岐しており、当遺跡は、その分岐した丘陵の一つ、標高約22ｍ上に立地する。東に七隈川、西に稲塚川に挟まれた地域である。

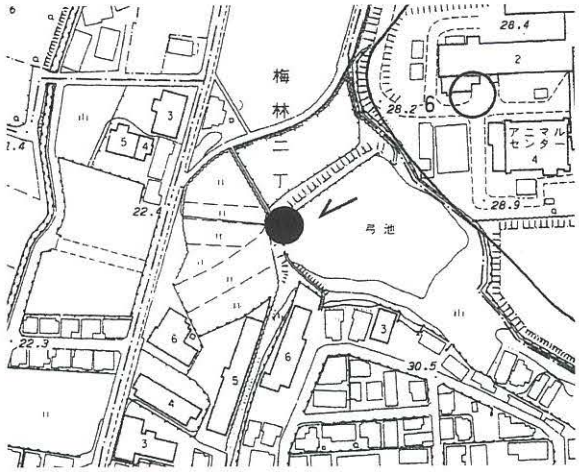
当該地より西へ約420ｍの地点には梅林古墳が、東方約150ｍ地点には梅林遺跡第１次調査地点が存在する。更に、当遺跡の西側には、古墳時代のオンドル住居跡等を検出した梅林遺跡第２次調査地点が隣接する。

検出遺構　遺構は、縄文時代の埋甕２基、古墳時代の竪穴住居跡２軒、柵１条、古墳～奈良時代の掘立柱建物５棟である。

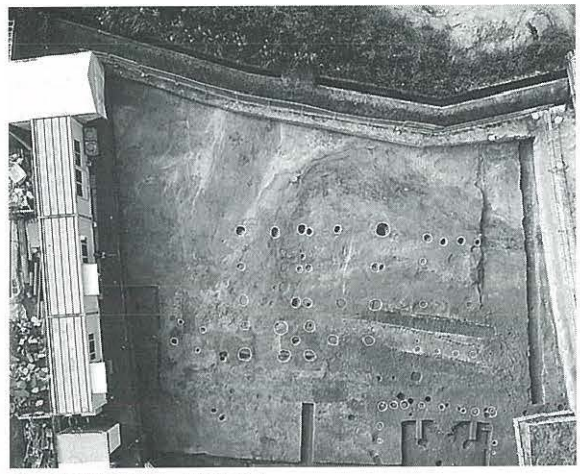
出土遺物　縄文時代の打製石鏃、石槍、古墳時代の須恵器坏・蓋・高坏、土師器甕・鉢・壺・甑・鉄滓、奈良時代の須恵器坏・蓋・甕、中世の土師器皿・坏、中国製青磁碗、白磁碗、陶器等が出土している。

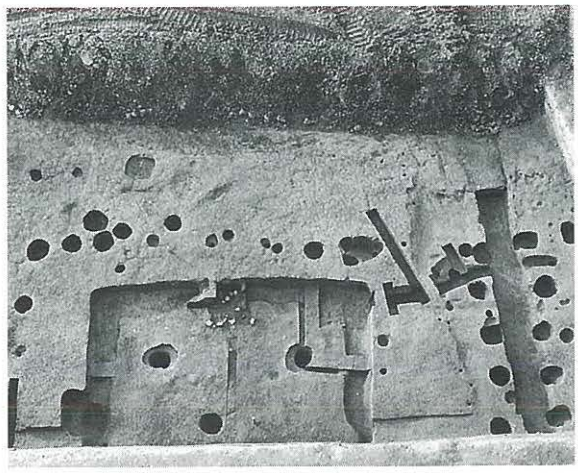
まとめ　当調査地点は、古くから博多湾からの物資運搬と交通路として利用されたと考えられる七隈川に接した場所に立地する。当調査では、オンドル構造の住居跡を２軒検出した。これらのオンドル構造の住居跡は、壁面の中央に竈を設けており、周壁に沿って20～50㎝の溝を全周させている。当遺跡のように煙道が住居内の周壁を全周する例は、現状では国内外共にみられない。

当該地は、第２次調査地点の東側に隣接しており、第２次調査で検出したオンドル構造の竪穴住居群と同一の集落を形成するものと考えられる。当遺跡は、第１次調査で検出した掘立柱建物群との関連も深く、また、渡来人との関わりを知る上でも大きな手掛かりと成り得る。



1．調査地点の位置（74　七隈　2775　1:8000）


2．調査区全景（東から）


3．竪穴住居跡SC02（東から）

9965 井尻B遺跡群第15次調査（IGB-15）

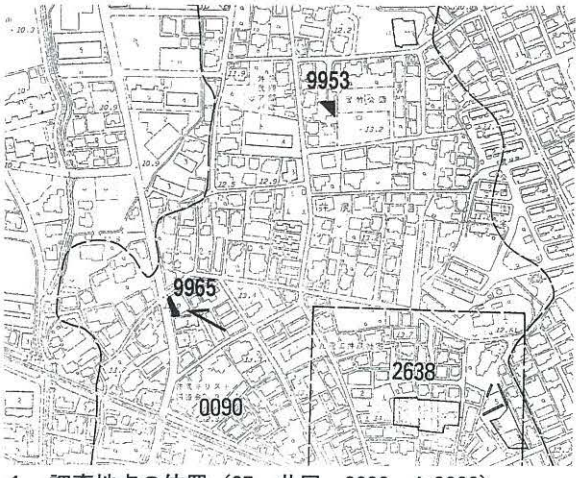
所 在 地　南区井尻１丁目362-3
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2000.1.14～1.28
調査面積　36㎡
担 当 者　上角智希
処　　置　記録保存

位置・環境　当調査地点は井尻Ｂ遺跡群の西部に位置している。駐車場造成に伴う調査である。まず60㎡について深さ30㎝の表土を除去し、遺構を確認し、その後、掘削により破壊される36㎡について発掘調査を実施した。

検出遺構　調査区全面にわたり遺構が密に存在する。埋土は黒褐色および薄い灰褐色を呈する。遺物があまり出土していないが、前者が中世、後者が近世の遺構と推定される。

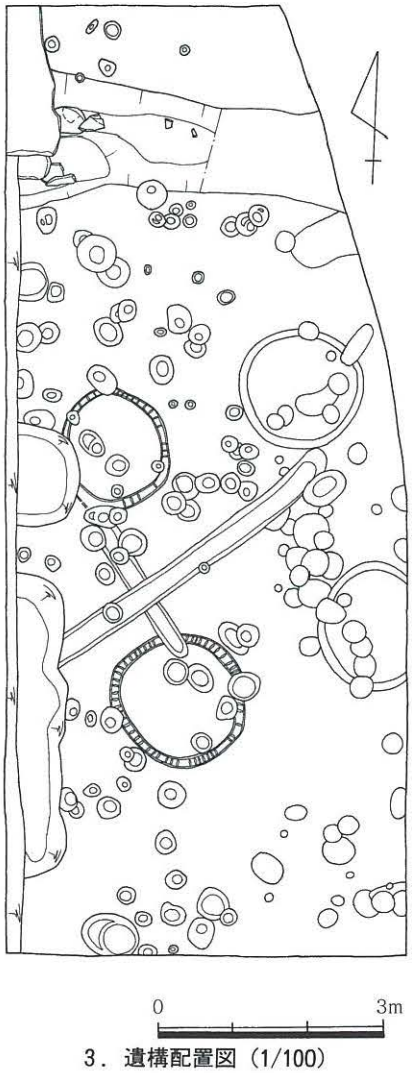
調査区北端で幅 120㎝、深さ60㎝の中世の溝を検出した。また、調査区中央で植木の根切りの痕跡と思われる円形の浅い掘り込み４つを検出した。遺物は出土していない。

出土遺物　遺物の総量はコンテナ３箱である。中世の擂鉢、瓦、鍋の破片や、唐津の皿などがある。



1．調査地点の位置（25　井尻　0090　1:8000）

2．中世の溝（西から）



3．遺構配置図（1/100）

9966 下山門乙女田遺跡２次調査（SOM-2）

所 在 地　西区下山門３丁目464・465　　調査面積　770㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　星野恵美
調査期間　2000.1.6～2.26　　処　　置　記録保存

位置・環境　下山門乙女田遺跡は福岡市の西郊に位置する早良平野の西北、生の松原海岸から 800ｍ程南に入った沖積地に位置し、十郎川東岸の自然堤防上に営まれた遺跡である。

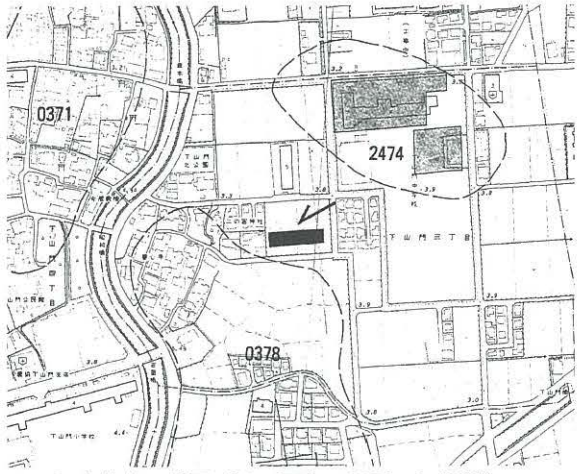
第２次調査地点は下山門乙女田遺跡の最南に当たり、下山門敷町遺跡第３次調査地点のすぐ北側に位置する。遺構面の標高は約 2.5ｍを測る。

検出遺構　室町時代を主とした遺構、溝12条、井戸２基、ピット群を検出した。溝は東西方向に５条、南北方向に６条、Ｌ字形に曲がる１条である。屋敷地等を分割する方形区画の溝と考えられる。区画の中には掘立柱建物のピットを多く検出している。掘立柱建物は切り合い状況から最低４回の建替えが考えられる。井戸は直径が約 2.5ｍの掘り方をもち、１基は井戸枠に桶を使用していた。湧水はしなかった。

出土遺物　遺物は陶磁器・土師器を主としてコンテナ14箱出土した。溝の中からは焼けた石、火鉢、土師器、陶磁器、石臼等が出土している。他に木製の下駄・皿、朱漆を施した椀、五輪塔の一部である塔身、青銅製の飾り金具、小型の器等が出土している。

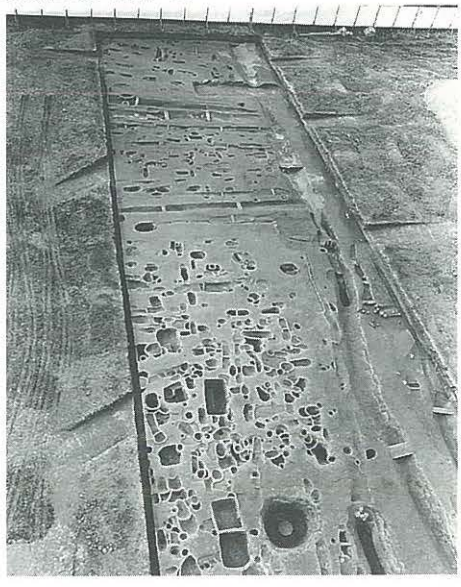
ま と め　第１次調査で中世の遺構を検出し、今回の調査でその集落の広がりを確認した。前回の調査で大宰府の観世音寺子院の調査で出土している仏像によく似た土製仏像が出土し、寺院の可能性が考えられていた。今回も青銅製品や五輪塔等が出土し、集落が室町時代末には存在していた可能性がある寺院とどのように関係するか、今後考えていく必要がある。

報告書は2001年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（90　石丸　2474　1:8000）

2．調査区東側全景（南から）


3．調査区西側全景（東から）

9968 神松寺遺跡群第２次調査（SNS-2）

所 在 地　城南区神松寺１丁目1709-1　　調査面積　188㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　藏冨士寛
調査期間　2000.2.21～3.16　　処　　置　記録保存

位置・環境　当調査区は片江川の西岸、金山より派生した丘陵の南側袖部に存在する。現在、丘陵上には老松神社があり、その周辺には弥生時代後期の集落や古墳時代後期の前方後円墳（神松寺御陵古墳）が存在した。

検出遺構　・中世（12世紀前半）土壙３
柱穴、ピット群
（15世紀後半）柱穴、ピット群

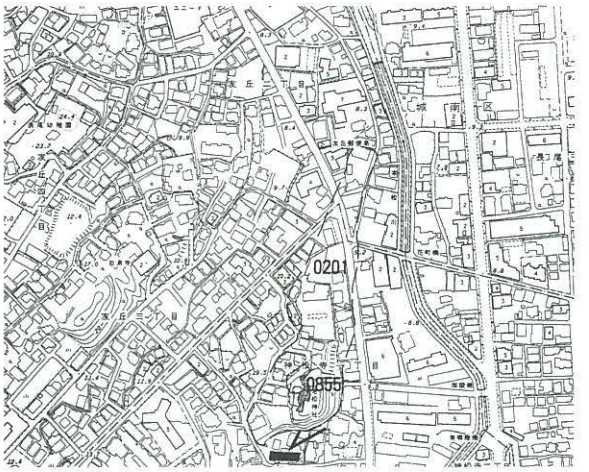
検出した遺構は12世紀前半と15世紀後半の大きく２時期に分けることができる。まず12世紀段階に丘陵裾部に溝を巡らすなど、地形を改変した後、柱穴群にみられるように掘立柱建物が建てられる。土壙は３基確認され、長軸方向を南北（２基）と東西（１基）にとる。遺物は流れ込みによる土器片しか含まれていない。そして15世紀後半になると、この地に再び平坦面を造りだし、掘立柱建物が建てられる。

遺構としては、柱穴が検出されたのみである。

出土遺物　中世陶磁器、瓦器などの他、包含層中からは弥生時代後期を中心とした多くの土器が出土した。これらは丘陵上に存在した集落遺跡よりの流れ込みと考えられる。

まとめ　今回の調査によって、２時期にわたる遺跡の存在が確認された。そして神松寺遺跡群の更なる広がりが想定できるようになった。

なお、報告書は、2000年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（62　原　0201　1:8000）

2．調査区全景（西から）

3．土壙（北から）

9969 博多遺跡群第122次調査（HKT-122）

所 在 地　博多区古門戸町61
調査原因　事務所ビル建設
調査期間　2000.2.21～5.8
調査面積　206㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地は福岡平野を貫流する御笠川と那珂川にはさまれた砂丘上に立地する博多遺跡群の北西側砂丘「息の浜」北西端部に位置する。

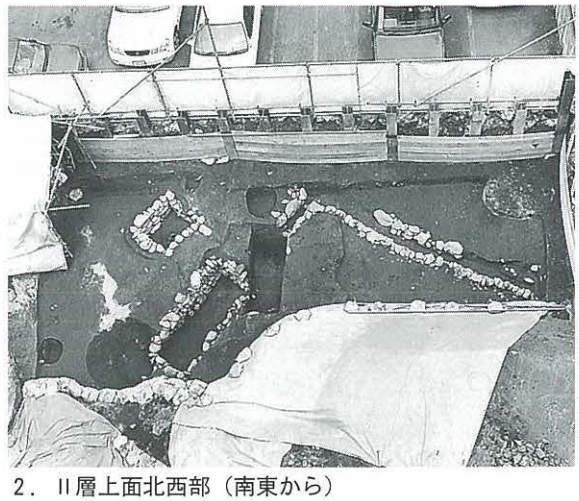
検出遺構　試掘調査の所見に基づき、地表下50cmまでの表土を鋤取り、灰白色土と暗茶褐色度の細かい互層（Ⅰ層）の上面を最初の調査対象面と設定した。検出された遺構は近世から近代にかけての道路、それと平行する礎石建ての建物跡、溜桝状遺構、土管埋設溝である。次に地表下 1.2～ 1.3mで確認された焼土粒を多量に含む黒褐色土層（Ⅱ層）上面まで重機で掘削し、Ⅱ層は人力で掘り下げ、その下面の灰褐色土層（Ⅱ層）上面（標高3.0m）でL字に屈折する石組み溝1条、素掘りの溝2条、井戸1基、石積土壙6基、石積みの溜池状遺構1基、方形竪穴1基を検出した。遺構の時期は16世紀で、溝や土壙は真北に近い主軸方位を取る。引き続いてⅡ層を掘り下げ、地表下3.2mの砂層（標高1.0m）上面で井戸8基（1基が16世紀で、他は12世紀後半）、石積み基壇（基底部のみの残存で、13世紀後半には廃絶か）、柱穴・ピット状遺構40、土壙6基を検出した。

出土遺物　Ⅱ層中からは土師器や明代後半の青花や青磁等の陶磁器の他、瓦片、土壁片が多量に出土した。

まとめ　調査地点は妙楽寺（1316年創建）跡と推定され、検出した遺構・遺物は、妙楽寺と何らかの関わりを持つものであろう。

なお、報告書は2001年度に刊行予定である。

1．調査地点の位置（49　天神　0121　1:8000）



2．Ⅱ層上面北西部（南東から）

3．方形竪穴（東から）

9970 博多遺跡群第123次調査（HKT-123）

所 在 地　博多区須崎町1-1
調査原因　ホテル建築
調査期間　2000.2.22～3.24
調査面積　190㎡
担 当 者　上角智希
処　　置　記録保存

位置・環境　博多遺跡群は福岡平野を南北に流れる御笠川、那珂川の河口一帯に所在する。中世には２つの砂丘が形成されており、北側を息浜、南側を博多浜と称している。本調査地点は息浜の西端部に位置する。

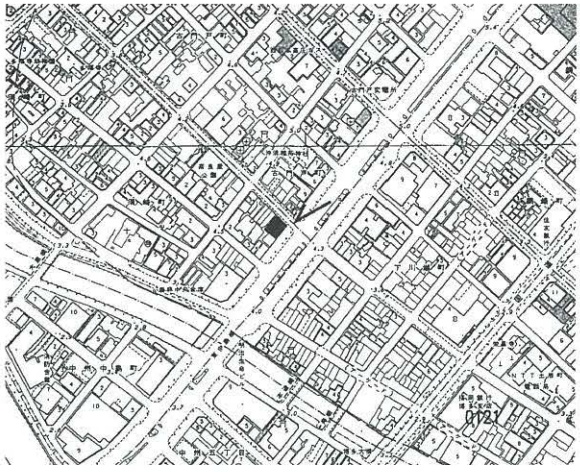
検出遺構　調査は現地表下 250～ 270cmの黄褐色粗砂層（地山）上面について実施した。これより上の層は後世の撹乱によって大部分が破壊されており、重機による表土鋤き取り時に、目についた土器を採集するにとどめた。遺構面にも新旧建物のコンクリート基礎が多く入り、破壊されている部分が多い。

検出遺構　井戸７基、溝２条、土葬墓１基、土壙約30基のほか、調査区全面にわたって柱穴多数を検出した。ほとんどの遺構が12～13世紀のものである。土葬墓は長方形土壙で木棺の痕跡を検出、上半身の人骨も遺存していた。被葬者は老年女性と推定される。他にも同様の大きさ、深さの長方形土壙が数基存在し、これらも墓の可能性がある。

出土遺物　主な出土遺物は中世前期の土師器、輸入陶磁器、瓦器である。ほかに近世の染付、陶器や瓦が出土している。遺物量はコンテナ50箱に相当する。12～13世紀に位置付けられるものがほとんどである。包含層からではあるが、北宋からの渡来銭「崇寧重寶」（1103年初鋳）が出土している。

ま と め　調査の結果、中世前期の遺構が、調査区全面にわたって高密度に分布していることを確認した。当地点は息浜の西端部と考えられているが、さらに西へも砂丘が広がっていたのではなかろうか。今後の調査が待たれる。

報告書は2000年刊行予定である。



1．調査地点の位置（49　天神　0121　1:8000）

2．調査区全景（西から）

3．井戸SE01（南から）

9971 那珂遺跡第75次調査（NAK-75）

所 在 地　博多竹下５丁目433　　調査面積　250㎡
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　長家伸
調査期間　2000.3.1～4.14　　処　　置　記録保存（一部現状保存）

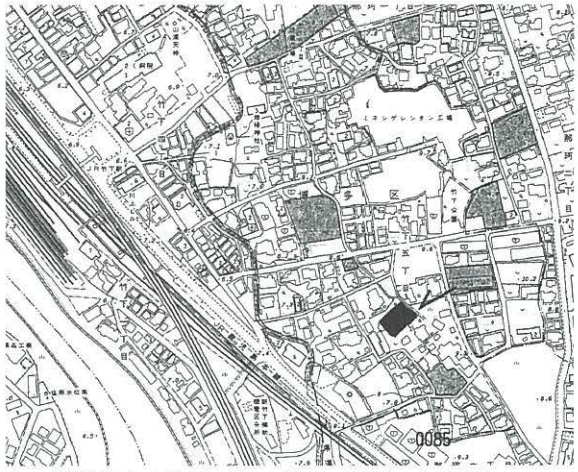
位置・環境　那珂遺跡は御笠川と那珂川にはさまれた火山灰によって形成された洪積台地上に立地する遺跡群である。アスファルト・砕石・旧表土を除去したローム層上面で遺構を検出した。遺構面の標高は8.5ｍでほぼ平坦である。

検出遺構　弥生時代：中期の井戸１基
後期の掘立柱建物１棟
古墳時代：後期の竪穴住居跡16棟以上
古　　代：溝１条
中 世 末：溝１条、ほかに土壙・柱穴を検出。

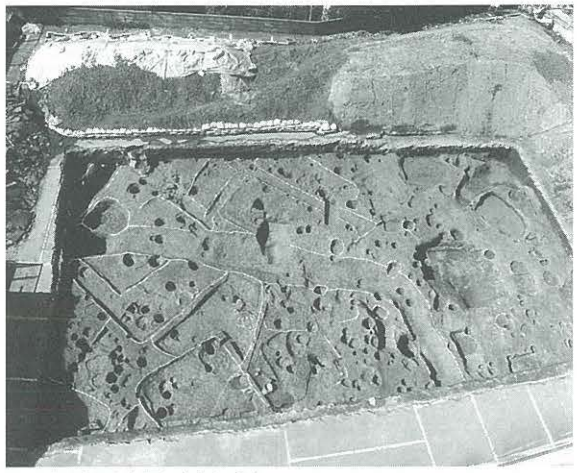
特に古墳時代後期の竪穴住居跡は調査区の西側半分に集中しており、時期差もほとんどないことから、短い期間に建替えが行われたことが想定できる。また古代の溝はほぼ南北方向に直線的にのびており、今回の調査部分を南端としても延長 600ｍを測る。当該溝は土師器・須恵器の他、瓦を多く含んでいる。また中世末の溝は矩形を呈し、屋敷地などを囲むものと考えられる。

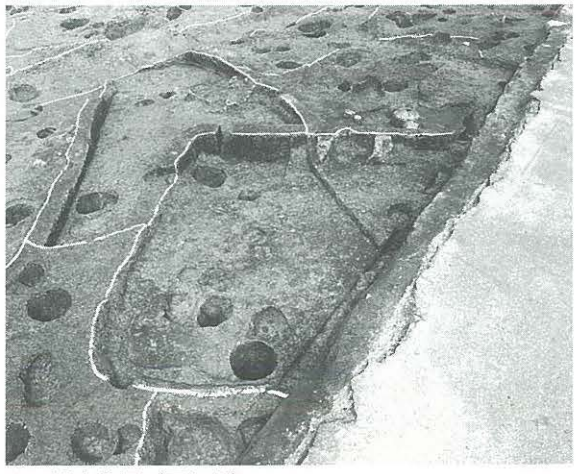
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器・瓦・石器など総量でコンテナ21箱分出土している。

ま と め　今回の調査地点では特に古墳時代後期の竪穴住居跡が密集した状態で検出された。近隣の調査区では古墳時代後期～古代の倉庫群なども確認されており、周辺の調査によってさらに状況が明らかになっていくであろう。



1．調査地点の位置（38　塩原　0085　1:8000）


2．調査区全景（南から）


3．竪穴住居（西から）

9972 麦野Ａ遺跡群第７次調査（MGA-7）

所 在 地　博多区麦野５丁目2-33・36　　調査面積　450㎡
調査原因　専用住宅建築　　担 当 者　本田浩二郎
調査期間　2000.3.13～2000.5.2　　処　　置　記録保存

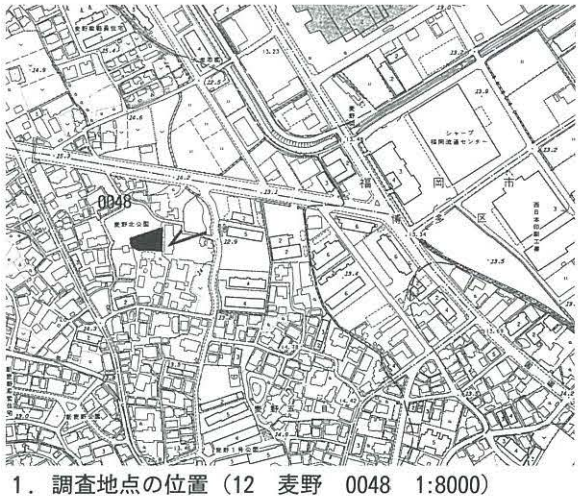
位置・環境　麦野Ａ遺跡は福岡市博多区の南端に位置している。周辺には麦野Ｂ・Ｃ遺跡、雑餉隈遺跡、南八幡遺跡、井相田遺跡などが展開する。井相田遺跡を除く、これらの遺跡は近接する舌状台地上の丘陵上に点在するが、その地形的な境界は現在のところ判然としない。

検出遺構　調査区の現状は畑で、遺構面の標高は15ｍ前後を測る。調査では８世紀後半から９世紀初頭にかけての二時期の溝遺構・柵列とこれに伴う門遺構、中世の溝と掘立柱建物数棟を検出した。溝遺構は施設の周囲に掘削されたものと考えられ、二時期に分けられる。柵列は第二段階の溝遺構に伴うもので、約30ｍ分柱穴15基を検出した。主軸方向はＮ－55°－Ｗをとり、周辺で確認されている条里制の方向と異なる。柵列の柱穴は掘方が方形または長方形で、一辺が１～1.2ｍを測る。柱穴底面で柱圧痕が確認され、その間隔は2.1ｍ前後を測る。門遺構も二時期に分けられ、第一段階で幅３ｍ、第二段階で幅4.6ｍを測り、建て替えに伴って規模が拡大したことが分かる。門遺構に伴う上部構造は現段階では確認できていない。

出土遺物　遺物は土師器・須恵器・白磁器などの貿易陶磁などがコンテナケース１箱分が出土した。

まとめ　溝・柵列・門遺構は規模・構造から官衙関連の遺構と考えられる。調査区周辺では８世紀後半から９世紀前半の大規模な集落が調査されており、集落遺跡との関連性も遺構の性格解明の上で今後の詳細な検討を必要とする。

報告書は2001年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（12　麦野　0048　1:8000）

2．調査区全景（東から）

3．調査区全景（東から）

9973 下原名切古墳群第１次調査（SBN-1）

所 在 地　東区大字下原字名切648-１他
調査原因　病院建設
調査期間　2000.3.13～5.2
調査面積　310㎡、古墳１基
担 当 者　大塚紀宜　藏冨士寛
処　　置　記録保存

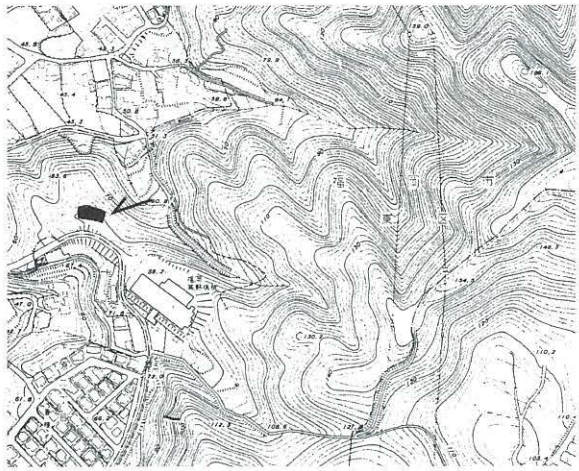
位置・環境　当古墳群は三日月山の西麓、西方に向かって延びる丘陵尾根筋の頂部近くに存在する。現在の標高は82ｍ程で、今回調査した古墳１基のほかに周辺で古墳は発見されていない。

検出遺構　古墳時代（後期）：古墳１基

古墳は径14ｍの円墳で、主体部は南側に開口する短室両袖構造の横穴式石室である。石室は3.2 ×1.6 ｍの長方形プランで、床面には礫を敷いている。石室入口部分や天井部分は破壊を受けていたが、基底部は比較的良好に残存しており、室内からはある程度の遺物の出土をみた。また、墳丘東側の裾部分からは須恵器蓋杯が３個体まとまって出土した。墳丘における祭祀のありかたを窺うことのできる資料として注目される。

出土遺物　石室内からは鉄刀、鉄鉾、鉄鏃といった鉄製品や耳環、玉類が出土した。天井部からの流れ込み以外で須恵器といった容器の類は検出されていない。墳丘・周溝からは上述した須恵器蓋杯のほか、須恵器甕の破片がいくつか認められた。

ま と め　古墳の築造時期は横穴式石室の形態や出土した遺物から６世紀前半と考えられる。また深い墓壙掘り込みを有する構造には近接する宗像地域からの影響が考えられよう。



1．調査地点の位置（5　三日月山　2806　1:8000）

2．横穴式石室（南から）

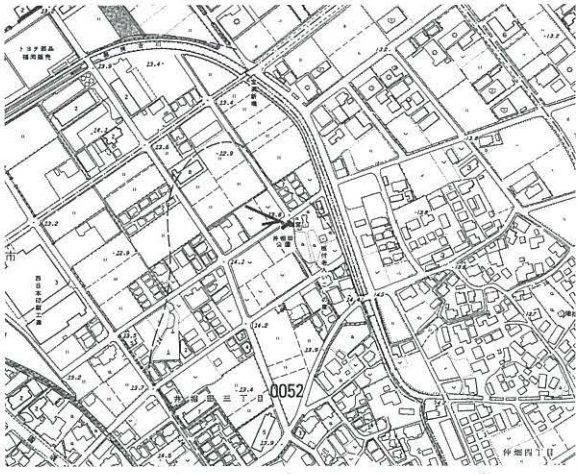
3．須恵器出土状況（東から）

9974 井相田Ａ遺跡群第１次調査（ISA-1）

所 在 地　博多区井相田地内　調査面積　４㎡
調査原因　公園施設建設　担 当 者　本田浩二郎
調査期間　2000.3.8～3.9　処　　置　記録保存

位置・環境　井相田Ａ遺跡群は福岡市博多区に所在し、市域最南端に位置している。地理的には月隈丘陵と麦野丘陵に挟まれた沖積平野の低位段丘面にあたる。この沖積地は三郡山塊南端の宝満山西麓に端を発する御笠川と周辺から合流する牛頸川、諸岡川などによって浸食され形成される。井相田Ａ遺跡は御笠川下流域の西岸低位段丘面に立地し、現状での標高は14m前後を測る。

井相田Ａ遺跡群内での発掘調査は本調査が第１次であり、これまでは試掘調査などの成果から古代の包含層の存在が知られていただけで、遺跡の内容については不明な点が多い。



1．調査地点の位置（12　麦野　0052　1:8000）

検出遺構　本調査は公園のフェンス付設工事に伴って行われ、調査面積は約４㎡と狭いものであったが、大型の合せ口の甕棺１基・小児甕棺３基を検出した。大型甕棺（Ｋ２）は重機によって上部が一部破壊されており、遺存は良好であったが、３基の小児甕棺は過去の側溝付設工事などにより残存状態は不良であった。基盤層となる褐色粗砂層は御笠川の河川堆積によるもので、粗砂層の標高は13m前後である。大型甕棺はほぼ水平に埋置され、主軸方向はＮ－40°－Ｅをとる。土圧で上甕の一部が破損し、内部に暗褐色土が流れ込んで堆積していた。甕棺の中からは副葬品・人骨の出土はなかった。３基の小児甕棺のうちの１基（Ｋ１）は大型甕棺と主軸を共にしており、斜位に埋置される。もう１基の小児甕棺（Ｋ３）は大型甕棺の墓壙内から検出されたが、同時期のものではなく、意図的に重複するように墓壙が掘削されたと考えられる。これらのことから、被葬者間の親族関係などが想定される。これらの甕棺の時期は使用される甕から弥生時代中期前半頃から中頃が考えられる。

2．大型甕棺検出状況（南東から）

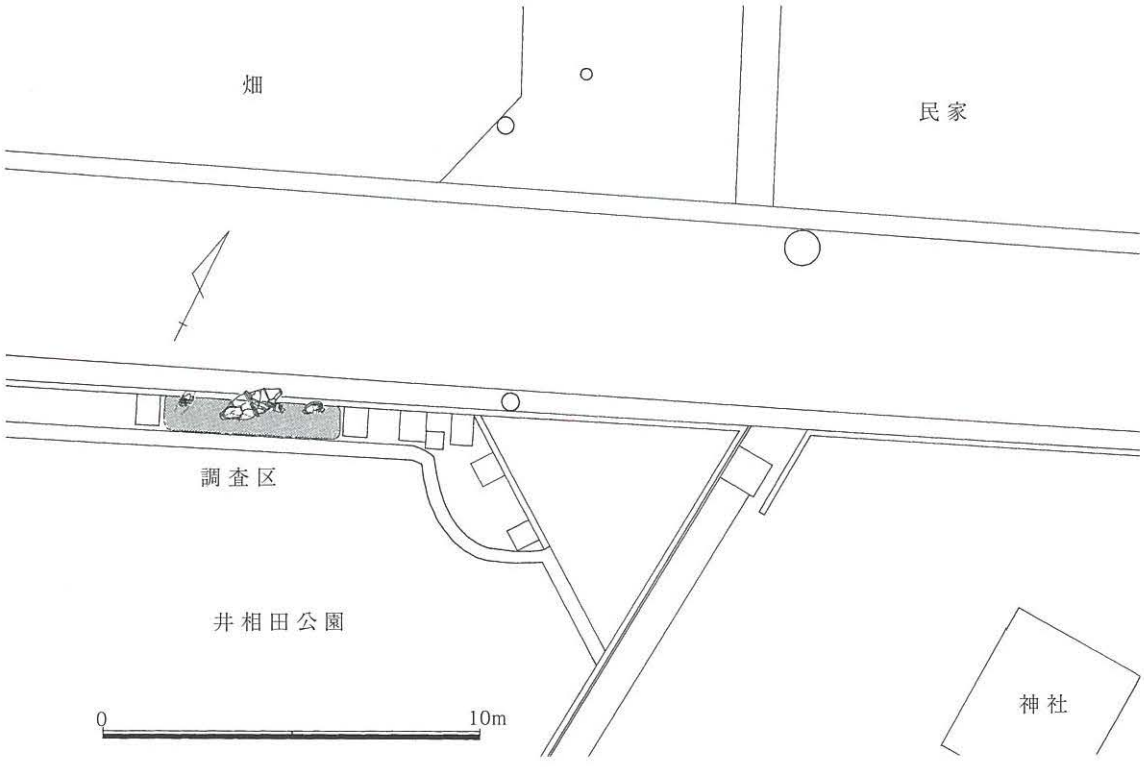
3．小児甕棺検出状況（南から）

出土遺物

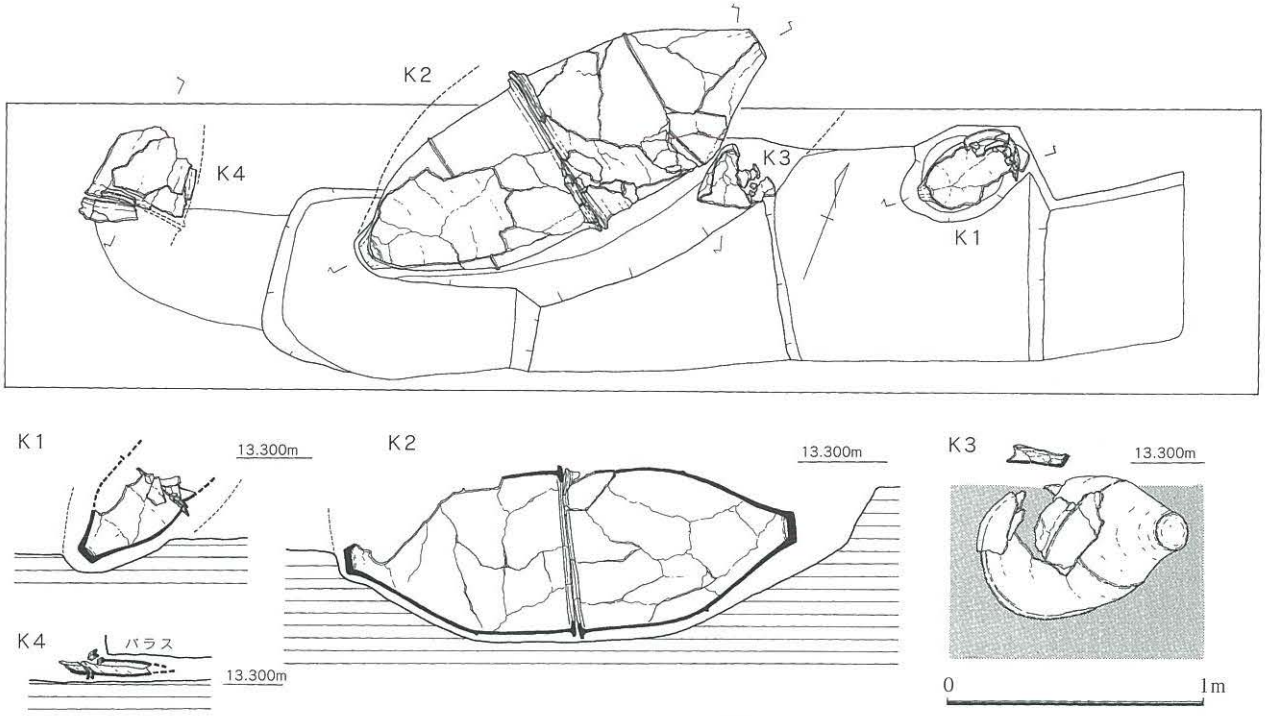
1は須恵器の壺の口縁部である。復元口径24.0cmを測る。2・3は須恵器の杯蓋である。ともに口縁部が欠損しており、天井部のみが残存する。天井部にはヘラ記号を付す。4は須恵器の坏身である。5はＫ１の上甕である。胴部の一部は攪乱のため欠損する。口径は34.4cm、復元器高は37.6cmを測る。6はＫ１の下甕である。外器面には縦位の刷毛目調整が明瞭に観察できる。口径36.3cm、器高37.6cmを測る。7は弥生土器の甕の口縁部片である。調査を行った井相田公園内の西側別地点で表採したものである。8はＫ３に用いられた甕である。口縁部を欠損する。過去の工事により口縁部は失われている。9はＫ４の上甕である。口縁部以下は測溝付設工事の際に失われていた。復元口径は34.3cmを測る。10はＫ４の下甕である。底部は調査区外に位置し、取り上げることができなかった。口径32.0cmを測る。11はＫ２の上甕である。口径68.0cm、器高85.2cmを測る。12はＫ２の下甕である。胴部下半部の一部が欠損する。口径68.8cm、器高88.4cmを測る。

ま と め

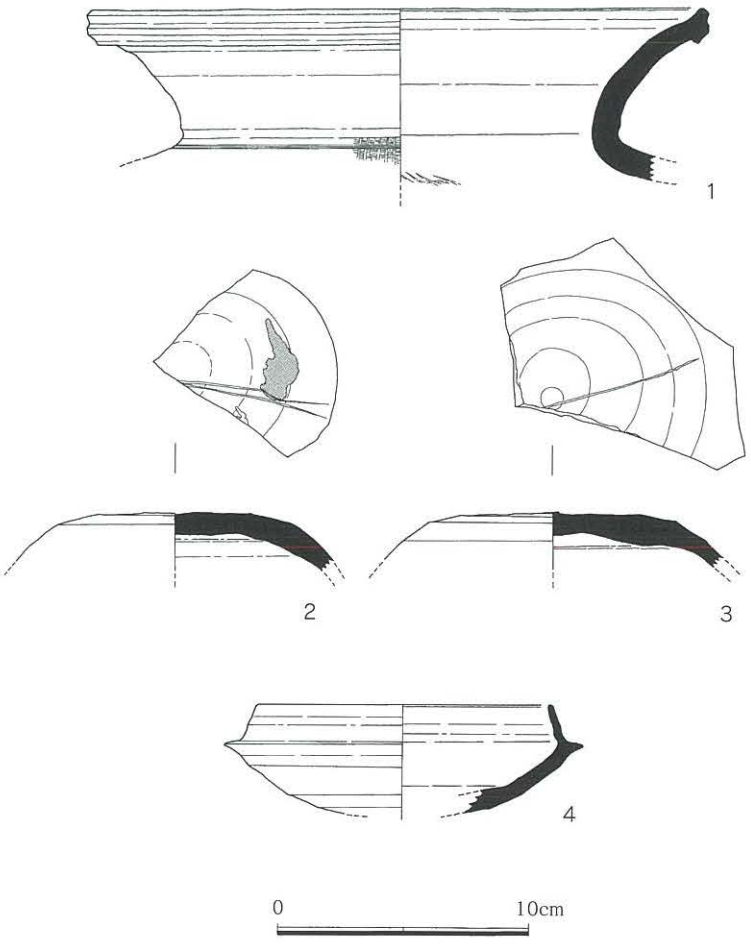
今回調査を行った甕棺墓の上に堆積する暗褐色土層は古代以前に形成された遺物包含層と考えられ、この層からは6世紀後半代に属する須恵器・土師器などが出土する。また、この層の上面には中世の遺構が存在していたものとみられ、中世に属する遺物も出土している。4㎡という狭い範囲での調査であったため、甕棺墓以外の遺構を検出することはできなかった。本調査地点より西側50ｍは大野城市域になり、大野城市教育委員会による仲島遺跡群の調査も行われており、その調査成果より本調査地点の甕棺墓群も仲島遺跡群と一連の遺構群として捉えることができよう。井相田Ａ遺跡内での調査は本調査が第一次であり、今後の調査で遺跡群全体の様相が明らかになることに期待したい。



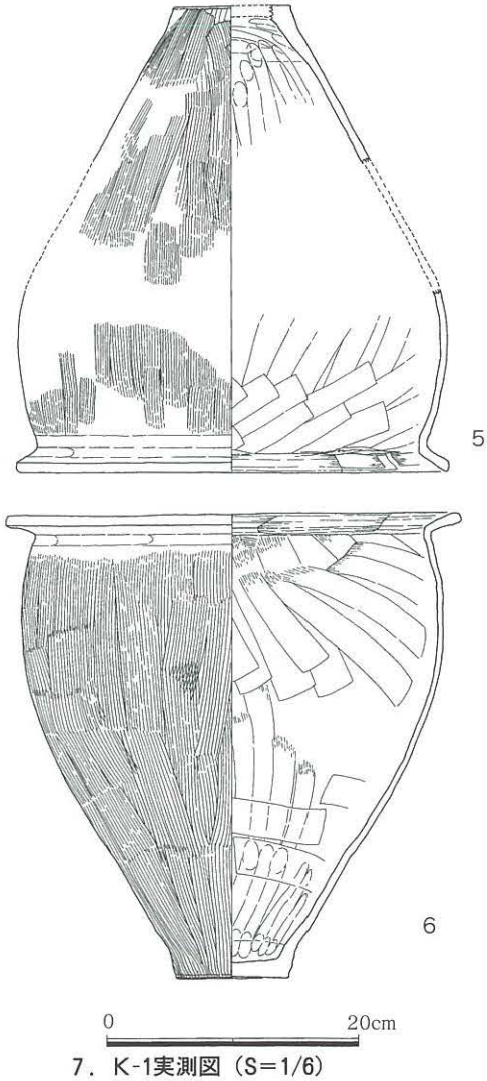
4．調査区周辺測量図（Ｓ＝1/200）



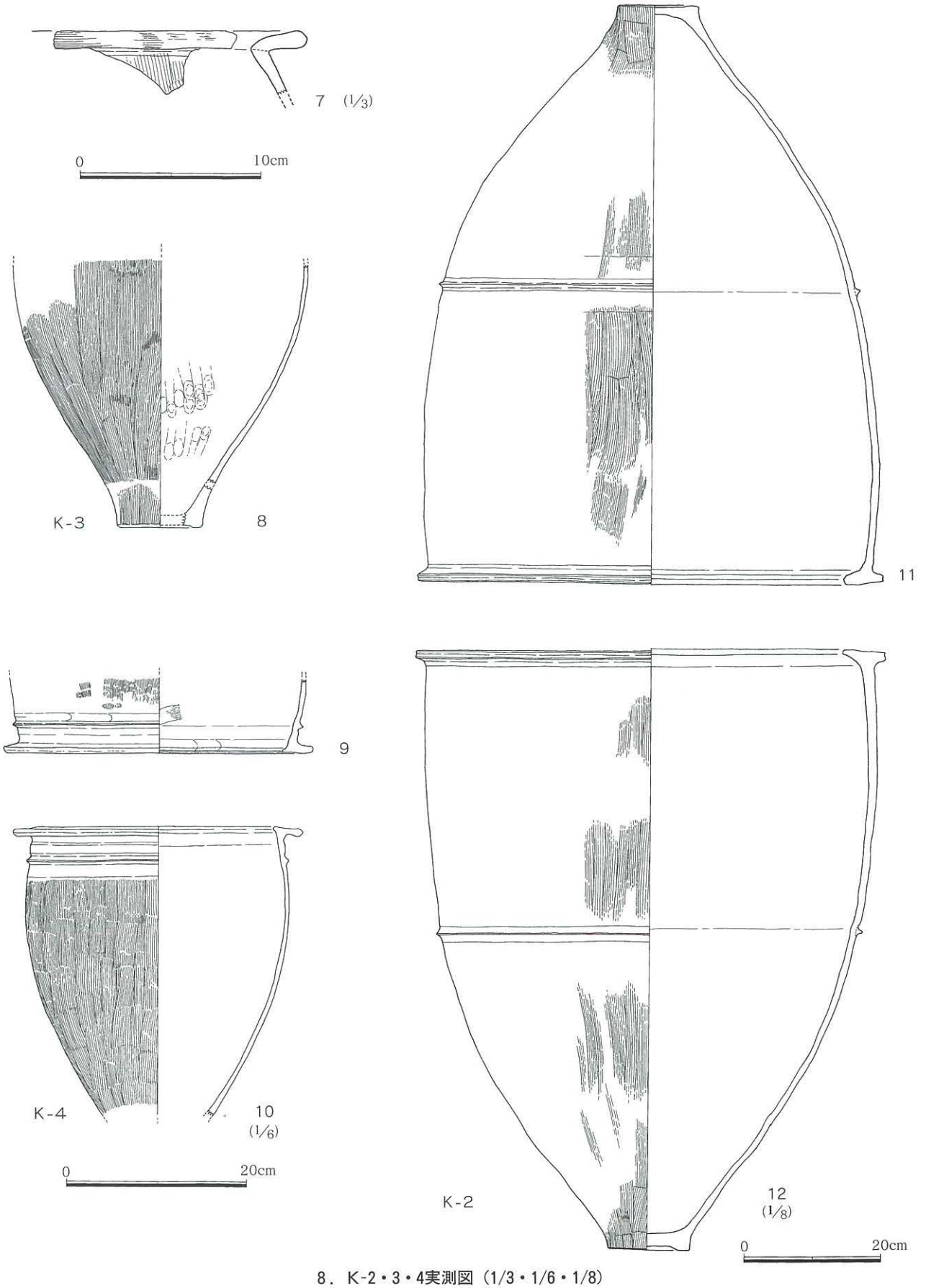
5．甕棺墓出土状況平面及び断面図（S＝1/60）



6．出土遺物（須恵器）実測図（S＝1/3）



7．K-1実測図（S＝1/6）



8．K-2・3・4実測図（1/3・1/6・1/8）

9975 野方平原遺跡第１次調査（NKH-1）

所 在 地	西区野方6丁目地内	調査面積	120㎡
調査原因	道路拡幅	担 当 者	久住猛雄
調査期間	2000.3.9～3.29	処　　置	記録保存

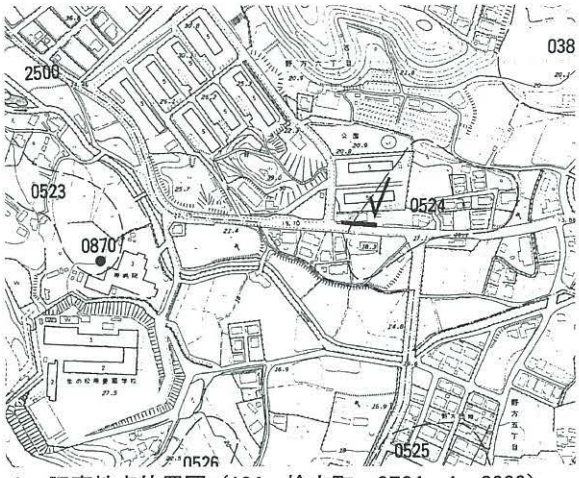
位置・環境　調査地点は、早良平野の西側、叶岳の北東側裾野に広がる扇状地台地の一角にある。調査地の南東には、野方久保遺跡、野方中原遺跡といった弥生～古墳時代の大規模な遺跡が近在する。分布地図上の野方平原遺跡の想定範囲は、造成による削平が著しい。調査地は、遺跡範囲の南端付近にあたるが、南東に低く北西に高く、すでに北西側は基盤の花崗岩まで削平された状況である。調査地の標高は17.5～19.5mである。

検出遺構　調査地の中央から東側に遺構がわずかに残存していた。遺構検出面は、調査区中央から西側は花崗岩媒乱土（一部花崗岩岩盤 ）、東側はその上に斜面堆積した赤褐色土と花崗岩（または媒乱土）の混合層である。東半（Ⅰ区）に遺構が見られ、西半（Ⅱ区）は削平が顕著で確実な遺構は無かった。検出遺構は、柱穴14、竪穴住居跡の壁溝の痕跡の溝1、溝状の土壙１である。このうち、柱穴のSP05、09、10、11、12は径40㎝前後で一直線に並び、一辺４間の掘立柱建物であろう。時期は出土土器片から古墳時代と考えられる。溝状土壙SX01は出土した染付片などから近世後期以降のものであろう。

出土遺物　出土遺物は、古墳時代と考えられる土師器片と、近世以降の陶磁器片・素焼土器片があり、パンケース１箱分出土している。

まとめ　今回の調査では、古墳時代の可能性の高い掘立柱建物などからなる集落と、近世以降の遺構を確認した。調査地付近は削平が著しく遺跡の残存度は期待できないが、今後、遺構の残存範囲について注意が必要である。なお、東側隣地の２次調査では、古墳時代～平安時代初期にかけての遺物包含層が確認されていることを付言したい。

報告書は２次調査と合わせ2002年刊行予定である。



1．調査地点位置図（104　拾六町　0524　1：8000）

2．調査区（Ⅰ区）全景（西から）

3．Ⅰ区柱穴列（建物跡か）（西から）

9976 飯倉C遺跡第５次調査（IKR-C-5）

所 在 地　城南区七隈２丁目831-35及び979番１　　調査面積　223㎡
調査原因　宅地造成　　担 当 者　米倉秀紀
調査期間　2000.3.22～4.14　　処　　置　記録保存

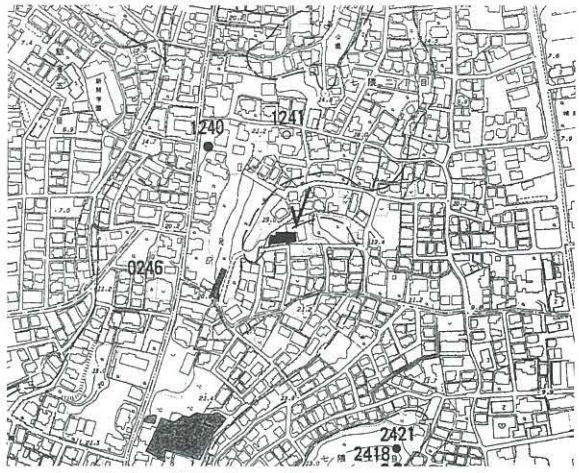
位置・環境　飯倉Ｃ遺跡は、早良平野東部にある、南北に細く伸びる低丘陵であるが、飯倉Ｃ遺跡はそのやや北よりにある。調査地点は同遺跡の北東側にあり、北側を谷に面した東に傾斜する斜面上にある。北側の谷は急激に落ちる。

検出遺構　現況は山林であったため、根による攪乱や、全体に削平を受けていたため、遺構の残存状況は良くなかったが、遺構の数は多い。検出した遺構は弥生時代後期の住居跡４軒、谷に向かって南北方向に伸びる幅50ｍの溝２条、その他用途のわからない土壙10基や、ピット50基で、その多くは弥生時代後期である。また時期がわからない焼土壙３基も検出した。住居跡は方形の平面形で、壁溝をもつ。主柱穴は２本で、炉は確認できなかった。またベッド状遺構を伴う可能性がある。

出土遺物　出土した遺物はそのほとんどが弥生時代後期の土器で、後期土器以外では石鏃１点、ごく少量の弥生時代中期の土器、黒曜石数点が出土し、総量でコンテナ10箱分が出土した。特に南北方向の溝からは、深さ10～20㎝という浅さにもかかわらず、完形品も含めて、全量の約半分が出土している。

まとめ　今回の調査地点はすぐ北側に急激な斜面をもつ谷に接した東向き斜面に立地したため、遺構数は少ないと判断していたが、住居跡４軒のほか、多くの遺構群を検出した。しかも早良平野では比較的数の少ない弥生時代後期中頃の住居で、貴重な資料を提供した。

報告書は2001年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（73　茶山　0246　1:8000）

2．調査区全景（東から）

3．遺物出土状況（弥生時代後期の溝）

9977 大林遺跡第１次調査（OBY-１）

所 在 地	西区拾六町５丁目977-４他	調査面積	370㎡
調査原因	宅地造成	担 当 者	池田祐司
調査期間	2000.3.22～（12年度継続）	処　　置	記録保存・一部盛土保存

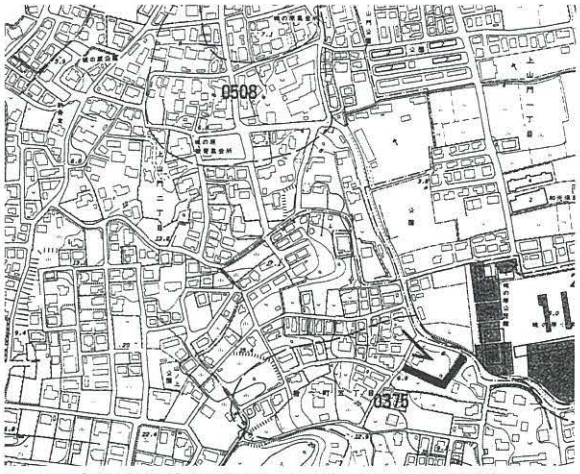
位置・環境　長垂丘陵から北東に延びる丘陵上に位置する。調査地点はこの丘陵の末端に位置し標高約５～６ｍを測り、現状は荒地である。北側、南側の谷には拾六町ツイジ遺跡、湯納遺跡があり、多量の木製品等が出土している。

検出遺構　遺構は表土直下の花崗岩バイラン土等の２次堆積上面で検出した。検出した遺構は古墳時代の小型の土壙、古代後半の10世紀以降と考えられる掘立柱建物、溝、柱穴、近世の土壙、溝等である。調査区中央部で検出した掘立柱建物は２間×９間と大型で、間柱と北側の側柱の間北寄りにはやや小ぶりの柱穴が並ぶ。建物の方位はN-26.5°-Wである。溝は幅90㎝、深さ30㎝を測り、掘立柱建物に平行し関連が窺われる。調査区西側にも柱穴が多数確認できたが、調査区内では関連がつかめない。近世の土壙からはくらわんか椀等の陶磁器が出土し、墓壙の可能性がある。

出土遺物　出土遺物は少量の弥生土器、古式土師器、土師皿、近世陶磁器等がコンテナ６箱出土した。

ま と め　大型建物の性格としては寺社、荘園の関連施設等が考えられる。周辺には城ノ原廃寺、斜ヶ浦古窯址等の古代の遺跡があり、近接する湯納遺跡では大型建物が確認され関連を検討する必要がある。

報告書は2000年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（103　長垂　0375　1:8000）

2．大型掘立柱建物（東から）

3．土師器出土状況（西から）

9978 箱崎遺跡第21次調査（HKZ-21）

所 在 地　東区箱崎１丁目2480　　調査面積　421㎡（２面）
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　榎本義嗣
調査期間　2000.3.29～（12年度継続）　　処　　置　記録保存

位置・環境　箱崎遺跡は博多湾岸に形成された南北方向の古砂丘上に立地する。本調査区は遺跡北側の砂丘西側緩斜面上に位置している。基本的な層序は上層より近現代の客土層、暗褐色砂質土層、暗褐色砂質土混じりの黄褐色砂質土層、そして砂丘基盤の黄褐色砂層である。今回の調査では２面の調査を実施し、上面を標高約 2.7ｍの暗褐色砂質土層上面に、下面を標高約 2.4ｍの黄褐色砂丘面に設定した。

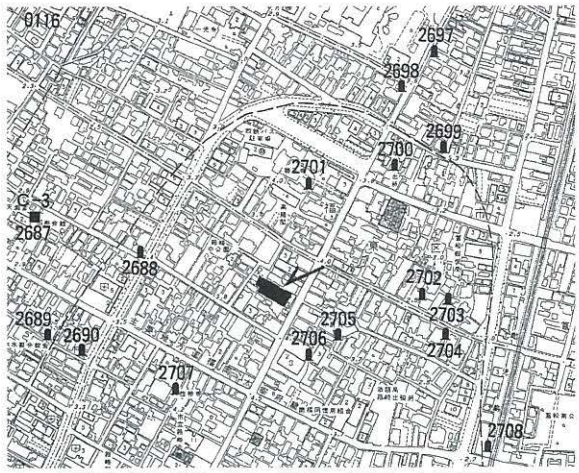
検出遺構　上面では近世から近代の瓦組井戸および13世紀から14世紀の井戸•土壙•ピットを検出した。土壙には土師器を主体とし、輸入陶磁器を廃棄するものが数基確認できた。また、ピットを主として覆土中に焼土塊を含む遺構が多数認められ、火災等に起因するものと考えられる。

下面では12世紀中頃から後半の井戸、土壙、溝、埋葬遺構、ピットを確認した。調査区の中央で検出した５基の埋葬遺構（土壙墓２基、木棺墓３基）は近接するが、墓壙配置や頭位方向は不規則である。いずれも豊富な副葬・供献遺物を有し、土師器・輸入磁器の他に和鏡、銅銭、青銅製容器、ガラス玉等が出土している。また、大半に人骨が良好に遺存している。これら大半がピットに切られており、集落にやや先行して営まれた墓地であると推測される。

出土遺物　コンテナ数にして65箱が出土した。土師器、瓦器、須恵質土器、国産陶器、輸入陶磁器、金属製品、瓦等がある。

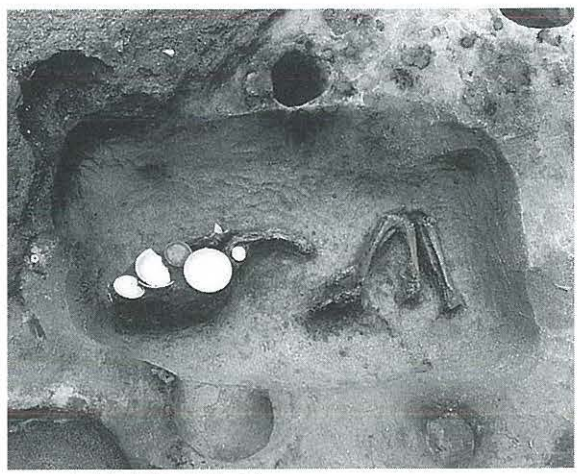
ま と め　下面で検出した埋葬遺構は副葬品や埋葬姿勢、遺構種別と性別差、年齢差等との相関関係について貴重な情報が得られるものと期待される。また、中世集落内における墓地に在り方を考える上でも貴重な資料である。

調査報告書は2001年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　1:8000）

2．調査区西側下面全景（北から）


3．下面土壙墓（東から）

9980 山の鼻１号古墳第２次調査（YHK-1-2）

所 在 地　西区大字徳永265-1他
調査原因　史跡整備に伴う確認調査
調査期間　1999.11.17～2000.2.23
調査面積　363㎡（古墳１基）
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　埋戻して保存

位置・環境　今宿平野に派生する丘陵先端に位置する。周辺には12基の前方後円墳が確認され、首長墓の系譜たどれる中で若八幡宮古墳とともに最古式に位置付けられる。標高は18mを測る。

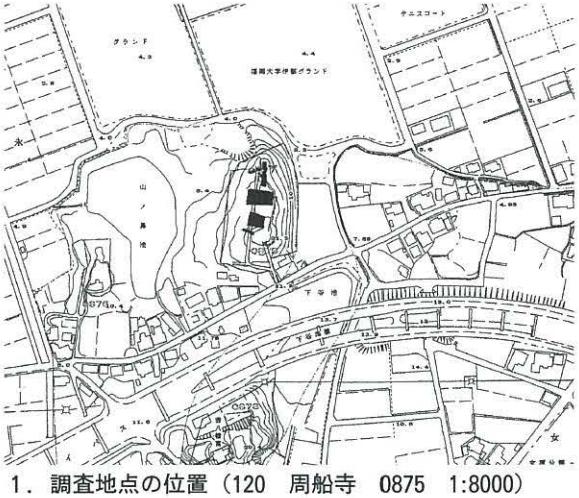
検出遺構　1990年2月～3月に実施された調査に引き続き墳形を確認する目的で発掘調査を行った。検出された遺構から復元した墳丘は後円部を南側に配置した主軸方位Ｎ－５°－Ｅをとる全長37.2ｍ（墳端）、後円部径20.5ｍの規模を測る。

墳丘西側の葺石はくびれ部から後円部にかけて墳端をめぐる。１段目の基石と２段目までが概ね原位置を保つが、上部の葺石の大半は崩落し、前方部にかけては特に遺存が悪い。また、墳丘は大きく削平され段築の形状は今回の調査でも不明であった。

前方部は撥形に開き周溝が巡る。端部は丘陵尾根線を切断する形状で幅約2mの周溝が巡り、内には原位置を保たず崩落した葺石と考えられる20㎝大の礫が多く埋まっていた。北東隅付近は削平を受け消滅している。なお、墳丘周辺には前回の調査でも検出された弥生時代の木棺墓が分布している。

出土遺物　くびれ部周辺と前方部隅角近くの周溝内から二重口縁壺、山陰系の器台が出土した。時期的には布留式中～後半期（４世紀中～後半）に並行すると考えられる。遺物は総量でコンテナ３箱分。

ま と め　墳形、規模を確定することができ、今宿平野における首長墓の変遷をより明確にできた。墳形、出土遺物の時期から近接する若八幡宮古墳に極めて近い時期であることが判明したが、その前後関係等については今後の検討が必要である。



1．調査地点の位置（120　周船寺　0875　1:8000）

2．前方部検出状況（南から）

3．くびれ部検出状況（西から）

9981 吉塚遺跡群第8次調査（YSZ-8）
（市史跡東光院境内第１次）

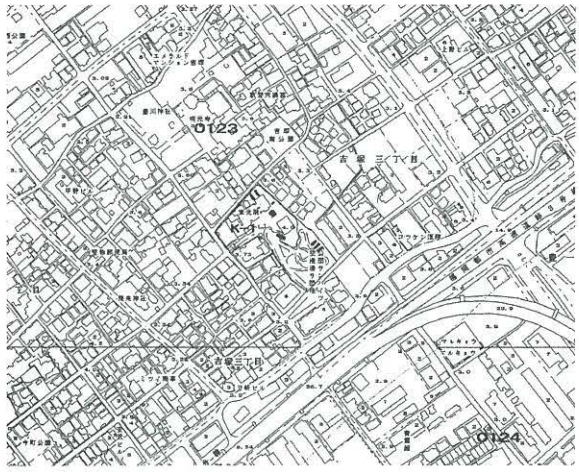
所 在 地　博多区吉塚3丁目20-37　　調査面積　105㎡
調査原因　史跡整備　　担 当 者　荒牧宏行
調査期間　2000.2.23～6.5　　処　　置　埋戻して保存

立　　地　博多湾に面した砂丘列の際に位置する。この砂丘列には吉塚遺跡群が立地し、最大幅３００ｍに及ぶ規模で北西へ900m延びている。その背後には今回の調査でも確認された湿地が広がるものと考えられる。

検出遺構　調査では７本のトレンチを設定して遺構確認を行ったが、現在の東光院境内と庭園の境近くに設定したトレンチで特に注目される遺構・遺物がみられた。このトレンチの位置は砂丘列とその後背湿地の境に位置し、この後背湿地を漸次埋めながら寺院の整地が行われている。創建時の可能性がある盛土は湿地帯の際から厚さ約60㎝築かれ、下方の湿地の堆積土である黒褐色粘質土にむけての傾斜面上に多量の瓦片が出土した。さらに上層には戦国～江戸初期と考えられる焼土を多く含む盛土がみられ、さらに上部に細かい整地層が堆積する。北側の本殿付近には風成砂が地山となり、先の黒褐色粘質土より約１ｍ高くなっている。

出土遺物　多量に出土した瓦片の瓦当は博多で特徴的な押圧文の平瓦、花卉文の丸瓦片を含む。瓦片の時期は12、13世紀代に属すると考えられる。今回の調査によって出土した遺物総量はコンテナ60箱分に及ぶ。

ま と め　検出された盛土や多量の瓦片は博多の禅宗寺院や『筑前國續風土記』などに記され、東光院の側に構築されたと云われる「薬師堂」との関係が留意される。また、12世紀代の瓦を含む遺物は、かつて所蔵されていた仏像（重要文化財）の年代に近く、創建時期を示唆するものと思われる。寺域は未だ不明であるが、南側は上述の湿地を池として機能させた可能性があり、庭園が遺存する可能性がある。



1．調査地点の位置（35・36　吉塚・博多駅　0123　1:8000）

2．No4トレンチ全景（整地層検出）

3．No4トレンチ（瓦片出土状況）

Ⅲ．平成11年度指定文化財

本年度、平成12年３月23日付けで下記の文化財が新たに市指定を受けた。

指定区分	種別	指定名称	員数	所在地	所有者及び保持団体
有　形 文化財	建造物	住吉神社能楽堂	１棟	福岡市博多区住吉三丁目１番51号	宗教法人住吉神社 代表役員　横田　豊
		旧山下家住宅 附明治八年（1875）の棟札	１棟	福岡市西区能古1624番	久保田観光株式会社 代表取締役　久保田晋平
	彫刻	銅造日蓮上人立像	１躯	福岡市博多区東公園７番11号	宗教法人日蓮聖人銅像護持教会 代表役員　吉倉立人
	考古資料	宝満尾遺跡出土品	539点	福岡市博多区井相田二丁目１番94号 福岡市埋蔵文化財センター	福岡市

本年度新たに指定された考古資料は、昭和47年７月10日～11月21日に、福岡市博多区大字下月隈字宝満尾250他所在の宝満尾遺跡において福岡市教育委員会が実施した発掘調査の結果出土した遺物群のうちの一部である。

宝満尾遺跡は、福岡平野の東側を画する月隈丘陵南斜面（標高25m）上に位置しており、弥生時代の墓地、貯蔵穴、古墳２基を含む遺跡である。昭和47年度の調査によって弥生時代中期後半の甕棺墓６基、同後期前半の土壙墓13基、石蓋土壙墓２基、石棺墓１基等が検出され、４号土壙墓から前漢鏡１面、６号土壙墓から鉄斧１点、13号土壙墓から素環頭刀子が１口、15号土壙墓からガラス製小玉536点が出土した。

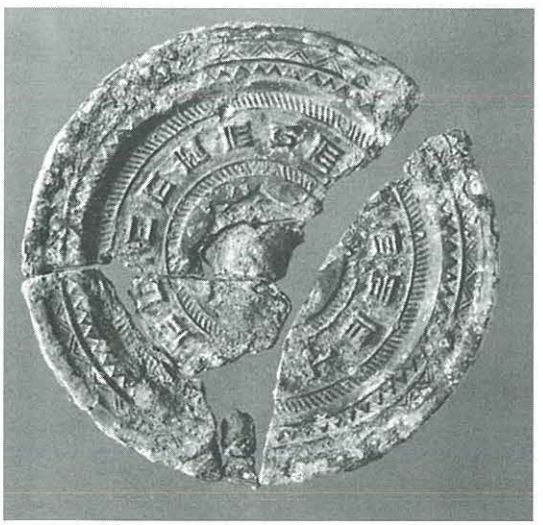
前漢鏡は、異体字銘帯鏡（昭明鏡）である。面径10.6㎝。鏡背文様は、内区に、円紐及び紐座の周囲に八連弧文帯、斜行櫛歯文帯、銘帯、斜行櫛歯文帯を、さらに外区には鋸歯文帯、圏線、複線波状文帯を配し、平縁としている。銘帯には、「内而青而以而□而明而光□□而日」（□は欠落。順に「召」、「而」、「夫」が該当する）の15文字が記されている。

鉄斧は、現存長5.0㎝、刃幅3.1㎝を測る。身を折り返して袋部を作ったいわゆる袋状鉄斧の類である。頭部は一部破損する。

素環頭刀子は、全長19.1㎝、刃幅1.4㎝、環頭外径2.8㎝を測る。環頭が完全な環にならず、刀身と離れているところに特徴がある。舶載品と考えられる。

ガラス小玉は536箇ある。径が2.45～5.40㎜と不揃いで、コバルトブルーのもの（531個）と、径4.05～4.80㎜を測る大粒のグリーンのもの（５個）の二種類に分かれる。これを連結すると長さ139.7㎝となり、出土状況から三重の首飾りになると思われる。

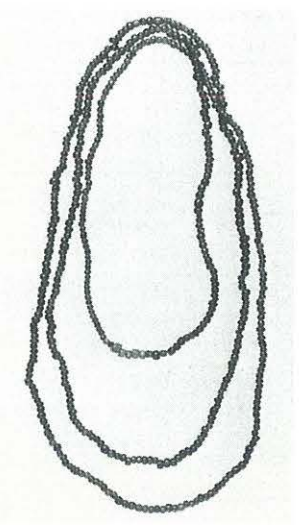
〈参考文献〉福岡市教育委員会　1974　『宝満尾遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第28集



1．４号土壙墓出土前漢鏡

2．６号土壙墓出土鉄斧

3．13号土壙墓出土素環頭刀子



4．15号土壙墓出土ガラス製小玉

福岡市指定文化財一覧

平成11年度現在

区分	総数		有形文化財		無形文化財		有形民俗文化財		無形民俗文化財		記念物	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
総数	315	3745	218	3341	17	21	24	324	21	21	35	38
国指定	98 (6)	791 (6)	76 (6)	769 (6)	9 (0)	9 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	12	12
県指定	98	289	61	164	5	9	16	108	8	8	8	8
市指定	119	2665	81	2416	3	3	8	216	12	12	15	18

福岡市の史跡一覧

平成10年3月31日現在

区分	史跡名称	所在地	指定年月日	指定面積	時代
国1	丸隈山古墳	西区周船寺	昭和3年2月7日	3,354.88㎡	
国2	元寇防塁		追加指定昭和63年3月15日 昭和6年3月30日 追加指定昭和56年3月16日	1,547.37㎡ 165,104.00㎡ 43,908.00㎡	古墳時代 鎌倉時代
	a 地蔵松原	東区筥松			
	b 地行	中央区地行			
	c 西新	早良区西新			
	d 百道	早良区百道			
	e 脇	西区小戸			
	f 向浜	西区小戸			
	g 生の松原(姪浜)	西区姪浜			
	h 生の松原	西区生の松原			
	i 青木	西区青木			
	j 横浜	西区横浜			
	k 今津	西区今津、長浜			
国3	福岡城跡	中央区城内	昭和32年8月29日 追加指定昭和57年10日14日	479,384.00㎡ 3,112.00㎡	江戸時代
国4	大塚古墳	西区今宿	昭和42年12月15日	8,098.73㎡	古墳時代
国5	聖福寺境内	博多区御供所町	昭和44年11月7日	78,392.38㎡	鎌倉時代
国6	金隈遺跡	博多区金隈	昭和47年5月17日	12,227.00㎡	弥生時代
国7	野方遺跡	西区野方	昭和57年6月27日	21,166.00㎡	弥生時代
国8	板付遺跡	博多区板付	昭和51年6月21日	27,796.44㎡	弥生時代
国9	今山遺跡	西区横浜	平成5年11月12日	79,401.66㎡	弥生時代
国10	吉武高木遺跡	西区吉武	平成6年10月4日	24,988.00㎡	弥生時代
県1	枯野塚 附哺川墓、句碑、寄附碑	東区馬出	昭和31年7月28日	27.39㎡	江戸時代
県2	比恵環溝住居遺跡	博多区駅南	昭和35年1月12日	615.50㎡	弥生時代
県3	亀井(南冥・昭陽)家の墓	中央区地行	昭和38年5月4日		江戸時代
県4	宮崎安貞墓附宮崎安貞自書斎1棟	西区周船寺	昭和40年4月6日		江戸時代
県5	元岡瓜尾貝塚	西区元岡	昭和43年2月3日	180.00㎡	縄文時代
市1	東光院境内	博多区吉塚	昭和49年8月12日	5,506.00㎡	江戸時代
市2	平尾山荘	中央区平尾	昭和49年8月12日	3,701.00㎡	江戸時代
市3	今里不動古墳	博多区金隈	昭和62年3月30日		古墳時代
市4	夫婦塚2号墳	西区金武	平成1年3月30日	634.00㎡	古墳時代
市5	能古焼古窯跡	西区能古	平成2年3月29日	1,946.00㎡	江戸時代
市6	梅林古墳	城南区梅林	平成3年3月30日	818.50㎡	古墳時代
市7	那珂八幡古墳	博多区那珂	平成4年3月23日	3,765.81㎡	古墳時代
市8	草場古墳群(古墳4基)	西区下山門	平成4年3月23日	1,465.00㎡	古墳時代
市9	那珂遺跡	博多区那珂	平成5年3月25日	592.00㎡	弥生時代
市10	若八幡古墳	西区徳永	平成5年3月25日	17,118.00㎡	古墳時代
市11	福岡藩士栗田家墓所	博多区御供所	平成7年3月30日	1,600.00㎡	江戸時代
市12	福岡藩主黒田家墓所	博多区千代	平成8年3月25日	4,234.00㎡	江戸時代
市13	山の鼻1号古墳	西区徳永	平成8年3月25日	8,367.00㎡	古墳時代

平成11年度刊行　福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書一覧表

集	書名及び副題	掲載遺跡調査番号
621	香椎Ｂ遺跡　香椎住宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	9503・9623・9677・9740・9779・9806
622	香椎Ａ遺跡２　香椎Ａ遺跡群第３次発掘調査概要	9821
623	部木古墳群	
624	吉塚祝町遺跡　吉塚祝町遺跡第１次調査の概要	9723
625	箱崎９・比恵甕棺遺跡 箱崎遺跡群第14次・比恵甕棺遺跡第１次発掘調査報告	9802・9815
626	堅粕４　堅粕遺跡群第９次発掘調査報告	9775
627	博多69　博多遺跡群第103次発掘調査報告	9754
628	博多70　博多105次調査の報告	9767
629	博多71　博多遺跡群第109次調査報告	9822
630	博多72　博多遺跡群第110次調査の報告	9827
631	博多73	9859
632	博多74	9845
633	上月隈遺跡群２　第２次調査報告	9805
634	上月隈遺跡群３　第３次調査報告	9863
635	雀居５	9435・9506
636	東比恵三丁目遺跡	9726
637	東那珂遺跡３・烏田遺跡１	9820
638	那珂24　那珂遺跡群第64次調査報告	9741
639	那珂25　那珂遺跡群第65次調査の概要	9861
640	板付周辺遺跡調査報告書21集	7842・7843
641	南八幡遺跡５　南八幡遺跡第９次調査の概要	9814
642	笹原遺跡２　笹原遺跡群第２次発掘調査概要	9841
643	麦野Ｃ遺跡　麦野Ｃ遺跡第５次調査概要	9856
644	井尻Ｂ遺跡７　井尻Ｂ遺跡群第11次調査の報告	9809
645	井尻Ｂ遺跡８　井尻Ｂ遺跡群第12次調査の報告	9865
646	曰佐遺跡	8638
647	田島・田島小松浦遺跡	9762・9801・9830
648	梅林遺跡第１次調査 一般国道202号福岡外環状道路及び福岡市営地下鉄３号線建設に伴う発掘調査	9742
649	有田・小田部33　有田遺跡群第189次の調査	9803
650	吉武遺跡ＸⅡ 飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書６―弥生代墳墓の報告３―	8102・8234・8335・8416・8518・8535
651	有田・小田部34	
652	入部Ｘ	9165
653	内野遺跡	9773・9826
654	ＪＲ筑肥線複線化地内埋蔵文化財調査報告書 周船寺遺跡第10次・飯氏遺跡第９次・蓮町遺跡第２次・今宿遺跡第５次・生の松原遺跡第１次の報告	9765・9825・9825・9708・9734
655	周船寺遺跡群３	9768
656	小田Ｃ遺跡	9808
657	有田・小田部３５	9914・9924・9625・9721・9727・9832
658	井相田Ｃ遺跡５　井相田Ｃ遺跡第３次調査報告書	8926
659	那珂26	9932
	福岡市埋蔵文化財年報　VOL.13　平成10（1998）年度版	

福岡市埋蔵文化財年報
VOL.14
平成11年(1999)度版

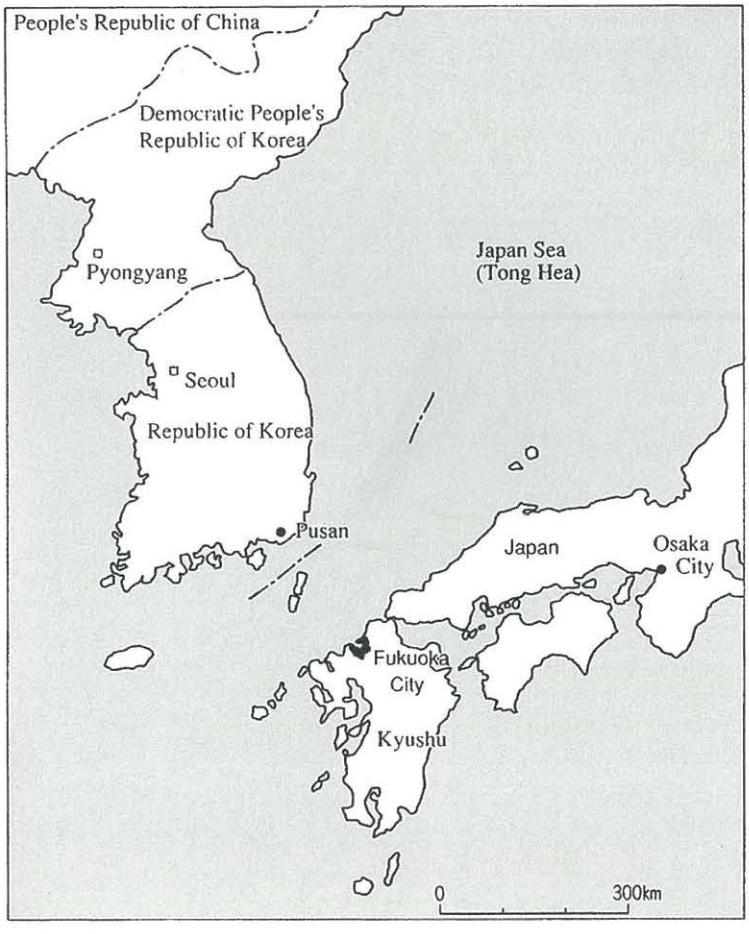
発　行　日　平成13年３月30日
編集・発行　福岡市教育委員会文化財部
埋蔵文化財課
福岡市中央区天神１丁目８－１
TEL 092－711－4667
印　　刷　明和印刷有限会社
福岡市早良区原１丁目30番30号
TEL 092－821－5583

THE ANNUAL REPORT

OF

THE BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

VOLUME 14



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

MARCH 2001

JAPAN